

静岡県 富士市

富士市内遺跡発掘調査報告書

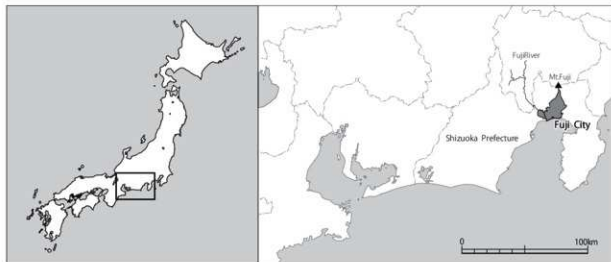
—令和5年度—

2025年3月

富士市教育委員会

例 言

- 1 本書は、富士市教育委員会が令和5年度に静岡県富士市内において実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。ただし、一部には令和5年度以前に実施された天間沢遺跡の調査成果の報告も含んでいる。
- 2 令和5年度の発掘調査は、富士市教育委員会教育長を主体者として実施し、実務は富士市教育委員会文化財課職員がこれにあたった。調査体制、担当者は第1章第1節に譲る。
令和5年度の調査の一部は『国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を得て実施した。
- 3 本書の編集は、佐藤祐樹（富士市教育委員会文化財課主幹）による。第1章は調査を担当した佐藤・藤村 翔（富士市教育委員会文化財課主査）による調査所見をもとに佐藤・若林美希（富士市教育委員会文化財課文化財調査員）、第2章は第1節および第2～8節の遺物部分を佐原芳郎（富士市教育委員会文化財課文化財調査員）、第2～8節の遺構部分を若林が執筆した。
第3章は村井咲月氏（南山大学大学院人間文化研究科修士課程）から玉稿を賜った。
- 4 令和5年度の現地調査における記録写真は佐藤・藤村が撮影した。天間沢遺跡の記録写真は各調査担当者による。整理作業における遺物写真は佐藤が撮影した。第3章の遺物写真は村井氏による。
- 5 本書の作成にあたり、多くの皆様からの御指導、御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）
池谷初恵 上峯篤史 滝沢 誠 若狭 徹
- 6 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会（富士市埋蔵文化財調査室・富士市伝法 79-2）で保管している。今後、富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館・富士市伝法 66-2）に移管する予定でいる。



静岡県富士市の位置

凡 例

- 本書で示す座標は、平面直角座標Ⅷ系を用いた国土座標、世界測地系（平成14年4月施行）を使用している。
- 令和5年度の調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。
- 天間沢遺跡の調査は、任意の座標で測量し、世界測地系に合成した。
- 2 挿図の縮尺は、各国に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。
- 3 土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。
- 縄文土器・弥生土器・土師器  須恵器  灰釉陶器・陶器 
- 4 土層・遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修）に準拠した。
- 5 遺構・遺物ともに、法量の（ ）は残存値、〔 〕は推定値である。また、土器の残存率は図示中での残存率を示した。
- 6 遺構の略記号は以下の通りである。
- SB：堅穴建物 SD：溝状遺構 SK：土坑 Pit：小穴 SX：不明遺構 FP：炉穴 SU：埋甕
- SS：配石 Tr：トレンチ L：水準高
- 7 遺構図は、以下の基準に則り記載した。

《直読調査・試掘調査》

《線》

線種	線色	（トーン）
遺構上端（掘出）	0.15 mm K100%	
遺構中端	0.075 mm K100%	
遺構下端	0.05 mm K100%	
カクラン	0.05 mm K100%	
（掘削 2 mm 0.8 mm 0.5 mm 0.3 mm）		
トレンチ上端	0.2 mm K100%	
トレンチ中端	0.15 mm K100%	
トレンチ下端	0.1 mm K100%	
調査地区	0.2 mm K100%	

《断面調査》

《線》

線種	線色	（トーン）
Y	地表面	0.15 mm K100%
Y	遺構外形線	0.2 mm K100%
Y	分層線	0.1 mm K100%
---	カクラン	0.1 mm K100%
---	（掘削 2 mm 0.8 mm 0.5 mm 0.3 mm）	
-----	掘削停止面	0.1 mm K100%
	（断面 1 mm 0.5 mm）	

《土器》

線種	線色	（土器）
Y	地表面	0.15 mm K100%
Y	遺構外形線	0.2 mm K100%
Y	分層線	0.1 mm K100%
---	切りあう遺構	0.1 mm K100%
---	カクラン	0.1 mm K100%
---	（掘削 2 mm 0.8 mm 0.5 mm 0.3 mm）	
-----	掘削停止面	0.1 mm K100%
	（断面 1 mm 0.5 mm）	

《石・金属など》

線種	線色	（石・金属など）
Y	地表面	0.15 mm K100%
Y	遺構外形線	0.2 mm K100%
Y	分層線	0.1 mm K100%
---	切りあう遺構	0.1 mm K100%
---	カクラン	0.1 mm K100%
---	（掘削 2 mm 0.8 mm 0.5 mm 0.3 mm）	
-----	掘削停止面	0.1 mm K100%
	（断面 1 mm 0.5 mm）	

《トーン》

線種	線色	（トーン）
K9%	硬化石	
K40%	粘土	
K30%	焼土	
K100%	炭化物	

- 8 第1章で報告する出土遺物の評価については、主として次の文献に基づいて検討した。

佐藤祐樹 2021「東駿河における古墳時代の土器様相」『地域と考古学』II 向坂鋼二先生米寿記念論集
鈴木敏則 2004「静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会
藤村 翔 2021「駿河国富士郡域における土師器の変遷」『地域と考古学』II 向坂鋼二先生米寿記念論集

- 9 第2章天間沢遺跡出土の縄文土器は以下のように分類した。

I群土器

縄文時代早期の土器をI群とした。時期としては早期後葉の条痕文系土器群のみである。

I群A類は、胎土に繊維および石英や青灰色の砂粒を多く含み、黒灰褐色を呈す。その多くは内面に条痕を施し、口唇近くの口縁部に1段、さらに弱く2段の段をもつ。この段部分を文様帯とし、爪形の連続刺突文で三角および斜行文を施文する。口唇の刻みと、口縁内部にも口唇に並行して連続刺突を行うものがほとんどで、波状口縁や二対の注口のような酒杯状把手をもつものがある。出土地点もほぼQ地区に限定される。茅山下層式並行の東海系土器であるハッ崎I式に比定した。

I群B類は、A類より厚めで繊維を含む量が少なく、全体として赤みを帯びA類に比べて明るい胎土の土器である。棒状工具による斜め刺突と、平行押しき文による直線と弧線文が施文される。この土器にはまだ型式名は付与されていないが、愛鷹山山麓のいくつかの遺跡にて検出例が知られており、茅山下層式並行の土器と考えられている。

II群土器

縄文時代前期の土器をII群とした。

II群A類は、器壁が非常に薄く、細線を地文とする土器をあてた。本島式に比定した。

III群土器

縄文時代中期の土器をIII群とした。中期中葉から後葉まで、ほぼ連続して続いている。天間沢遺跡の主体となる時期で、特に中期後葉が量・質ともに充実している。

III群A-1類は、隆帯による立体的な造形を特徴とする、膳板式の範疇の土器をあてた。期的には新道式から井戸尻式まで出土している。完形品は無く、把手等の部分的なものが目立つ。

III群A-2類は、隆帯と条線文によって文様を構成する土器群をあてた。天間沢遺跡で最も多く出土し、その主体となる土器群である。曾利式土器に比定したが、曾利IV・V式が大半を占める。

III群B-2類は、隆帯と縄文で文様が構成される土器群を充てた。縄文が施文されていても文様構成がA-2類にあたるものはA-2類としている。加曾利E式に比定した。

III群C-2類は、薄手で灰白色系の色調を持ち、燃糸文を地文に、並行沈線による弧線文と渦巻文を組み合わせた文様をもつ。咲畑式に比定した。

III群D-2類は、薄手で灰白色系の色調を持ち、口縁部文様帯に隅丸長方形の楕円文を施文する。北白川C式に比定した。

IV群土器

縄文時代後期の土器をIV群とした。III群から断続なく続いていると考えられるが、多くはE地区に集中している。

IV群A-1類は、器面全体を、並行沈線による弧線や直線で描画し、磨消縄文、あるいは並行沈線内を列点文で

充填するものをあてた。称名寺式に比定した。

IV群 A-2 類は、小型巻貝の殻頂かと思われる刺突と沈線、および細かい縄文で文様を構成し、磨消縄文による帯縄文を多用して、器面を精緻な研磨で整形するものをあてた。堀之内式に比定した。

IV群 B-2 類は、やや厚めの器壁をもち、太い縄文原体を用いた付加条縄文を表面全体に施した粗製の深鉢土器およびそれに類似する土器をあてた。

IV群 A-3 類は、磨消縄文と「の」字文で文様を描き、裏面口縁部に沈線を施文、器面を精緻な研磨で整形する土器をあてた。加曾利 B 式に比定した。

IV群 C 類は、胎土が灰白色傾向で、器厚が薄く砂粒を多く含む、西日本系と思われるものをあてた。

10 縄文土器の編年は、以下の文献を参考基準とした。(年代順)

戸沢充則 編 1994 『縄文時代研究事典』東京堂出版

今福利恵 ほか 1999 「2 縄文時代の編年」『山梨県史 資料編 2 原始古代 2 考古(遺構・遺物)』山梨県

縄文時代文化研究会 編 1999 『縄文時代文化研究の 100 年 -21 世紀における縄文時代文化研究の深化に向けて- 縄文時代 第 10 号』縄文時代文化研究会

小林達雄 編 2008 『総覧 縄文土器』アム・プロモーション

目 次

例 言

凡 例

目 次

第 1 章 令和 5 年度の調査

第 1 節	調査体制と調査概要	1
第 2 節	確認調査の報告	5
第 3 節	埋蔵文化財包蔵地の内容変更	63

第 2 章 天間沢遺跡の調査

第 1 節	天間沢遺跡の概要	65
第 2 節	Q 地区（第 17 地区）の調査	71
第 3 節	R 地区・V 地区（第 18 地区・第 22 地区）の調査	93
第 4 節	S 地区（第 19 地区）の調査	96
第 5 節	T 地区（第 20 地区）の調査	101
第 6 節	U 地区（第 21 地区）の調査	103
第 7 節	横道下地区（第 23 地区）の調査	106
第 8 節	表面採集資料等の報告	124

第 3 章 資料報告

静岡県富士市破魔射場遺跡出土の黒曜岩製尖頭器（村井 咲月）	127
-------------------------------	-----

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 章 令和 5 年度の調査

第 1 節 調査体制と調査概要

第 1 図	令和 5 年度 調査地の位置と地形区分図	2
第 2 節	確認調査の報告	
第 2 図	中野中田道跡第 4 地区 位置図	5
第 3 図	中野中田道跡第 4 地区 トレンチ配置図、セクション図	5
第 4 図	岡下道跡 Q 地区 位置図	6
第 5 図	岡下道跡 Q 地区 トレンチ配置図、セクション図	6
第 6 図	東平道跡第 156 地区 位置図	7
第 7 図	東平道跡第 156 地区 トレンチ配置図、セクション図	7
第 8 図	中原道跡第 33 地区 位置図	8
第 9 図	中原道跡第 33 地区 トレンチ配置図	8
第 10 図	中原道跡第 33 地区 セクション図	9
第 11 図	三新田道跡 Q 地区 位置図	9
第 12 図	三新田道跡 Q 地区 トレンチ配置図、セクション図	10
第 13 図	舟久保道跡第 77 地区 位置図	10
第 14 図	舟久保道跡第 77 地区 トレンチ配置図、セクション図	10
第 15 図	天間沢道跡第 72 地区 位置図	11
第 16 図	天間沢道跡第 72 地区 トレンチ配置図、セクション図	11
第 17 図	龜塚道跡第 1 地区 位置図	12
第 18 図	龜塚道跡第 1 地区 トレンチ配置図	12
第 19 図	龜塚道跡第 1 地区 トレンチ平面図、セクション図	13
第 20 図	善得寺庵寺跡第 9 地区 位置図	13
第 21 図	善得寺庵寺跡第 9 地区 トレンチ配置図、セクション図	13
第 22 図	川座道跡第 7 地区 位置図	14
第 23 図	川座道跡第 7 地区 トレンチ配置図	14
第 24 図	川座道跡第 7 地区 トレンチ平面図、セクション図	15
第 25 図	児森道跡第 4 地区 位置図	15
第 26 図	児森道跡第 4 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	16
第 27 図	東平道跡第 158 地区 位置図	17
第 28 図	東平道跡第 158 地区 トレンチ配置図、セクション図	17
第 29 図	富士岡 1 古墳群第 20 地区 位置図	17
第 30 図	富士岡 1 古墳群第 20 地区 トレンチ配置図	18
第 31 図	富士岡 1 古墳群第 20 地区 トレンチ平面図、セクション図	18
第 32 図	比奈 1 古墳群第 12 地区 位置図	19
第 33 図	比奈 1 古墳群第 12 地区 トレンチ配置図	19
第 34 図	比奈 1 古墳群第 12 地区 セクション図	20
第 35 図	神田道跡第 170 次調査地点 位置図	20
第 36 図	神田道跡第 170 次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	21
第 37 図	川坂道跡第 14 地区 位置図	21
第 38 図	川坂道跡第 14 地区 トレンチ配置図、セクション図	22
第 39 図	東平道跡第 121 地区 位置図	22
第 40 図	東平道跡第 121 地区 トレンチ配置図、セクション図	23
第 41 図	国久保道跡第 13 地区 位置図	23
第 42 図	国久保道跡第 13 地区 出土遺物実測図	23
第 43 図	国久保道跡第 13 地区 トレンチ配置図、セクション図	24
第 44 図	国久保道跡第 14 地区 位置図	24
第 45 図	国久保道跡第 14 地区 トレンチ配置図、セクション図	24
第 46 図	神谷古墳群第 13 地区 位置図	25
第 47 図	神谷古墳群第 13 地区 出土遺物実測図	25
第 48 図	神谷古墳群第 13 地区 トレンチ配置図、セクション図	26
第 49 図	神谷古墳群第 13 地区 S212 平面図、セクション図	27
第 50 図	沢東 A 道跡第 31 次調査地点 位置図	28

第 51 図	沢東 A 道跡第 31 次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	28
第 52 図	厚原横道下道跡第 7 地区 位置図	29
第 53 図	厚原横道下道跡第 7 地区 トレンチ配置図、セクション図	29
第 54 図	柏原道跡第 22 地区 位置図	29
第 55 図	柏原道跡第 22 地区 トレンチ配置図、セクション図	30
第 56 図	天間沢道跡第 73 地区 位置図	30
第 57 図	天間沢道跡第 73 地区 トレンチ配置図、セクション図	30
第 58 図	宇東川道跡第 34 地区 位置図	31
第 59 図	宇東川道跡第 34 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図	31
第 60 図	宇東川道跡第 34 地区 セクション図	32
第 61 図	宇東川道跡第 34 地区 出土遺物実測図	32
第 62 図	外原道跡第 1 地区 位置図	33
第 63 図	外原道跡第 1 地区 トレンチ配置図、セクション図	33
第 64 図	富士岡 1 古墳群第 21 地区 位置図	33
第 65 図	富士岡 1 古墳群第 21 地区 トレンチ配置図、セクション図	34
第 66 図	東平道跡第 159 地区 位置図	34
第 67 図	東平道跡第 159 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	34
第 68 図	舟久保道跡第 78 地区 位置図	35
第 69 図	舟久保道跡第 78 地区 トレンチ配置図、セクション図	35
第 70 図	善得寺城跡・東泉院跡第 10 地区 位置図	35
第 71 図	善得寺城跡・東泉院跡第 10 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	36
第 72 図	善得寺城跡・東泉院跡第 10 地区 出土遺物実測図	37
第 73 図	神田道跡第 171 次調査地点 位置図	37
第 74 図	神田道跡第 171 次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	37
第 75 図	国久保道跡第 6 地区 位置図	38
第 76 図	国久保道跡第 6 地区 出土遺物実測図	38
第 77 図	国久保道跡第 6 地区 トレンチ配置図	38
第 78 図	国久保道跡第 6 地区 トレンチ平面図、セクション図	39
第 79 図	中野道跡第 2 地区 位置図	39
第 80 図	中野道跡第 2 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	40
第 81 図	中野道跡第 2 地区 出土遺物実測図	41
第 82 図	花守道跡第 10 地区 位置図	41
第 83 図	花守道跡第 10 地区 トレンチ配置図、セクション図	42
第 84 図	東平道跡第 160 地区 位置図	42
第 85 図	東平道跡第 160 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図	43
第 86 図	東平道跡第 160 地区 2Tb 遺構平面図、セクション図	44
第 87 図	東平道跡第 160 地区 出土遺物実測図	45
第 88 図	弥生ノ前道跡第 8 地区 位置図	46
第 89 図	弥生ノ前道跡第 8 地区 トレンチ配置図、セクション図	46
第 90 図	東平道跡第 161 地区 位置図	47
第 91 図	東平道跡第 161 地区 トレンチ配置図、セクション図	47
第 92 図	東下天間古墳群第 1 地区 位置図	47
第 93 図	東下天間古墳群第 1 地区 トレンチ配置図	48
第 94 図	東下天間古墳群第 1 地区 セクション図	49
第 95 図	天間沢道跡第 74 地区 位置図	50
第 96 図	天間沢道跡第 74 地区 トレンチ配置図、セクション図	50
第 97 図	天間沢道跡第 75 地区 位置図	51
第 98 図	天間沢道跡第 75 地区 トレンチ配置図、セクション図	51
第 99 図	三新田道跡第 4 地区 位置図	52

第100図	三新田遺跡 R 地区 トレンチ配置図、セクション図	52	第141図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ①	84
第101図	富士岡 1 古墳群第22地区 位置図	53	第142図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ②	85
第102図	富士岡 1 古墳群第22地区 トレンチ配置図、セクション図	53	第143図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ③	86
第103図	厚原遺跡第11地区 位置図	54	第144図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ④	87
第104図	厚原遺跡第11地区 トレンチ配置図、セクション図	54	第145図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ⑤	88
第105図	東平遺跡第143地区 位置図	55	第146図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ⑥	89
第106図	東平遺跡第143地区 トレンチ配置図、セクション図	55	第3節 R 地区・V 地区 (第18地区・第22地区) の調査		
第107図	沢上遺跡第7次調査地点 位置図	56	第147図	天間沢遺跡 R 地区・V 地区 位置図	93
第108図	沢上遺跡第7次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	56	第148図	天間沢遺跡 R 地区 トレンチ配置図、セクション図	94
第109図	東平遺跡第162地区 位置図	56	第149図	天間沢遺跡 V 地区 トレンチ配置図、セクション図	95
第110図	東平遺跡第162地区 トレンチ配置図、セクション図	57	第4節 S 地区 (第19地区) の調査		
第111図	中根・中ノ坪遺跡第24地区 位置図	57	第150図	天間沢遺跡 S 地区 位置図	96
第112図	中根・中ノ坪遺跡第24地区 トレンチ配置図、セクション図	58	第151図	天間沢遺跡 S 地区 トレンチ配置図、セクション図	97
第113図	東平遺跡第163地区 位置図	58	第152図	天間沢遺跡 S 地区 出土遺物実測図 ①	98
第114図	東平遺跡第163地区 トレンチ配置図、セクション図	59	第153図	天間沢遺跡 S 地区 出土遺物実測図 ②	99
第115図	舟久保遺跡第79地区 位置図	60	第154図	天間沢遺跡 S 地区 出土遺物実測図 ③	99
第116図	舟久保遺跡第79地区 トレンチ配置図、セクション図	60	第5節 T 地区 (第20地区) の調査		
第117図	中島遺跡第17地区 位置図	60	第155図	天間沢遺跡 T 地区 位置図	101
第118図	中島遺跡第17地区 トレンチ配置図、セクション図	61	第156図	天間沢遺跡 T 地区 トレンチ配置図、セクション図	102
第119図	水神堂遺跡第4地区 位置図	61	第6節 U 地区 (第21地区) の調査		
第120図	水神堂遺跡第4地区 トレンチ配置図、セクション図	62	第157図	天間沢遺跡 U 地区 位置図	103
第3節 埋蔵文化財包蔵地の内容変更			第158図	天間沢遺跡 U 地区 トレンチ配置図	104
第121図	神谷古墳群の内容変更	63	第159図	天間沢遺跡 U 地区 セクション図	105
第122図	富士岡 3 古墳群・富士岡 4 古墳群の内容変更	64	第7節 横道下地区 (第23地区) の調査		
第2章 天間沢遺跡の調査			第160図	天間沢遺跡横道下地区 位置図	106
第1節 天間沢遺跡の概要			第161図	天間沢遺跡横道下地区 全体図、セクション図	107
第123図	天間沢遺跡 標準土層	65	第162図	天間沢遺跡横道下地区 セクション図	108
第124図	天間沢遺跡の位置	65	第163図	天間沢遺跡横道下地区 b 地区全体図、セクション図	109
第125図	天間沢遺跡 調査履歴図	66	第164図	天間沢遺跡横道下地区 b 地区遺構平面図、セクション図 ①	110
第126図	天間沢遺跡 遺構分布状況図	67	第165図	天間沢遺跡横道下地区 b 地区遺構平面図、セクション図 ②	111
第2節 Q 地区 (第17地区) の調査			第166図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ①	112
第127図	天間沢遺跡 Q 地区 位置図	71	第167図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ②	113
第128図	天間沢遺跡 Q 地区 トレンチおよび本調査区配置図	72	第168図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ③	114
第129図	天間沢遺跡 Q 地区 トレンチ全体図	73	第169図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ④	115
第130図	天間沢遺跡 Q 地区 トレンチセクション図	74	第170図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑤	116
第131図	天間沢遺跡 Q 地区 1Tr 遺構平面図、セクション図	76	第171図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑥	117
第132図	天間沢遺跡 Q 地区 2Tr 遺構平面図、セクション図	77	第172図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑦	118
第133図	天間沢遺跡 Q 地区 4Tr 遺構平面図、セクション図	77	第173図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑧	119
第134図	天間沢遺跡 Q 地区 3Tr 遺構平面図、セクション図	78	第8節 表面採集資料等の報告		
第135図	天間沢遺跡 Q 地区 7Tr 遺構平面図、セクション図 ①	78	第174図	天間沢遺跡表面採集資料等 実測図	125
第136図	天間沢遺跡 Q 地区 7Tr 遺構平面図、セクション図 ②	79	第3章 資料報告		
第137図	天間沢遺跡 Q 地区 本調査区セクション図	79	静岡県富士市破魔射場遺跡出土の黒曜岩製尖頭器 (村井 咲月)		
第138図	天間沢遺跡 Q 地区 本調査区全体図	80	第1図	破魔射場遺跡の位置	127
第139図	天間沢遺跡 Q 地区 本調査区 遺構平面図、セクション図 ①	81	第2図	破魔射場遺跡の基本土層図	127
第140図	天間沢遺跡 Q 地区 本調査区 遺構平面図、セクション図 ②	82	第3図	割れ速度と割削方法の関係	128
			第4図	ガルウィングの聞き角と割れ速度の関係	128
			第5図	破魔射場遺跡出土尖頭器の 金属顕微鏡による観察箇所	129
			第6図	破魔射場遺跡出土尖頭器の 熱熱痕跡が確認された割削痕	130
			図版 1		133
			図版 2		134

挿表目次

第1章 令和5年度の調査

第1節 調査体制と調査概要

第1表 文化財保護法に基づく各届出の件数一覧表	1
第2表 令和5年度 発掘調査一覧表	3

第2節 確認調査の報告

第3表 国久保遺跡第13地区 出土遺物観察表	24
第4表 神谷古墳群第13地区 出土遺物観察表	25
第5表 宇東川遺跡第34地区 出土遺物観察表	32
第6表 善寿寺埴跡・東泉院跡第10地区 出土遺物観察表	37
第7表 国久保遺跡第6地区 出土遺物観察表	39
第8表 中野遺跡第2地区 出土遺物観察表	41
第9表 東平遺跡第160地区 出土遺物観察表	45

第3節 埋蔵文化財包蔵地の内容変更

第10表 埋蔵文化財包蔵地 登録内容の変更	63
-----------------------	----

第2章 天間沢遺跡の調査

第1節 天間沢遺跡の概要

第11表 天間沢遺跡調査履歴	68
----------------	----

第2節 Q地区（第17地区）の調査

第12表 天間沢遺跡Q地区 遺構一覧表	82
第13表 天間沢遺跡Q地区 出土土器観察表	89
第14表 天間沢遺跡Q地区 出土石器観察表	92
第15表 天間沢遺跡Q地区 出土金属製品観察表	92

第4節 S地区（第19地区）の調査

第16表 天間沢遺跡S地区 出土土器観察表	100
第17表 天間沢遺跡S地区 出土石器観察表	100

第7節 横道下地区（第23地区）の調査

第18表 天間沢遺跡横道下地区（第23地区） 出土土器観察表	120
第19表 天間沢遺跡横道下地区（第23地区） 出土石器観察表	122

第8節 表面採集資料等の報告

第20表 天間沢遺跡表面採集資料等 土器観察表	124
第21表 天間沢遺跡表面採集資料等 石器観察表	124

写真図版目次

PL.1～19 第1章 令和5年度確認調査

PL.1	1. 中野神田遺跡 第4地区1次調査 2. 飛下遺跡 Q地区1次調査 3. 東平遺跡第156地区1次調査 4. 中原遺跡 第33地区1次調査
PL.2	5. 三新田遺跡 Q地区1次調査 6. 舟久保遺跡 第77地区1次調査 7. 天間沢遺跡 第72地区1次調査 8. 亀塚遺跡 第1地区1次調査
PL.3	9. 善得寺廃寺跡 第9地区1次調査 10. 川窪遺跡 第7地区2次調査・3次調査 12. 東平遺跡 第158地区1次調査
PL.4	11. 児森遺跡 第4地区1次調査 13. 富士岡1古墳群 第20地区1次調査
PL.5	14. 比奈1古墳群 第12地区1次調査・2次調査 15. 神田遺跡 第170次調査地点1次調査
PL.6	16. 川原遺跡 第14地区1次調査 17. 東平遺跡 第121地区2次調査 18. 国久保遺跡 第13地区1次調査 19. 国久保遺跡 第14地区1次調査
PL.7	20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査
PL.8	20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査
PL.9	20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査 21. 沢東A遺跡 第31次調査地点1次調査 22. 厚原横道下遺跡 第7地区1次調査
PL.10	23. 柏原遺跡 第22地区1次調査 24. 天間沢遺跡 第73地区1次調査 25. 宇東川遺跡 第34地区1次調査
PL.11	26. 外郎遺跡 第1地区1次調査 27. 富士岡1古墳群 第21地区1次調査 28. 東平遺跡 第159地区1次調査 29. 舟久保遺跡 第78地区1次調査
PL.12	30. 善得寺城跡・東泉院跡 第10地区1次調査・2次調査

PL.13	31. 神田遺跡 第171次調査地点1次調査 32. 国久保遺跡 第6地区2次調査 34. 花守遺跡 第10地区1次調査
PL.14	33. 中野遺跡 第2地区1次調査 36. 弥生ノ前遺跡 第8地区1次調査
PL.15	35. 東平遺跡 第160地区1次調査
PL.16	37. 東平遺跡 第161地区1次調査 38. 東下天間古墳群 第1地区1次調査 39. 天間沢遺跡 第74地区1次調査
PL.17	40. 天間沢遺跡 第75地区1次調査 41. 三新田遺跡 R地区1次調査 42. 富士岡1古墳群 第22地区1次調査 43. 厚原遺跡 第11地区1次調査
PL.18	44. 東平遺跡 第143地区2次調査 45. 沢上遺跡 第7次調査地点1次調査 46. 東平遺跡 第162地区1次調査 47. 中折・中ノ坪遺跡 第24地区1次調査
PL.19	48. 東平遺跡 第163地区1次調査 49. 舟久保遺跡 第79地区1次調査 50. 中島遺跡 第17地区1次調査 51. 水神堂遺跡 第4地区1次調査

PL.20～40 第2章 天間沢遺跡

PL.20～27	天間沢遺跡 Q地区
PL.28	天間沢遺跡 R地区 天間沢遺跡 V地区 天間沢遺跡 S地区
PL.29	天間沢遺跡 S地区
PL.30	天間沢遺跡 T地区 天間沢遺跡 U地区
PL.31～39	天間沢遺跡 横道下地区
PL.40	天間沢遺跡 表面採集資料等

第1章 令和5年度の調査

第1節 調査体制と調査概要

1 調査体制

令和5年度の埋蔵文化財発掘調査は、以下の体制で実施した。

〔調査主体〕

富士市教育委員会	教育長	森田 嘉幸
文化財課	課長	久保田 伸彦
文化財活用担当	統括主幹	石川 武男
文化財活用担当	主 幹	瀧浪 和美

〔調査担当〕

文化財活用担当	主 幹	佐藤 祐樹
文化財活用担当	主 査	藤村 翔
文化財調査員		佐原 芳郎
		小島 利史
		若林 美希
発掘調査作業員		渡辺 美規子

2 発掘調査の概要

縄文時代 令和5年度に調査した中では、特に注目すべき調査はないが、次章で報告する昭和57年に実施した天間沢遺跡Q地区（17地区）の調査が注目される。調査では、縄文時代早期後葉の土器型式で、東海地方を中心に関東から関西まで分布しているハッ崎1式の土器がまとまって出土している。特に器形のわかる個体は近隣でも、例が少なく貴重な調査例と言える。

弥生時代 中野遺跡ではこれまでも弥生時代後期の方形周溝墓やガラス勾玉などが出土しており、隣接地での試掘調査を実施した（39頁）。その結果、弥生時代後期の遺物・炉跡が検出されたため、令和5年12月に中野遺跡の包蔵地範囲の追加および滅失をおこなった。

第1表 文化財保護法に基づく各届出の件数一覧表

		道路	鉄道	空港	河川	港湾	ダム	学校	住宅	個人住宅	工場	店舗	住宅兼	その他	宅地造成	土地地区画整理	公園造成	ゴルフ場	観光開発	ガス等	農業関係	土砂採取	その他	自然崩壊	遺跡地因作製等	保存目的	学術	遺跡整備	計
工事の届等	93条	現状保存																											
		発掘調査								1	91	2	2	1	4	4				88			1						194
		工事立会																											
		慎重工事																		43									46
		注意																											
		未指示																											
		計	0	0	0	0	0	0	0	1	94	2	2	1	4	4	0	0	0	131	0	0	0	1	0	0	0	0	240
	94条	現状保存																											
		発掘調査																						1					1
		工事立会	4															1		19									24
		慎重工事																		2									2
		注意																											
		未指示																											
		計	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	21	0	0	0	1	0	0	0	0	27
		合計	4	0	0	0	0	0	0	1	94	2	2	1	4	4	1	0	0	152	0	0	0	2	0	0	0	0	267
発掘届等	92条	確認調査																											
		本発掘調査																											
	99条	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		確認調査								2	24	1	3		4	4		3		2			13						56
		本発掘調査																		1									1
		計	0	0	0	0	0	0	0	2	24	1	3	0	4	4	0	3	0	3	0	0	13	0	0	0	0	0	57
		合計	0	0	0	0	0	0	0	2	24	1	3	0	4	4	0	3	0	3	0	0	13	0	0	0	0	0	57

古墳時代 令和5年度から継続的に確認調査を実施してきた比奈1古墳群第11地区の調査において、現地保存ができないため、記録保存を目的とした本発掘調査を実施した。調査は令和5年度に新規発見した横穴式石室墳である石切平第2号墳を対象に実施し、大刀や鉄鏝、馬具などが出土した。報告は今年度刊行する別冊による。

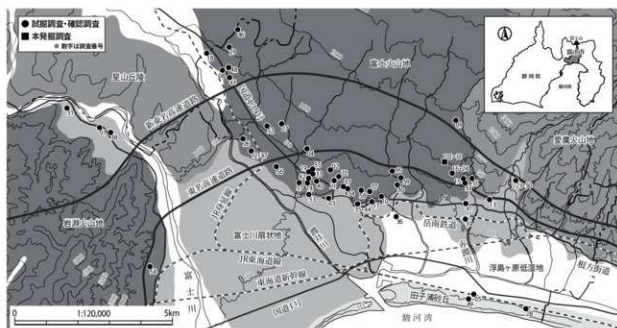
富士岡1古墳群第20地区の確認調査を実施し、横穴式石室墳の一部とみられる遺構を検出した(17頁)。古墳であれば、過去の分布調査で存在が確認されていた富士岡F第66号墳の奥壁部分とみられる。検出された石室の一部は現在も現地に保存されている。

市指定史跡千人塚古墳及びその一帯において実施する古墳整備工事に伴って、あらためて千人塚古墳の周溝幅などを確認するための調査をおこない、直径約21.0m、周溝幅約3.0mの円墳であることが確定した。また、南西部分に所在している集石の性格を把握するための調査を実施し、横穴式石室墳(SZJ-12/須津J-第12号墳)を検出した(25頁)。なお、千人塚古墳は昭和51年に市の史跡に指定されているが、令和6年6月19日に内容変更され、千人塚古墳を含めた周辺3基の古墳も市の史跡に指定され、指定名称を「千人塚古墳(須津J-第10号墳)附 須津J-第7・9・12号墳」となった。

古代 富士郡家である東平遺跡では第160地区において奈良時代から平安時代(10世紀まで)の遺構が濃密に分布する状況を確認した(42頁)。

中世 善得寺城跡・東泉院跡第10地区において、出土した土器のうち、土師器の内耳罐(37頁第72図3)は中世後期に遠江や西三河で多くみられる「くの字形」のものであり、富士市域では極めて希少な器種である。今川氏親の命で東泉坊が日吉宮(現日吉浅間神社)の造営を始めたのが15世紀末～16世紀初頭とみられており、今回の成果が当該地周辺の隆盛の一端を示す資料となる可能性がある。

史跡の保存・管理 令和5年度から2年間の計画で史跡浅間古墳保存活用計画の策定作業をおこなっている。浅間古墳を将来に渡って確実に継承していくためにも、墳丘上に存在する樹木を適切にコントロールすることが必要であり、そのためにはまず、浅間古墳に存在する樹木の基本的な情報である位置、樹種、高さ、太さなどを一覧で管理する必要があることから、令和6年3月20日に富士市教育委員会文化財課職員、公募で集まった市民総勢32名が、古墳上の樹木の樹種や高さなどの基本情報の取得を行った。これについては、令和7年度に刊行する浅間古墳保存活用計画書の中で詳細を報告する予定でいる。



第1図 令和5年度 調査地の位置と地形区分図

第2表 令和5年度 発掘調査一覧表

調査 番号	収収 番号	遺跡名 地籍名	調査 種別	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	調査 担当者
R05 -101	別当 本報告	比奈1古墳群 第11地区4次調査 【石切平第2号墳】	本	20240112 ～ 20240329	原田 1980-1 配水池築造	224.450	古墳	古墳(横穴式石室墳) ・土坑	土器・金属製品 ・ガラス製品 (古墳時代)	藤村
R05 -01	1章 2節3	中野井川遺跡 第4地区1次調査	確認	20230405 ～ 20230406	北松野 1883-1 外 店舗建設	1,024,000 79,727	古墳	なし	土器(古墳時代)	藤村・小島
R05 -02	1章 2節3	岡下遺跡 Q地区1次調査	確認	20230404	伝法 1944-1 不動産売買	1,310,000 16,782	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -03	1章 2節3	三日月庵寺跡 東平第156地区1次調査	確認	20230417	浅間本町 3423-3 外 共同住宅建設	1,072,900 3,345	なし	なし	なし	藤村・小島
R05 -04	1章 2節4	中原遺跡 第33地区1次調査	確認	20230410 ～ 20230412	伝法 444-1 外 工事建設	3,000,000 243,868	なし	なし	なし	藤村・小島 ・若林
R05 -05	1章 2節5	三新田遺跡 Q地区1次調査	確認	20230406	三新田 4-11 個人住宅建設	338,230 7,392	なし	なし	なし	藤村・若林
R05 -07	1章 2節6	舟久保遺跡 第77地区1次調査	確認	20230412	今泉六丁目 662-19 個人住宅建設	104,000 2,128	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -08	1章 2節7	天間沢遺跡 第72地区1次調査	確認	20230419	天間 1327-14 個人住宅建設	163,720 4,971	平安	なし	土器(平安時代)	佐藤・若林
R05 -09	1章 2節8	亀庄遺跡 開墾地【第1地区1次調査】	試掘	20230414	鶴舞ヶ池 43 外 不動産売買	1,310,000 23,396	なし	なし	なし	佐藤・小島
R05 -10	1章 2節9	善得寺庵寺跡 第9地区1次調査	確認	20230509	今泉三丁目 1067-1 個人住宅建設	370,530 3,636	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -11	別当 本報告	比奈1古墳群 第11地区3次調査	確認	20230418 ～ 20230419	原田 1980-1, 1979 配水池整備事業	2,604,000 116,316	なし	なし	なし	藤村・小島
R05 -12	1章 2節10	川原遺跡 第7地区2次調査	確認	20230426	厚原 185-1 不動産売買	1,316,000 6,821	なし	なし	なし	藤村・小島
R05 -13	1章 2節11	岩倉遺跡 第4地区1次調査	確認	20230427	中里 1379-2 宅地造成	353,000 22,930	古墳	溝・土坑・ピット	土器(古墳時代)	佐藤・若林
R05 -14	1章 2節12	東平遺跡 東平第158地区1次調査	確認	20230628	伝法 2795-4 外 個人住宅建設	87,150 7,048	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -15	1章 2節13	富士岡1古墳群 第20地区1次調査	確認	20230525 ～ 20230526	比奈 2819-1 個人住宅建設	318,440 6,165	古墳	古墳(横穴式石室墳)	なし	藤村・小島
R05 -16	1章 2節14	比奈1古墳群 第12地区1次調査	確認	20230605 ～ 20230607	比奈 2359-1 外 店舗建設	2,998,280 156,969	なし	なし	なし	藤村・小島 ・若林
R05 -17	1章 2節15	井田遺跡 第170次調査地点1次調査	確認	20230608	今泉二丁目 124-5 外 不動産売買	1,066,250 9,279	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -18	1章 2節16	川原遺跡 第14地区1次調査	確認	20230621	天間 845-6 外 不動産売買	380,050 17,983	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -19	1章 2節17	東平遺跡 東平第121地区2次調査	確認	20230613	伝法 2502-1 外 個人住宅建設	178,620 9,233	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -21	1章 2節18	国久保遺跡 第13地区1次調査	確認	20230614 ～ 20230615	国久保三丁目 2245-23 外 不動産売買	135,000 5,982	奈良・平安	なし	土器 (奈良時代・平安時代)	藤村・小島
R05 -22	1章 2節19	国久保遺跡 第14地区1次調査	確認	20230724	国久保二丁目 2003-6 外 個人住宅建設	198,000 5,247	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -23	1章 2節20	神谷古墳群 第13地区1次調査	確認	20230628 ～ 20230719	神谷 846-4 外 公園整備	1,231,000 33,563	古墳	古墳(横穴式石室墳)	土器(古墳時代)	藤村・小島
R05 -24	1章 2節21	比奈1古墳群 第12地区2次調査	確認	20230712 ～ 20230718	比奈 2359-1 外 店舗建設	2,998,280 58,430	なし	なし	なし	藤村・小島 ・若林
R05 -26	1章 2節22	沢東人遺跡 第31次調査地点1次調査	確認	20230817	久沢 180-2 不動産売買	618,450 14,555	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -27	1章 2節23	厚原橋下遺跡 第7地区1次調査	確認	20230728	厚原 1200-4 外 事務所建設	167,650 4,721	なし	なし	なし	佐藤・小島
R05 -28	1章 2節24	柏原遺跡 第22地区1次調査	確認	20230817 ～ 20230818	中柏原新田 187-1 外 不動産売買	493,210 13,340	古墳	なし	土器(古墳時代)	藤村・小島
R05 -29	1章 2節25	天間沢遺跡 第73地区1次調査	確認	20230828	天間 1022-4 個人住宅建設	473,570 14,221	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -30	1章 2節26	宇東川遺跡 第34地区1次調査	確認	20230824 ～ 20230825	原田 691-4 外 公園整備	1,731,000 50,484	縄文・古墳・ 奈良・平安	縄文遺構、土坑 ・土坑	土器 (縄文時代・古墳時代・ 奈良時代・平安時代)	藤村・小島
R05 -31	1章 2節27	外原遺跡 第1地区1次調査	確認	20230824	北松野 616-1 外 個人住宅建設	298,000 1,200	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05 -32	1章 2節28	富士岡1古墳群 第21地区1次調査	確認	20230830 ～ 20230831	比奈 1704-1 個人住宅建設	299,470 23,903	なし	なし	なし	藤村・小島
R05 -33	1章 2節29	東平遺跡 東平第159地区1次調査	確認	20230904	伝法 2505-1 個人住宅建設	128,900 10,440	なし	なし	なし	佐藤
R05 -34	1章 2節30	舟久保遺跡 第78地区1次調査	確認	20230829	今泉九丁目 1510-2 不動産売買	519,000 9,456	なし	なし	なし	佐藤・若林

調査番号	所収番号	道路名 地区名	調査種類	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	調査担当者
R05	1章	神谷寺域跡・東泉院跡	確認	20230911	今泉八丁目 1370-6 外 個人住宅建設	494,660 4,436	奈良・平安	なし	土器 (奈良時代・平安時代)	藤村・小島
R05	2部30	第10地区1次調査								
R05	1章	神田遺跡	確認	20231113	今泉495-3 外 富家所建設	2,167,380 5,490	なし	なし	なし	藤村・小島
R05	2部31	第171次調査地点1次調査								
R05	1章	国久保遺跡	確認	20230914	国久保一丁目 2120-6 外 不動産売買	561,450 17,958	奈良・平安	聖穴建物	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・若林
R05	2部32	第6地区2次調査								
R05	1章	中野遺跡	試掘	20231101	南松野 2465-1 不動産売買	784,000 56,347	弥生	土器 (弥生時代)	土器 (弥生時代)	藤村・小島
R05	2部33	岡地跡【第2地区1次調査】								
R05	1章	花守遺跡	確認	20231010	富士岡 225-1 外 集合住宅建設	496,370 18,036	なし	なし	なし	藤村・小島
R05	2部34	第10地区1次調査								
R05	1章	東平遺跡	確認	20231010 ～20231011	仏法 2452-1 外 個人住宅建設	775,160 84,620	奈良・平安	聖穴建物・土坑・ピット	土器・陶磁器 ・金属製品 (奈良時代・平安時代)	佐藤・飯田 ・若林
R05	2部35	東平第160地区1次調査								
R05	1章	新宮ノ南遺跡	確認	20231005	比奈 1619 個人住宅建設	496,370 3,203	なし	なし	なし	藤村・若林
R05	2部36	第8地区1次調査								
R05	1章	東平遺跡	確認	20231106	仏法 2542-3 個人住宅建設	157,280 15,046	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05	2部37	東平第164地区1次調査								
R05	1章	東下天間古墳群	確認	20231107 ～20231108	天間 1408-4 外 店舗建設	3,104,290 74,149	縄文	なし	土器 (縄文時代)	藤村・小島
R05	2部38	第1地区1次調査								
R05	1章	神谷寺域跡・東泉院跡	確認	20231023 ～20231025	今泉八丁目 1370-6 外 個人住宅建設	494,660 7,525	平安～中世	なし	土器 (平安時代～中世)	藤村・若林
R05	2部39	第10地区2次調査								
R05	1章	天間興遺跡	確認	20231102	天間 1942-5 個人住宅建設	731,780 5,893	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05	2部40	第74地区1次調査								
R05	1章	川窪遺跡	確認	20231121	厚原 185-1 事務所建設	1,378,540 10,567	古墳	溝・ピット	土器 (古墳時代)	佐藤・若林
R05	2部41	第7地区3次調査								
R05	1章	天間興遺跡	確認	20231129 ～20231130	天間 1296-6 宅地分譲	2,259,000 28,269	なし	なし	なし	佐藤・小島 ・若林
R05	2部42	第75地区1次調査								
R05	1章	三新田遺跡	確認	20231120	田中新田 275-15 外 不動産売買	495,000 17,691	なし	なし	なし	藤村・小島
R05	2部43	第8地区1次調査								
R05	1章	神谷古墳群	確認	20231121 ～20231122	神谷 846-4 外 公園整備	1,231,000 5,512	古墳	なし	土器 (古墳時代)	藤村・小島
R05	2部44	第13地区2次調査								
R05	1章	富士岡1古墳群	確認	20231225	富士岡 1610-1 浄化槽設置	498,440 10,337	なし	なし	なし	藤村・小島
R05	2部45	第22地区1次調査								
R05	1章	厚原遺跡	確認	20240111	厚原 741-1、-7 建築住宅建設	763,410 16,134	なし	なし	なし	佐藤・小島
R05	2部46	第11地区1次調査								
R05	1章	東平遺跡	確認	20240111	仏法 3091-1 個人住宅建設	363,380 10,644	なし	なし	なし	佐藤・若林
R05	2部47	東平第143地区2次調査								
R05	1章	沢上遺跡	確認	20240214	中之郷 4056-13 個人住宅建設	266,590 4,203	なし	なし	なし	佐藤・小島
R05	2部48	第7次調査地点1次調査								
R05	1章	東平遺跡	確認	20240118	仏法 2502-5 外 個人住宅建設	393,640 4,935	奈良・平安	ピット	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・小島
R05	2部49	東平第162地区1次調査								
R05	1章	中府・中ノ坪遺跡	確認	20240313	厚原 429-9 不動産売買	717,350 5,469	奈良・平安	なし	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・小島
R05	2部50	第24地区1次調査								
R05	1章	東平遺跡	確認	20240304 ～20240306	仏法 2736-1 外 宅地分譲	611,640 18,023	奈良・平安	ピット・溝	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・小島
R05	2部51	第163地区1次調査								
R05	1章	舟久保遺跡	確認	20240227	今泉六丁目 1598-12 外 個人住宅建設	323,560 6,235	なし	なし	なし	佐藤・小島
R05	2部52	第79地区1次調査								
R05	1章	中島遺跡	確認	20240313	原田 774-4 個人住宅建設	182,620 4,365	なし	なし	なし	佐藤・小島
R05	2部53	第17地区1次調査								
R05	1章	水神堂遺跡	確認	20240313	原田 810 宅地分譲	1,368,000 16,250	奈良・平安	なし	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・小島
R05	2部54	第4地区1次調査								

第2節 確認調査の報告

1. 中野沖田遺跡 第4地区 1次調査

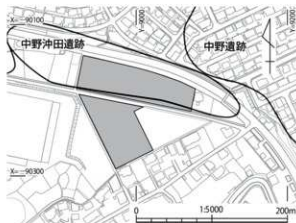
所在地 北松野 1883-1 外

調査面積 79,727 m² (対象面積 11,024 m²)

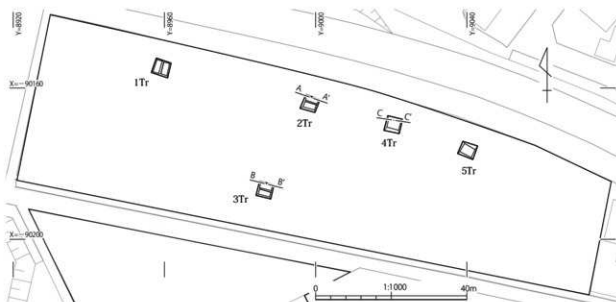
調査期間 令和5年4月5日～4月6日

調査の原因 店舗建設

調査の概要 中野沖田遺跡の包蔵地範囲内に位置する敷地内北部分に5箇所のトレンチ(1～5Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



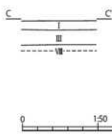
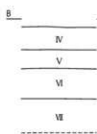
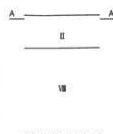
第2図 中野沖田遺跡第4地区 位置図



2Tr 東西セクション北壁

3Tr 東西セクション北壁

4Tr 東西セクション北壁



- I 暗灰色粘土層 (7.5YR4/1)
しまりやや弱、粘性強。黄褐色土中量。
水田耕作土
- II 黒褐色土層 (7.5YR2/2)
しまりやや強、粘性やや弱。礫 (1～3cm) 少量。
- III 暗褐色土層 (7.5YR3/3)
しまり強、粘性強。礫 (3～5cm) 多量。
- IV 暗褐色土層 (10YR3/3)
しまりやや強、粘性やや弱。礫 (1～3cm) 微量。
- V 暗褐色土層 (7.5YR3/2)
しまりやや強、粘性やや弱。
- VI 灰オリーブ色粘質土層 (5Y5/3)
しまりやや強、粘性強。砂中量。
- VII 灰色粘土層 (7.5Y4/1)
しまり弱、粘性強。
- VIII 褐色粘質土層 (10YR4/4)
しまり強、粘性強。黄褐色土少量。
地山



第3図 中野沖田遺跡第4地区 トレンチ配置図、セクション図

調査の結果 地表下約1.2～2.5mで基盤層（Ⅷ層）を確認し、4Trではその直上から古墳時代の土師器小片を検出したものの、遺物包含層を形成しているとは判断できず、遺構も検出されなかった。

調査地北半部はかろうじて有無瀬川扇状地の河岸段丘上に位置するが、南半部は湿地帯にかかっており、居住に適さない環境であったと考えられる。

2. 滝下遺跡 Q地区 1次調査

所在地 伝法1944-1

調査面積 16,782 m² (対象面積1,310 m²)

調査期間 令和5年4月4日

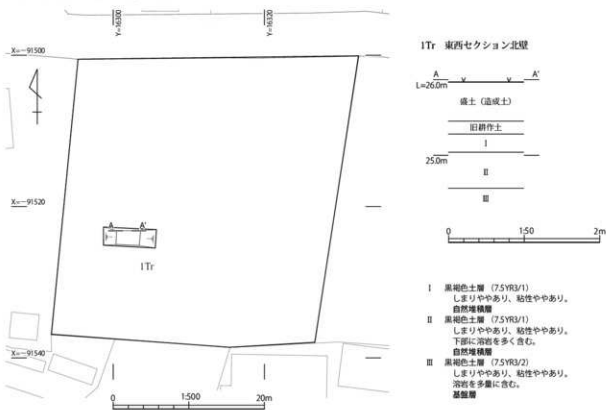
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ（1Tr）を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。隣接するM地区（平成26年度調査）・O地区（令和3年度調査）の調査結果を踏まえ、令和5年10月、包蔵地範囲を削減した。



第4図 滝下遺跡Q地区 位置図



第5図 滝下遺跡Q地区 トレンチ配置図、セクション図

3. 三日市廃寺跡（東平遺跡第156地区1次調査）

所在地 浅間本町3423-3外

調査面積 3,345 m²（対象面積 1,072.90 m²）

調査期間 令和5年4月17日

調査の原因 共同住宅建設

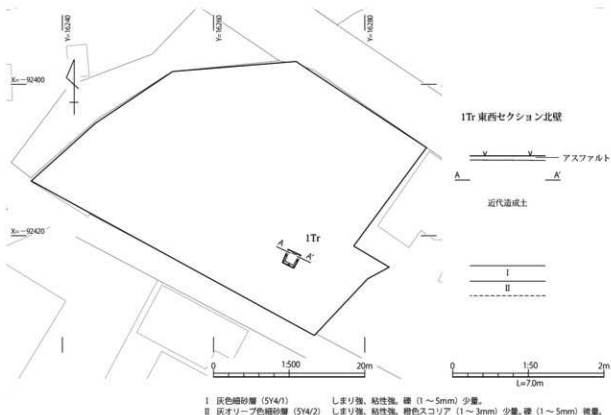
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ（ITr）を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約1.7mで大淵スコリアを含む細砂層（Ⅱ層）を確認し、その前後の層を中心に精査したものの、遺構・遺物は検出されなかった。

調査地は、すぐ北側を流れる和田川の影響により、Ⅰ層上面における湧水量が極めて多く、埋蔵文化財は存在しないものと判断できる。



第6図 東平遺跡第156地区 位置図



第7図 東平遺跡第156地区 トレンチ配置図、セクション図

4. 中原遺跡 第33地区 1次調査

所在地 伝法444-1外

調査面積 243.868 m² (対象面積 3,000 m²)

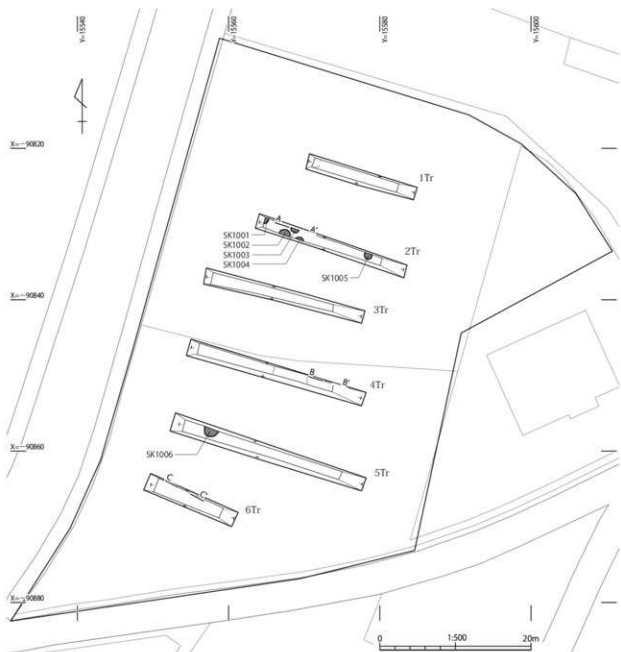
調査期間 令和5年4月10日～4月12日

調査の原因 工場建設

調査の概要 敷地内に6箇所のトレンチ (1～6Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見にとつめた。



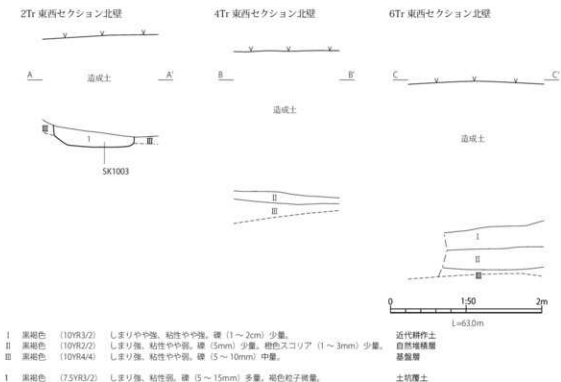
第8図 中原遺跡第33地区 位置図



第9図 中原遺跡第33地区 トレンチ配置図

調査の結果 地表下約1.2～2.5mで基盤層（Ⅲ層）を確認し、2Tr・5Trではその上面において近世以降とみられる土坑を検出したが、大淵スコリアを内包した自然堆積層が良好に遺存する6Trを含めて、中世以前に遡る遺構や遺物は検出されなかった。

以上のことから、調査地内に埋蔵文化財は存在しないものと判断できる。



第10図 中原遺跡第33地区 セクション図

5. 三新田遺跡 Q地区 1次調査

所在地 三新田 4-11

調査面積 7,392 m² (対象面積 338.23 m²)

調査期間 令和5年4月6日

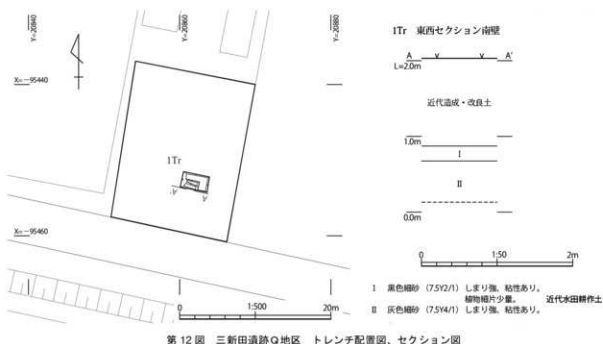
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下1.1m～1.9mにおいて旧水田耕作土や湿地性の砂層が認められたが、遺構や遺物は検出されなかった。調査地は旧浮島沼の縁辺部にあたり、居住に適さない環境であったと考えられる。



第11図 三新田遺跡Q地区 位置図



第12図 三新田遺跡Q地区 トレンチ配置図、セクション図

6. 舟久保遺跡 第77地区 1次調査

所在地 今泉六丁目 662-19

調査面積 2,128 m² (対象面積 104 m²)

調査期間 令和5年4月12日

調査の原因 個人住宅建設

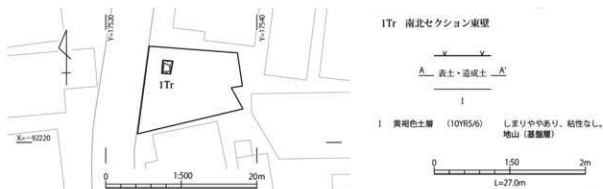
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

調査地内では溶岩が露頭しており、表土直下 30 ~ 40cm で溶岩が検出されたことから、古代の居住域としては適していなかったと推測される。そのため、埋蔵文化財は存在しないと結論付けられる。



第13図 舟久保遺跡第77地区 位置図



第14図 舟久保遺跡第77地区 トレンチ配置図、セクション図

7. 天間沢遺跡 第72地区1次調査

所在地 天間 1327-14

調査面積 4,971 m² (対象面積 163.72 m²)

調査期間 令和5年4月19日

調査の原因 個人住宅建設

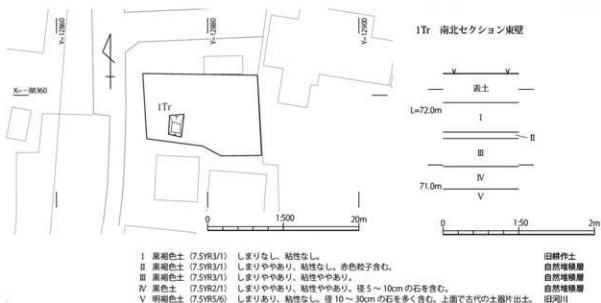
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構は検出されなかった。

地表下1.5mで10～30cmの石で構成される旧河道を検出した。その上面から、平安時代の土器小片1点が出土したもの、遺物包含層は形成されず、河川の影響により上流から流れ込んだものと判断される。そのため、敷地内に埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第15図 天間沢遺跡第72地区 位置図



第16図 天間沢遺跡第72地区 トレンチ配置図、セクション図

8. 包蔵地外 亀窪遺跡隣接地(第1地区1次調査)

所在地 鶴無ヶ淵43外

調査面積 23,396 m² (対象面積 1,310 m²)

調査期間 令和5年4月14日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地は包蔵地範囲外であるが、周知の埋蔵文化財包蔵地「亀窪遺跡」の西側に近接するため、試掘調査を行った。

包蔵地範囲に近い敷地内東側に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 大淵スコリアを含む土層は確認されたものの、その下層に遺物包含層は残存せず、溶岩が検出された。

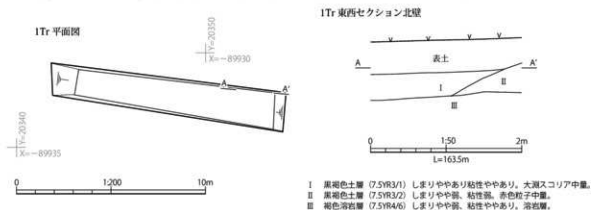
敷地内には埋蔵文化財は確認されなかった。



第17図 亀塚遺跡第1地区 位置図



第18図 亀塚遺跡第1地区 トレンチ配置図



第19図 亀塚遺跡第1地区 トレンチ平面図、セクション図

9. 善得寺廃寺跡 第9地区1次調査

所在地 今泉三丁目1067-1

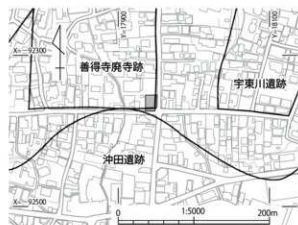
調査面積 3,636 m² (対象面積 370.53 m²)

調査期間 令和5年5月10日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 近世(幕末)と考えられる土地造成の痕跡が明らかとなったものの、中世に遡る遺構・遺物は発見されなかった。



第20図 善得寺廃寺跡第9地区 位置図



第21図 善得寺廃寺跡第9地区 トレンチ配置図、セクション図

10. 川窪遺跡 第7地区 2次調査・3次調査

所在地 厚原185-1

調査面積 2次: 6.821 m² 3次: 10.567 m²
(対象面積 1,378.54 m²)

調査期間 2次: 令和5年4月26日

3次: 令和5年11月21日

調査の原因 2次: 不動産売買 3次: 事務所建設

調査の概要 対象地では令和4年度に確認調査(1次調査)を実施し、古墳時代とみられる少量の土器片が出土している。

2次調査では敷地東側に2箇所(2～3Tr)、3次調査では南側に1箇所(4Tr)のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 2次調査では、3Trにおいて1次調査で土器片を検出した遺物包含層(IV層)の広がりを確認したが、遺構・遺物は見つからなかった。また、2Trでは旧地形が高くなり、遺物包含層が既に削平されている状況も判明した。



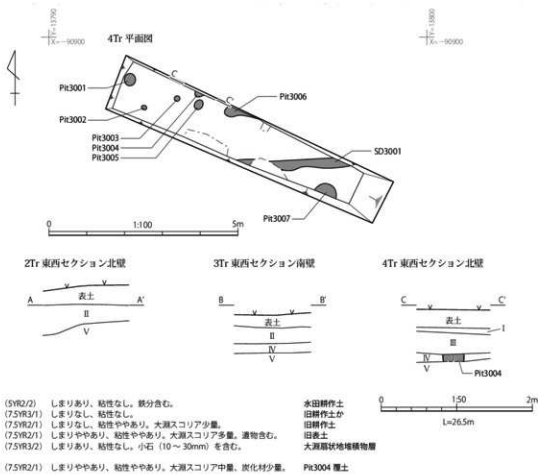
第22図 川窪遺跡第7地区 位置図

3次調査では、散漫な状況ではあるものの、古墳時代とみられる溝(SD3001)とビット(Pi3001～3007)を検出し、土師器が出土した。

これまでの調査結果から、敷地の北東部分を除いて、埋蔵文化財が残存すると結論付けられる。



第23図 川窪遺跡第7地区 トレンチ配置図



第24図 川窪遺跡第7地区 トレンチ平面図、セクション図

11. 児森遺跡 第4地区 1次調査

所在地 中里 1379-2

調査面積 22,930 m² (対象面積 353 m²)

調査期間 令和5年4月27日

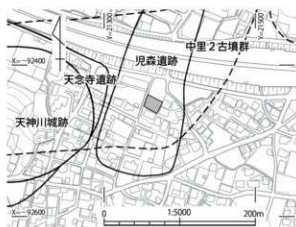
調査の原因 宅地造成

調査の概要 敷地南半に2箇所のトレンチ (1～2Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

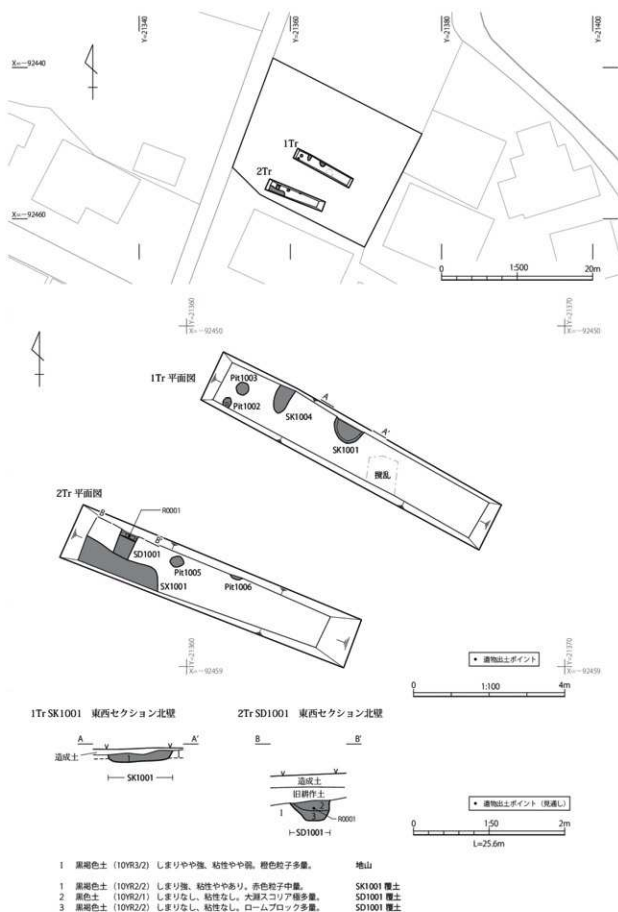
調査の結果 溝 (SD1001)、土坑・ピット (SK1001～Pit1006)、不明遺構 (SX1001) などを検出した。

敷地中央に設定した1Trで検出された遺構は、覆土に大淵スコリアを含まないことや色調から、縄文時代の可能性も想定される。一方、敷地南側に設定した2Trの遺構は覆土に大淵スコリアを極多量に含むことから、古墳時代中期末頃の遺構と想定される。

遺物は古墳時代の土師器片が出土した。



第25図 児森遺跡第4地区 位置図



第 26 図 児森道跡第 4 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

12. 東平遺跡 第158地区1次調査

所在地 伝法2795-4 外

調査面積 7.048 m² (対象面積 87.15 m²)

調査期間 令和5年6月28日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (ITr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 旧表土は残存するものの遺構・遺物は確認されなかった。埋蔵文化財が希薄なエリアと結論付けられる。



第27図 東平遺跡第158地区 位置図



第28図 東平遺跡第158地区 トレンチ配置図、セクション図

13. 富士岡1古墳群 第20地区1次調査

所在地 比奈2819-1

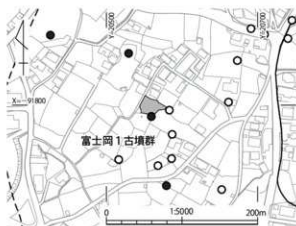
調査面積 6.165 m² (対象面積 318.41 m²)

調査期間 令和5年5月25日～5月26日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (ITr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

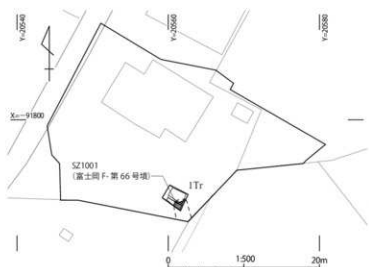
調査の結果 敷地南東隅に設定した ITr の地表下約 0.1m において、横穴式石室墳の一部とみられる遺構 (SZI001) を検出した。古墳であれば、過去の分布調査で存在が確認されていた富士岡 F-第66号墳の奥壁部分とみられ、南東に位置する敷地境界の石垣面まで石室が遺存する可能性が高い。遺物は出土しなかった。



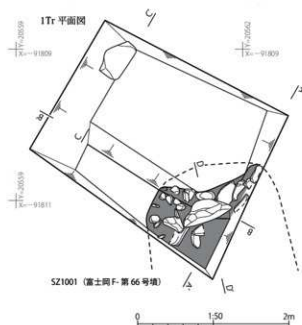
第29図 富士岡1古墳群第20地区 位置図

その他の敷地部分については、ITrの北西隅部で基盤層まで削平が及ぶことが確認できる点、敷地西側で溶岩の露頭がみられる点から、大部分が基盤層まで削平されていることが窺える。

以上の状況から、南東隅部の古墳を除いた敷地部分については、埋蔵文化財が存在しないものと判断できる。



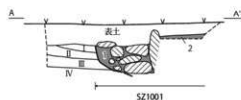
第30図 富士岡1古墳群第20地区 トレンチ配置図



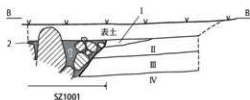
- I 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや強、粘性なし。
褐色発泡スコリア (3～5mm) 極少量。
大湖スコリア自然堆積層
- II 黒色 (10YR2/1) しまり強、粘性なし。
褐色スコリア粒子 (1～3mm) 中量。
- III 暗褐色 (10YR3/3) しまり強、粘性なし。
褐色スコリア粒子 (1～3mm) 少量。
しまり強、粘性なし。
- IV 褐色 (10YR4/4) 溶岩塊 (10～20cm) 少量。
基盤層

- 1 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや強、粘性なし。
褐色発泡スコリア (3～5mm) 少量。
- 2 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや強、粘性なし。
塊 (10～20cm) 少量。
SZ1001 石室内崩落土

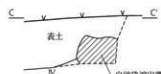
ITr 東西セクション南壁



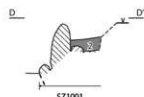
ITr 南北セクション東壁



ITr 南北セクション西壁



SZ1001 南北エレベーション東壁



第31図 富士岡1古墳群第20地区 トレンチ平面図、セクション図

14. 比奈1古墳群 第12地区1次調査・2次調査

所在地 比奈2359-1外

調査面積 1次: 156,969 m² 2次: 58,430 m²
(対象面積 2,998.28 m²)

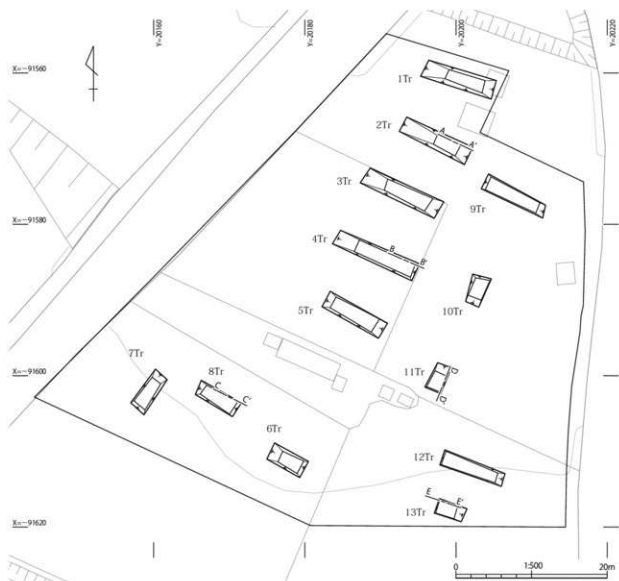
調査期間 1次: 令和5年6月5日～6月7日
2次: 令和5年7月12日～7月18日

調査の原因 店舗建設

調査の概要 1次調査では敷地西半部分に8箇所(1～8Tr)、2次調査では敷地東半部分に5箇所(9～13Tr)のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



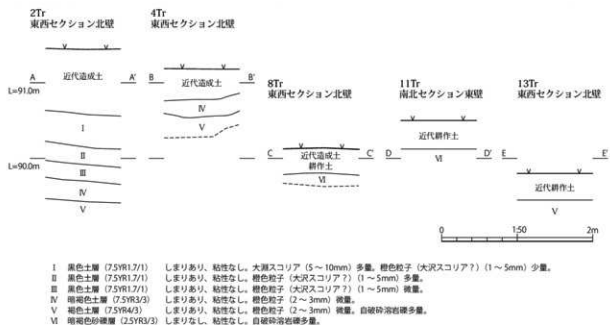
第32図 比奈1古墳群第12地区 位置図



第33図 比奈1古墳群第12地区 トレンチ配置図

調査の結果 調査地は南側や西側の道路一帯から北東方向に向かって降る傾斜地に位置するが、4Tr・10Tr以南ではいずれも表土直下の浅い位置で溶岩礫の層を検出しており、埋蔵文化財が遺存しないことを確認した。

傾斜面に位置する北側の 2Tr・3Tr・9Tr 周辺には大淵スコリアを含む古墳時代の自然堆積層が良好に遺存していたため、その上下の層を中心に精査したものの、遺構や遺物は検出されなかった。



第34図 比奈1古墳群第12地区 セクション図

15. 沖田遺跡 第170次調査地点1次調査

所在地 今泉二丁目124-5外

調査面積 9,279 m² (対象面積 1,066.25 m²)

調査期間 令和5年6月8日

調査の原因 不動産売買

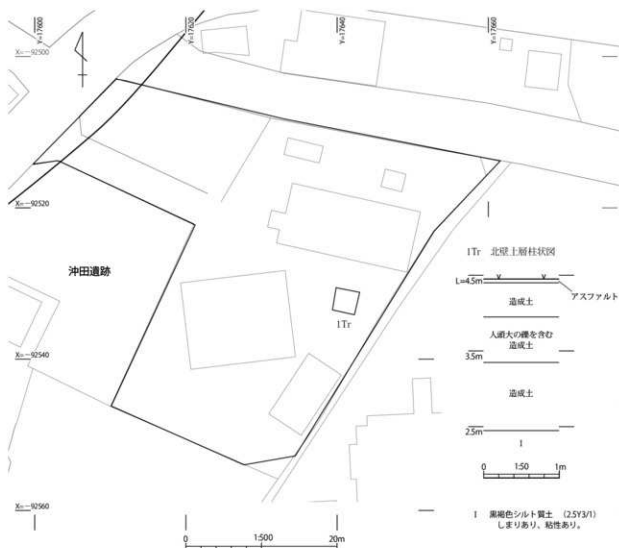
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下2.0mまでは現代の造成土が存在することが確認された。さらに下層には黒褐色シルト質土が堆積していることが確認されたが、湧水やそれに伴う調査区壁の崩落が激しく、安全面から調査を継続することができなかった。

遺構・遺物は確認されていない。



第35図 沖田遺跡第170次調査地点 位置図



第36図 沖田遺跡第170次調査地点 トレンチ配置図、セクション図

16. 川坂遺跡 第14地区 1次調査

所在地 天間 845-6 外

調査面積 17,983 m² (対象面積 380.05 m²)

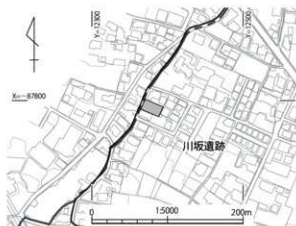
調査期間 令和5年6月21日

調査の原因 不動産売買

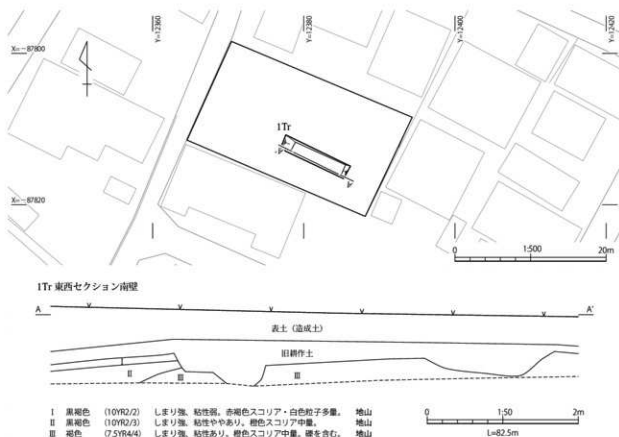
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

土地全体が削平を受けており、古墳時代以降の遺構検出面が残存しないことが明らかとなった。そのため、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第37図 川坂遺跡第14地区 位置図



第38図 川坂遺跡第14地区 トレンチ配置図、セクション図

17. 東平遺跡 第121地区2次調査

所在地 伝法2502-1外

調査面積 9,233 m² (対象面積 178.62 m²)

調査期間 令和5年6月13日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 調査地では令和元年度に1次調査を実施し、奈良時代とみられる溝とピット、土器片が出土している。

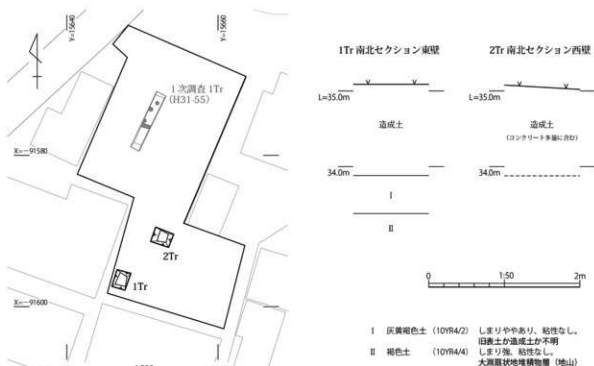
敷地南側に2箇所のトレンチ(1～2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地全体に大規模な盛り土がなされており、地表下約2.0mにおいて漸く地山を検出した。

安全面等から調査面積に制限があったものの、遺構・遺物は確認されなかった。



第39図 東平遺跡第121地区 位置図



第40図 東平道跡第121地区 トレンチ配置図、セクション図

18. 国久保遺跡 第13地区 1次調査

所在地 国久保三丁目 2245-23 外

調査面積 5,982 m² (対象面積 135 m²)

調査期間 令和5年6月14日～6月15日

調査の原因 不動産売買

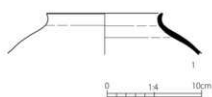
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下0.3mにおいて、奈良・平安時代の遺物包含層(I・II層)を検出し、当該期の土器が出土した。第42図1は1Trで出土した須恵器の短頸壺である。肩部は丸く張り、頸部はごく短く、口縁端部は外反する。

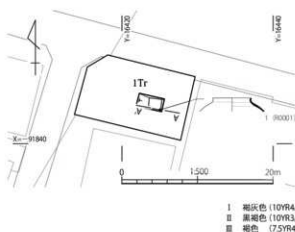
敷地北側に広がる耕作地においても多量の土器片が散布することから、敷地内やその周辺に古代の集落が広がっていた可能性が高い。



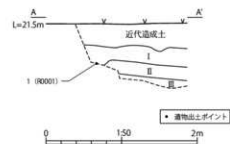
第41図 国久保遺跡第13地区 位置図



第42図 国久保遺跡第13地区 出土遺物実測図



1Tr 東西セクション南壁



第43図 国久保遺跡第13地区 トレンチ配置図、セクション図

第3表 国久保遺跡第13地区 出土遺物観察表

報告 番号	探区 番号	写真 図版	計量 番号(一級)	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成 率	残存 率	内面色調	外面色調	備考
								口徑	底径	高さ					
I	第42図	PL.6	0001	1Tr	須恵器	短頸壺	奈良・平安	[12.0]	—	(4.4)	良好	20%	2.5Y6/1	黄灰	2.5Y7/1 灰白

19. 国久保遺跡 第14地区 1次調査

所在地 国久保二丁目 2003-6 外

調査面積 5.247 m² (対象面積 198 m²)

調査期間 令和5年7月24日

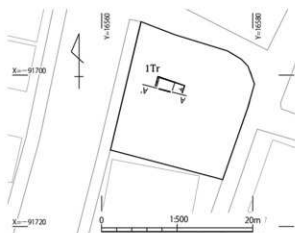
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所(1Tr)のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

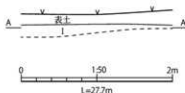
調査の結果 土地全体が削平を受けており、遺構・遺物は確認されなかった。そのため、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第44図 国久保遺跡第14地区 位置図



1Tr 東西セクション南壁



I にふい黄褐色 (10YR6/4) しまり強、粘性ややあり、赤褐色スコリア粒子少量、基盤層

第45図 国久保遺跡第14地区 トレンチ配置図、セクション図

20. 神谷古墳群 第13地区 1次調査・2次調査

所在地 神谷846-4 外

調査面積 1次: 33,563 m² 2次: 5,512 m²
(対象面積 1,231 m²)

調査期間 1次: 令和5年6月28日～7月19日

2次: 令和5年11月21日～11月22日

調査の原因 公園整備

調査の概要 調査地には富士市指定史跡「千人塚古墳」が所在し、また、古墳の可能性のある巨石も散乱している。

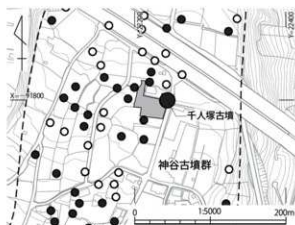
1次調査では千人塚古墳の西側や古墳とみられる巨石の周囲を中心に9箇所のトレンチ(1～9Tr)を設定し、2次調査では敷地北西隅に1箇所のトレンチ(10Tr)を設定し、重機による掘削を行った後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地内の南西部分において横穴式石室墳(SZJ-12/須津J-第12号墳)を検出したほか、東側では富士市指定史跡である千人塚古墳(須津J-第10号墳)の周溝の一部を検出した。

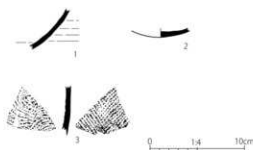
SZJ-12は西側部分を中心に近代耕作に伴う変改が著しいものの、奥壁から東側壁については1～2段程度が残存することを確認できたほか、東側や北側では墓坑や周溝の一部も検出した。

千人塚古墳で今回検出された周溝は、平成18年度調査(第5地区4次調査2Tr)で検出したものとはほぼ同規模(幅約3.0m)であり、指定地域外である石室南西部分に周溝が良好に遺存することを確認できた。

敷地北西隅の10Trでは、基盤層であるIV層上面から須恵器の小片1点を検出したものの、顕著な遺物の広がりや遺構は確認できなかった。



第46図 神谷古墳群第13地区 位置図

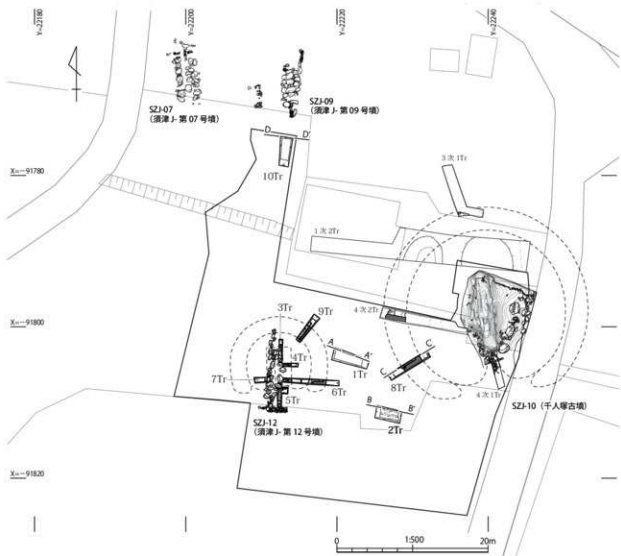


第47図 神谷古墳群第13地区 出土遺物実測図

遺物は、少量の須恵器片が出土し、3点を図示した。第47図1・2は5Tr(SZJ-12)から出土した体部片と丸底の底部片である。いずれも内外面は滑らかに整えられている。器種は特定できないが、同一個体の可能性がある。3は8Trで出土した甕の胴部片である。外面にタタキ痕、内面にオサエ痕が明瞭に残る。

第4表 神谷古墳群第13地区 出土遺物観察表

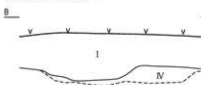
報告 番号	神田 番号	写真 図版	目録番号(PC版) 目録番号(一版)	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成 温度	残存 率	内面色調	外面色調	備考		
								口径	底径	器高							
1	第47図	PL-9	0004	5Tr SZJ-12 石室礎土	須恵器			—	—	(4.1)	良好	2.5Y7/1	灰白	2.5Y5/1	黄灰	2と同一か	
2	第47図	PL-9	0007	5Tr SZJ-12	須恵器			—	—	(1.0)	良好	50%	2.5Y7/1	灰白	2.5Y6/1	黄灰	1と同一か
3	第47図	PL-9	0003	8Tr	須恵器	甕		—	—	(5.2)	良好	—	2.5Y6/1	黄灰	2.5Y6/1	黄灰	



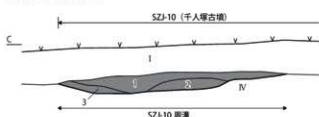
1Tr東西セクション北壁



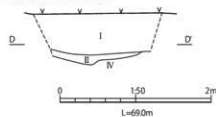
2Tr東西セクション北壁



8Tr南北セクション西壁

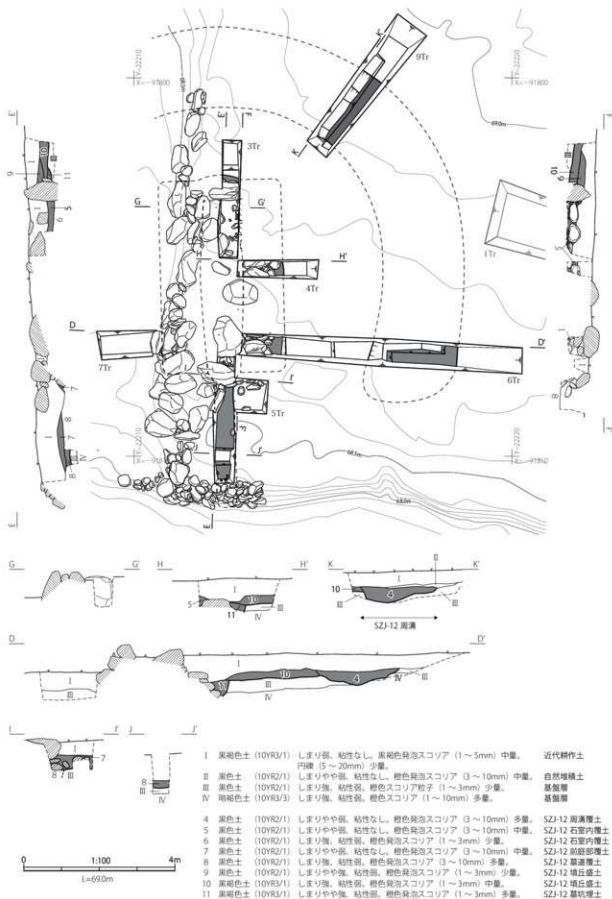


10Tr東西セクション北壁



- | | | |
|-------------------|--|-------------|
| I 黒褐色土 (10YR3/1) | しまり強、粘性なし。黒褐色発泡スコリア (1~5mm) 中量。円礫 (5~20mm) 少量。 | 近代耕作土 |
| II 黒色土 (10YR2/1) | しまりやや強、粘性なし。褐色発泡スコリア (3~10mm) 中量。 | 自然堆積土 |
| III 黒色土 (10YR2/1) | しまり強、粘性弱。褐色スコリア砂子 (1~3mm) 少量。 | 基盤層 |
| IV 暗褐色土 (10YR3/3) | しまり強、粘性弱。褐色スコリア (1~10mm) 多量。 | 基盤層 |
| 1 黒色土 (10YR2/1) | しまりやや強、粘性弱。褐色発泡スコリア (5~10mm) 中量。 | SZJ-10 周溝覆土 |
| 2 黒色土 (10YR2/1) | しまりやや強、粘性弱。褐色発泡スコリア (5~10mm) 多量。 | SZJ-10 周溝覆土 |
| 3 黒色土 (10YR2/1) | しまりやや強、粘性弱。褐色発泡スコリア (5~10mm) 多量。暗褐色ロームブロック少量。 | SZJ-10 周溝覆土 |

第48図 神谷古墳群第13地区 トレンチ配置図、セクション図



第49図 神谷古墳群第13地区 SZJ12平面図、セクション図

21. 沢東A遺跡 第31次調査地点1次調査

所在地 久沢180-2

調査面積 14,555 m² (対象面積 618.45 m²)

調査期間 令和5年8月17日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ (1～2Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

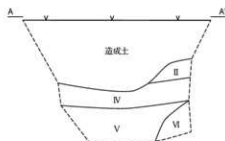
そのため、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第50図 沢東A遺跡第31次調査地点 位置図

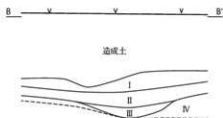


2Tr 東西セクション北壁



I	黄褐色 (7.5YR3/2)	しまりあり、粘性なし。	地山
II	黄褐色 (7.5YR3/1)	しまりあり、粘性なし。	地山
III	極暗褐色 (7.5YR2/3)	しまりあり、粘性なし。	地山
IV	極暗褐色 (7.5YR2/3)	しまりあり、粘性なし。	地山
V	黄褐色 (7.5YR3/1)	しまりあり、粘性なし。	地山
VI	極暗褐色 (7.5YR2/3)	しまりあり、粘性なし。	地山

1Tr 東西セクション北壁



第51図 沢東A遺跡第31次調査地点 トレンチ配置図、セクション図

22. 厚原横道下遺跡 第7地区 1次調査

所在地 厚原1200-4 外

調査面積 4,721 m² (対象面積 167.65 m²)

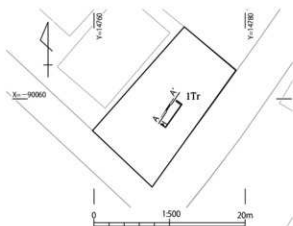
調査期間 令和5年7月28日

調査の原因 事務所建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

そのため、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。

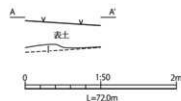


第53図 厚原横道下遺跡第7地区 トレンチ配置図、セクション図



第52図 厚原横道下遺跡第7地区 位置図

1Tr 南北セクション西壁



I 褐色(7.5YR4/6) しまり強、粘性なし。礫(1~3cm) 多量。
大規模状地堆積物層

23. 柏原遺跡 第22地区 1次調査

所在地 中柏原新田187-1 外

調査面積 13,340 m² (対象面積 493.21 m²)

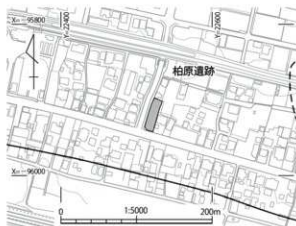
調査期間 令和5年8月17日~8月18日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ(1~2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 1Trの地表下約1.2m(Ⅲ層)において古墳時代の土師器片を検出したものの、器壁の摩滅が多く、流れ込みの可能性が考えられる。また、その上下の層を中心に精査したものの、遺構を検出することはできなかった。

以上のことから、当該地においては集落の広がりとは認められないと判断できる。



第54図 柏原遺跡第22地区 位置図



所在地 天間 1022-1

調査期間 令和5年8月28日

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。土地全体が大規模に削平を受けていることから、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



25. 宇東川遺跡 第34地区1次調査

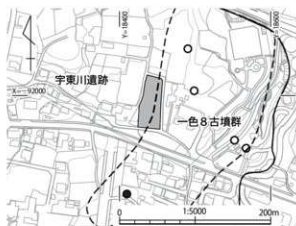
所在地 原田691-4外

調査面積 50,484 m² (対象面積 1,731 m²)

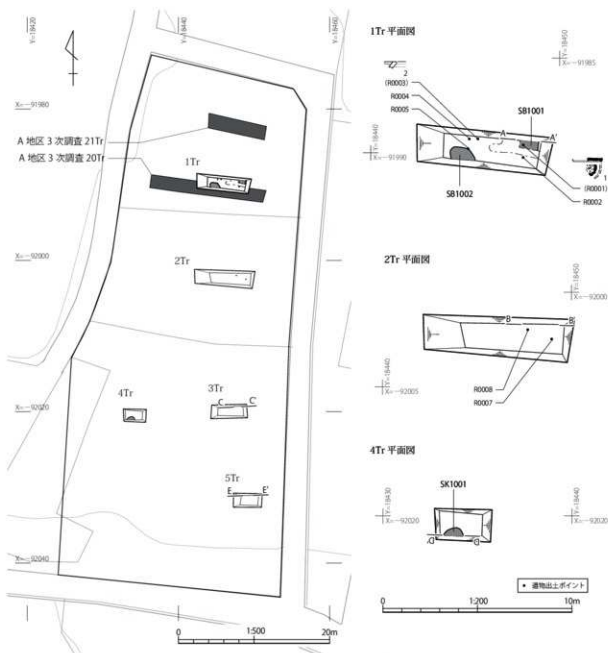
調査期間 令和5年8月24日～8月25日

調査の原因 公園整備

調査の概要 敷地内に5箇所のトレンチ(1～5Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見にとつめた。



第58図 宇東川遺跡第34地区 位置図

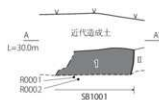


第59図 宇東川遺跡第34地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図

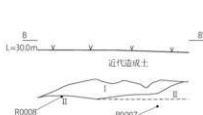
調査の結果 1Tr・2Tr・4Trでは地表下0.4mにおいて古墳～平安時代の遺構や縄文時代の遺物包含層（Ⅰ層）を、5Trでは地表下0.3mにおいて縄文時代の遺物包含層を検出した。平成18年度に実施したA地区3次調査（20・21Tr）でも遺構・遺物を出しており、敷地北側一帯に古代の集落が広がっていた可能性が高い。一方、3Trは削平が著しく、埋蔵文化財が遺存しないことを確認した。

遺物は、縄文土器・土師器・須恵器が出土し、2点を図示した。第61図1は1Tr SB1001で出土した須恵器高台坪の底部である。底面は回転ヘラケズリ後、中心を木口で整え、断面方形の高台を貼り付けている。2は土師器甕の口縁部片である。口縁端部が内側に肥厚する。

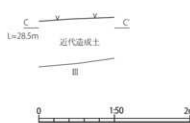
1Tr 東西セクション北壁



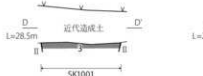
2Tr 東西セクション北壁



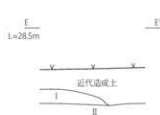
3Tr 東西セクション北壁



4Tr 東西セクション南壁



5Tr 東西セクション北壁



- 遺物出土ポイント
※断面図の遺物ポイントは概略し表示
- Ⅰ 黒褐色土層 (10YR3/2) しまり強、粘性なし。褐色スコリア粒子少量。
 - Ⅱ 暗褐色土層 (10YR3/3) しまり強、粘性弱。溶岩塊（1～10cm）中量。
 - Ⅲ 褐色土層 (10YR3/4) しまり強、粘性弱。溶岩塊（10～30cm）少量。
 - 1 黒褐色土層 (10YR3/1) しまり強、粘性なし。黒色炭屑スコリア（0.5～1cm）中量。
 - 2 にぶい黄褐色粘土層 (10YR5/3) しまり強、粘性弱。粘土層。
 - 3 黒褐色土層 (10YR3/2) しまり強、粘性弱。褐色スコリア粒子少量。にぶい黄褐色ブロック中量。

- 縄文包含層
基盤層
- SB1001 甕土
SB1002 カマド粘土（※平面図のみ）
SK1001 甕土

第60図 宇東川遺跡第34地区 セクション図



第61図 宇東川遺跡第34地区 出土遺物実測図

第5表 宇東川遺跡第34地区 出土遺物観察表

報告 番号	採掘 番号	写真 図版	図番号(PC点) 及番号(一括)	出土 場所	種別	類別	時代	法量 (cm)			法成	法存 率	内面色調	外面色調	備考	
								口径	底径	器高						
1	第61図	PL.25	0001	1Tr SB1001	須恵器	坪	—	—	高台径 (9.1)	(1.1)	良好	20%	2.5Y7/1	灰白	2.5Y7/1	灰白
2	第61図	—	0003	1Tr	土師器	甕	—	—	—	(2.2)	良好	—	5YR4/2	灰褐	5YR5/3	にぶい赤褐

26. 外原遺跡 第1地区 1次調査

所在地 北松野 616-1 外

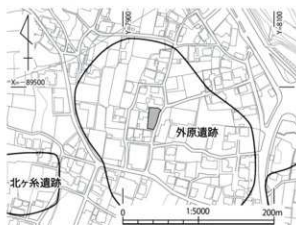
調査面積 1,200 m² (対象面積 298 m²)

調査期間 令和5年8月24日

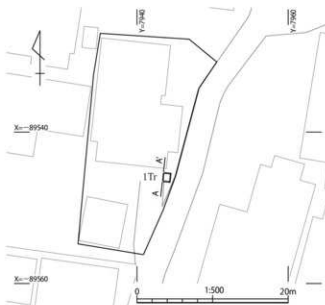
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (ITr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。

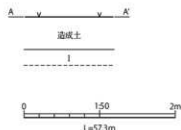


第62図 外原遺跡第1地区 位置図



第63図 外原遺跡第1地区 トレンチ配置図、セクション図

ITr 南北セクション西壁



1 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性ややあり。
径1cmほどの小石少量。
地山

27. 富士岡1古墳群 第21地区 1次調査

所在地 比奈 1704-1

調査面積 23,903 m² (対象面積 299.47 m²)

調査期間 令和5年8月30日～8月31日

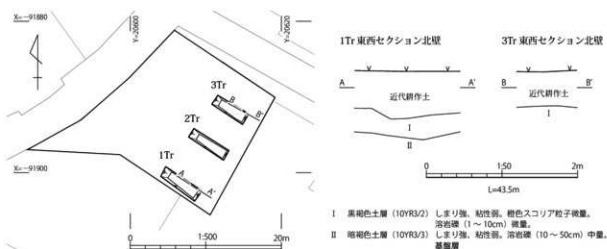
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ (1～3Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 調査地は北西から南東方向に向かって緩やかに降る傾斜地に位置し、自然堆積層が比較的良好に遺存する敷地東側を中心に精査したものの、遺構や遺物は検出されなかった。



第64図 富士岡1古墳群第21地区 位置図



第 65 図 富士岡1古墳群第21地区 トレンチ配置図、セクション図

28. 東平遺跡 第159地区1次調査

所在地 伝法2505-1

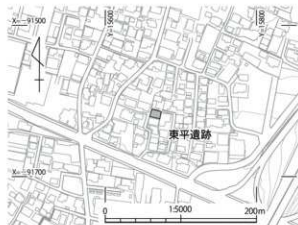
調査面積 10.449 m² (対象面積 128.9 m²)

調査期間 令和5年9月4日

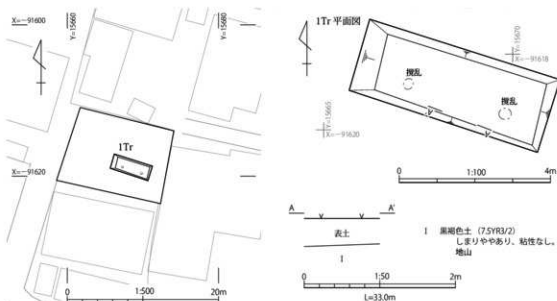
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構検出面が削平されており、遺構・遺物は確認されなかった。敷地内に埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第 66 図 東平遺跡第159地区 位置図



第 67 図 東平遺跡第159地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

29. 舟久保遺跡 第78地区1次調査

所在地 今泉九丁目1510-2

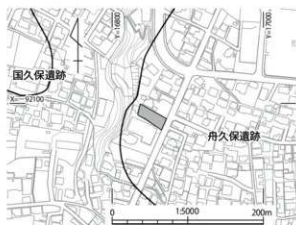
調査面積 9,456 m² (対象面積 519 m²)

調査期間 令和5年8月29日

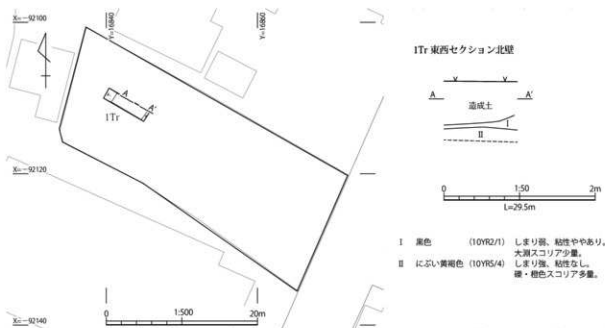
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 旧表土は残存するものの、遺構・遺物は検出されなかった。敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第68図 舟久保遺跡第78地区 位置図



第69図 舟久保遺跡第78地区 トレンチ配置図、セクション図

30. 善得寺城跡・東泉院跡

第10地区1次調査・2次調査

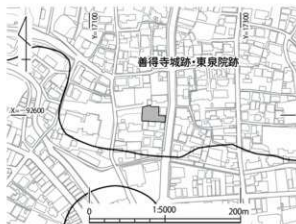
所在地 今泉八丁目1370-6 外

調査面積 1次: 4,438 m² 2次: 7,525 m²
(対象面積 494.66 m²)

調査期間 1次: 令和5年9月11日

2次: 令和5年10月23日～10月25日

調査の原因 個人住宅建設



第70図 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 位置図

調査の概要 1次調査で敷地南寄りに1箇所(1Tr)、2次調査で敷地北寄りに1箇所(2Tr)のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構は確認されなかった。

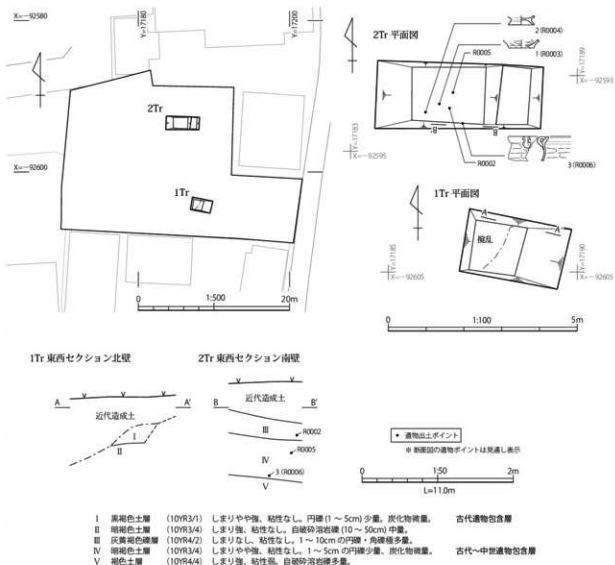
1Trでは地表下0.4mにおいて、奈良・平安時代とみられる遺物包含層(Ⅰ層)を検出した。ただし、トレンチ北西部に現在の宅地造成時に行われた大規模な攪乱痕が認められることから、敷地内の限られた範囲にだけⅠ層が遺存する可能性もある。

2Trでは地表下0.75mにおいて、平安時代～中世の土器を含む遺物包含層(Ⅱ層)を検出した。

出土した土器のうち、土師器の内耳埴(第72図3)は中世後期に遠江や西三河で多くみられる「く」の字

形」のものであり、富士市域では極めて希少な器種である。今川氏親の命で東泉坊が日吉宮(現日吉浅間神社)の造営を始めたのが15世紀末～16世紀初頭とみられており、今回の成果が当該地周辺の隆盛の一端を示す資料となる可能性がある。

第72図1は弥生土器の壺である。胴部は内外面ともにナデ調整で、底部外面に木葉痕を残す。2は土師器の高台埴である。高脚でハの字状に開く高台から、富士Ⅷ(10世紀後半から11世紀)頃とみられる。



第71図 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図



第72図 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 出土遺物実測図

第6表 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 出土遺物観察表

報告 番号	採掘 番号	写真 図版	目録番号(PC点) 及番号(一括)	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)		残存 率	内面色調	外面色調				
								口縁	底縁							
1	第72図	-	0003	2Tr	弥生土器	壺	弥生	-	(8.0)	(2.7)	良好	20%	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	橙
2	第72図	PL.12	0004	2Tr	土師器	高台埴	平安	-	高台埴 (8.0)	(3.0)	良好	45%	7.5YR8/4	浅黄橙	7.5YR8/4	浅黄橙
3	第72図	PL.12	0006	2Tr	土師器	内耳埴	中世後期	-	-	(7.8)	良好	-	7.5YR7/4	に近い橙	7.5YR4/1	褐色

31. 沖田遺跡 第171次調査地点1次調査

所在地 今泉495-3外

調査面積 5,490 m² (対象面積 2,167.38 m²)

調査期間 令和5年11月13日

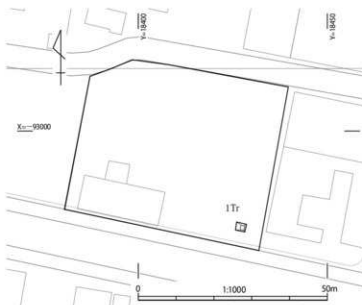
調査の原因 営業所建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

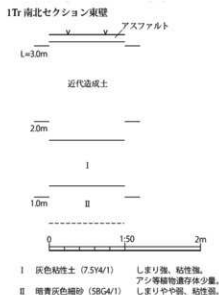
調査の結果 地表下約1.4m以下において低湿地性の粘土や砂層を検出し、地表下2.5m前後まで掘削したものの、遺構や遺物は発見されなかった。



第73図 沖田遺跡第171次調査地点 位置図



第74図 沖田遺跡第171次調査地点 トレンチ配置図、セクション図



32. 国久保遺跡 第6地区 2次調査

所在地 国久保一丁目 2120-6 外

調査面積 17,958 m² (対象面積 561.45 m²)

調査期間 令和5年9月14日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 調査地は西側の一部分が国久保遺跡の範囲に含まれている。平成29年度に1次調査を実施しており、奈良・平安時代とみられる土坑と少量の土師器・須恵器が出土している。

敷地東側に1箇所のトレンチ(2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。
調査の結果 1次調査同様、地表下1.9mにおいて、奈良・平安時代の堅穴建物(SB2001)とピット(Pit2001)を検出し、奈良・平安時代の土器が出土した。敷地内においても多量の土器片が散布することから、敷地内やその周辺に古代の集落が広がっていた可能性が高い。

SB2001出土の土師器長胴甕(甕F)の底部を図示した(第76図1)。胴部外面はナゲ調整、内面は胴部から底部までヘラナゲ調整する。底部外面には、葉を2枚重ねた様子の木葉痕が残る。富士VI(9世紀後葉から10世紀初頭ごろ)に位置づけられる。

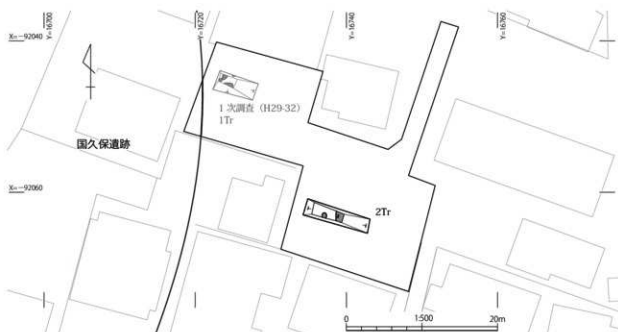
調査結果を受けて、令和5年10月、国久保遺跡の包蔵地範囲の変更(追加)を行った。



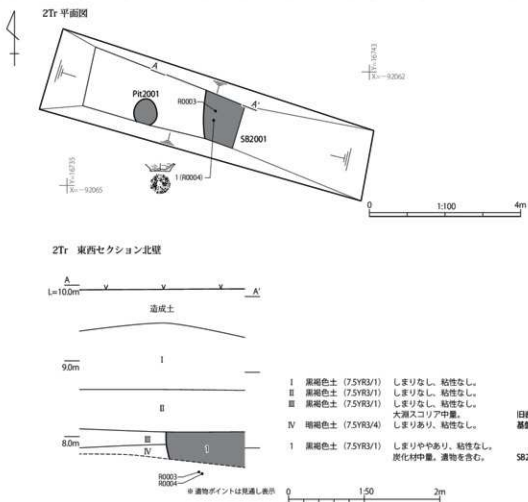
第75図 国久保遺跡第6地区 位置図



第76図 国久保遺跡第6地区 出土遺物実測図



第77図 国久保遺跡第6地区 トレンチ配置図



第78図 国久保遺跡第6地区 トレンチ平面図、セクション図

第7表 国久保遺跡第6地区 出土遺物観察表

調査 番号	種別 番号	写真 図版	R番号(PC点) R番号(一級)	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成 程度	残存 率	内面色調	外面色調	備考			
								口径	底径	器高								
I	第76図	PL.13	0004	2Tr	SB2001	土師器	甕	平安	—	6.3	(2.2)	良好	60%	5YR6/6	橙	5YR5/6	明赤褐	

33. 包蔵地外 中野遺跡隣接地 (第2地区 1次調査)

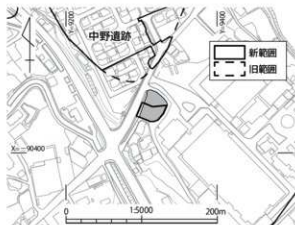
所在地 南松野 2465-1

調査面積 56.347 m² (対象面積 784 m²)

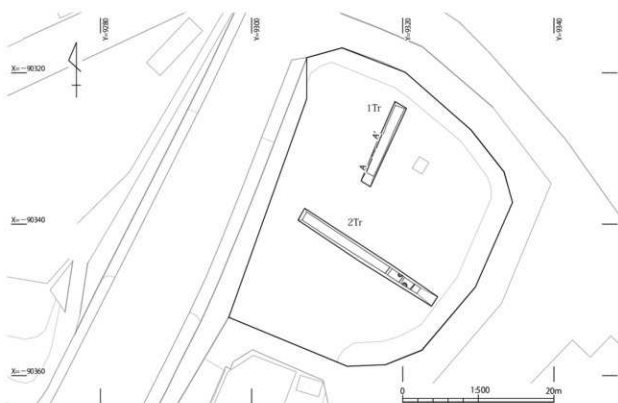
調査期間 令和5年11月1日

調査の原因 不動産売買

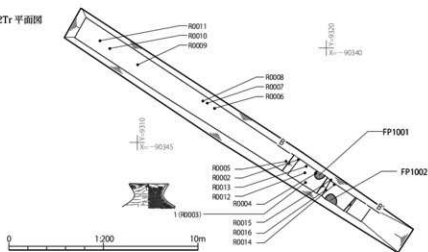
調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ (1～2Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



第79図 中野遺跡第2地区 位置図



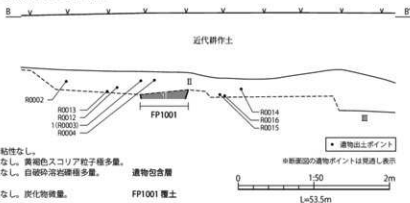
2Tr 平面図



1Tr 南北セクション西壁



2Tr 東西セクション北壁



- I 黒褐色土 (10YR3/2) しまりやや強、粘性なし。
 II に少し黄褐色土 (10YR4/3) しまり弱、粘性なし。黄褐色スコリア粒子極多量。
 III 褐色土 (10YR4/3) しまり弱、粘性なし。白磁粉岩礫極多量。
 1 明褐色境土 (7.5YR5/6) しまり強、粘性なし。炭化物微量。

遺物包含層
 FP1001 覆土

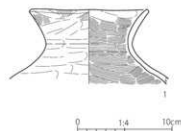
第80図 中野遺跡第2地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

調査の結果 敷地南側に設定した2Trの地表下0.7mにおいて、弥生時代の土器を含む遺物包含層（Ⅲ層）を確認し、包含層中には同時期とみられる炉（FP）を2基検出した。

一方、北側に設定した1Tr周辺では地表下0.1m程度で溶岩が検出できることから、遺構や遺物は存在しないものと判断できる。

第81図1は2Tr出土の弥生土器壺である。内面は細かいヨコハケ目調整後、口縁部近くをナデている。外面は粗いタテハケ目調整後、全体をヨコナデしている。ハケ目の溝などにわずかに赤彩が残存している。

今回の調査結果および過去の調査結果を踏まえて、令和5年12月、中野遺跡の包蔵地範囲の追加および滅失をおこなった。



第81図 中野遺跡第2地区 出土遺物実測図

第8表 中野遺跡第2地区 出土遺物観察表

報告 番号	検出 番号	写真 図版	発掘 番号(一括)	出土 場所	種別	細別	時代	出土 (cm)		焼成 温度	残存 率	内面色調	外面色調	備考
								口径	底径					
1	第81図	PL-14	0003	2Tr	弥生土器	壺	弥生	(122)	—	(7.9)	良好	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6 明赤褐

34. 花守遺跡 第10地区 1次調査

所在地 富士岡 225-1 外

調査面積 18,036 m² (対象面積 496.37 m²)

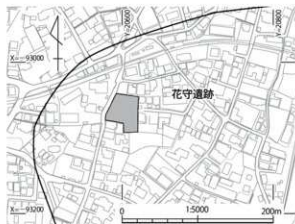
調査期間 令和5年10月10日

調査の原因 集合住宅建設

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ（1～3Tr）を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約1.0 m以下において低湿地性の粘土や砂層を検出し、地表下2.7 m前後まで掘削したものの、遺構や遺物は発見されなかった。

敷地一帯は地下の湧水量が非常に多く、砂交じりの粘土層が厚く堆積することから、赤瀬川の氾濫原に相当すると考えられる。したがって、古代以前には居住に適さない土地であったと判断できる。



第82図 花守遺跡第10地区 位置図



第 83 図 花守遺跡第 10 地区 トレンチ配置図、セクション図

35. 東平遺跡 第 160 地区 1 次調査

所在地 伝法 2452-1 外

調査面積 84.650 m² (対象面積 775.16 m²)

調査期間 令和 5 年 10 月 10 日～10 月 11 日

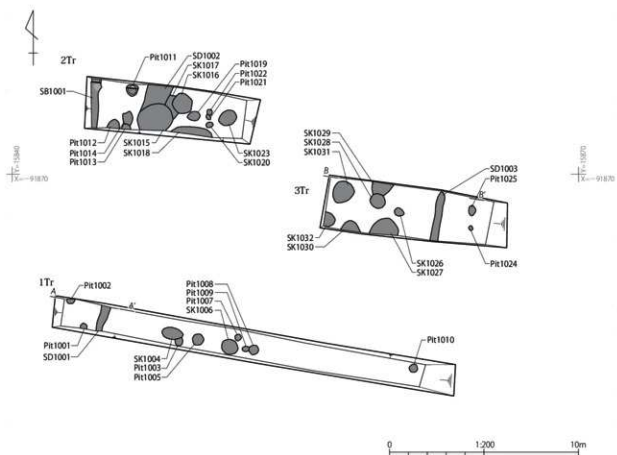
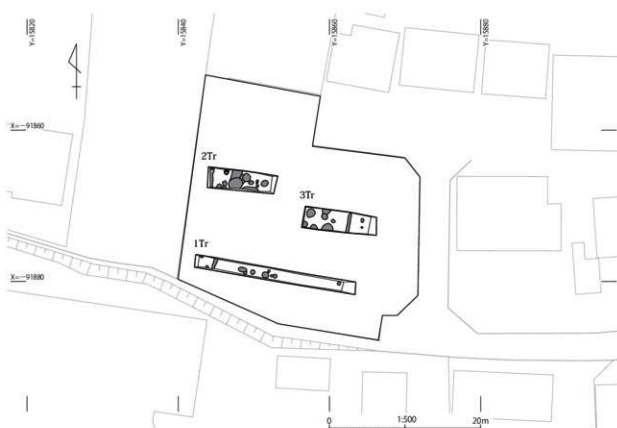
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に 3 箇所のトレンチ (1～3Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見にとめた。

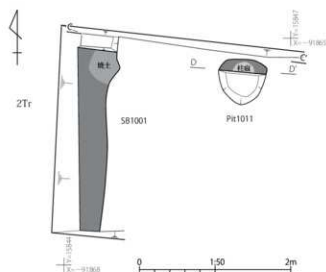
調査の結果 奈良時代から平安時代と考えられる堅穴建物・土坑・ピットが検出され、土器・陶磁器・金属製品が出土した。周辺の調査例からも、当該地帯には、奈良時代から平安時代にかけての堅穴建物や掘立柱建物が、濃密に展開していると考えられる。



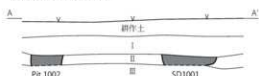
第 84 図 東平遺跡第 160 地区 位置図



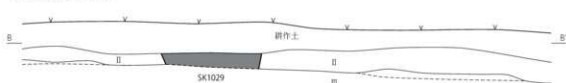
第 85 図 東平遺跡第 160 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図



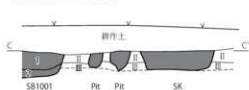
1Tr 東西セクション北壁



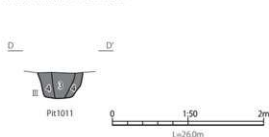
3Tr 東西セクション北壁



2Tr 東西セクション北壁



2Tr Pit1011 東西セクション北壁



- | | | |
|------------------|--|------------|
| 1 黒褐色土 (10YR3/1) | しまりなし。粘性なし。石 (径 10 ~ 20cm 大) 中量。 | 堆積土 |
| 2 黒褐色土 (10YR3/1) | しまりややあり。粘性なし。大淵スコリア (径 5 ~ 10mm) 中量。 | 旧表土 |
| 3 黒褐色土 (10YR3/3) | しまりあり。粘性なし。 | 基盤層 |
| 1 黒褐色土 (10YR3/1) | しまりややあり。粘性なし。大淵スコリア中量。 | SB1001 覆土 |
| 2 黒褐色土 (10YR3/1) | しまりややあり。粘性なし。焼土・大淵スコリア少量。 | SB1001 覆土 |
| 3 黒褐色土 (10YR3/1) | しまりややあり。粘性ややあり。大淵スコリア (径 5 ~ 10mm) 中量。 | Pit1011 柱礎 |
| 4 黒褐色土 (10YR3/1) | しまりややあり。粘性ややあり。大淵スコリア中量。 | Pit1011 覆土 |

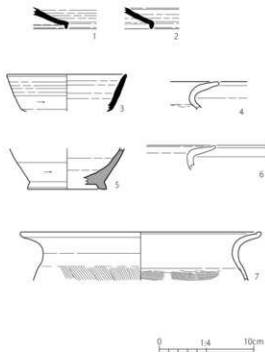
第 86 図 東平遺跡第 160 地区 2Tr 遺構平面図、セクション図

出土した遺物から7点を図示した(第87図)。

1・2は須恵器の坏蓋で2は天井部に回転ケズリが認められる。3の須恵器は箱形の有台坏身とみられる。体部下半を回転ヘラケズリしている。4は遠江系水平口縁甕(甕E)の口縁部である。1から4は2Tr SB1001から出土したもので、2・4はカマドからの出土である。

5は灰軸陶器の壺とみられる。体部外面に施軸が認められ、下半が回転ヘラケズリされる。底部内面にも軸が付着している。6・7は遠江系水平口縁甕(甕E)の口縁部である。7は口縁端部が玉縁状を呈する。5～7は2Tr Pit1011から出土した。

1～4・6・7は富士Ⅱ～Ⅲ(8世紀中葉～9世紀初頭)、5は9～10世紀代のものとみられる。



第87図 東平遺跡第160地区 出土遺物実測図

第9表 東平遺跡第160地区 出土遺物観察表

調査 番号	坪面 番号	写真 図版	目録番号(PC番号) 及 表番号(一括)	出土 場所	種別 細別	時代	口縁 口径	底径	器高	底成 成	残存 率	内面色調 外面色調	備考
1	第87図	-	0002	2Tr SB1001	須恵器 蓋		[13.2]	-	(2.2)	良好	20%	2.5Y5/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰	
2	第87図	-	0008	2Tr SB1001 カマド	須恵器 蓋		-	-	(2.25)	良好	-	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y6/1 黄灰	
3	第87図	PL-15	0002	2Tr SB1001	須恵器 坏		[12.5]	-	(3.9)	良好	20%	2.5Y6/2 黄灰 2.5Y6/2 黄灰	
4	第87図	-	0008	2Tr SB1001 カマド	土師器 甕		-	-	(2.9)	良好	-	10YR7/3 に近い黄橙 10YR8/3 淡黄橙	遠江系 水平口縁甕
5	第87図	PL-15	0004	2Tr Pit1011	灰軸陶器 壺?		-	高台径 [8.2]	(4.4)	良好	30%	2.5Y7/1 灰白 2.5Y7/2 灰黄	
6	第87図	-	0004	2Tr Pit1011	土師器 甕		-	-	(2.6)	良好	-	10YR6/3 に近い黄橙 7.5YR7/4 に近い橙	遠江系 水平口縁甕
7	第87図	PL-15	0004	2Tr Pit1011	土師器 甕		[25.7]	-	(5.2)	良好	20%	5YR6/6 橙 5YR6/6 橙	遠江系 水平口縁甕

36. 祢宜ノ前遺跡 第8地区 1次調査

所在地 比奈 1619

調査面積 3,203 m² (対象面積 496.37 m²)

調査期間 令和5年10月5日

調査の原因 個人住宅建設

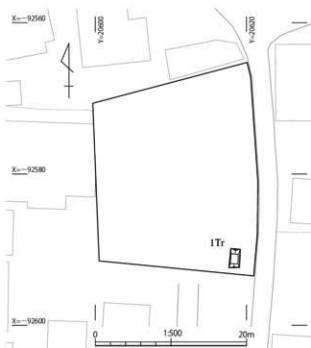
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下0.2 m以下において旧赤淵川河床とみられる砂礫層を検出し、地表下1.2 mの湧水層まで掘削したものの、遺構や遺物は発見されなかった。

過去の調査例から、祢宜ノ前遺跡の集落が溶岩台地上やその末端部に展開することを勘案するならば、赤淵川の河床砂礫層が広がる当該地周辺には遺跡は存在しないものと判断できる。

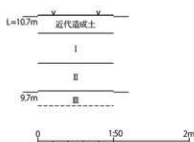


第88図 祢宜ノ前遺跡第8地区 位置図



第89図 祢宜ノ前遺跡第8地区 トレンチ配置図、セクション図

ITr 南北セクション東壁 柱状図



- | | | |
|-----|-------------------|--|
| I | 黒褐色砂礫層 (10YR3/2) | しまり弱、粘性なし。
円礫 (1 ~ 20cm) 極多量。
赤淵川起源の砂礫層 |
| II | 暗褐色砂礫層 (10YR3/3) | しまり弱、粘性なし。
円礫 (1 ~ 20cm) 多量。
赤淵川起源の砂礫層 |
| III | 灰黄褐色砂礫層 (10YR4/2) | しまり弱、粘性なし。
円礫 (1 ~ 10cm) 中量。湧水層。
赤淵川起源の砂礫層 |

37. 東平遺跡 第161地区 1次調査

所在地 伝法2542-3

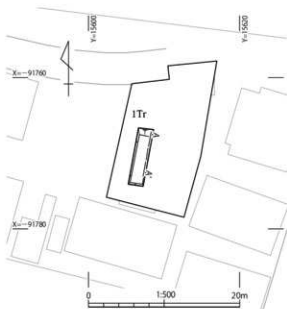
調査面積 15,046 m² (対象面積 157.28 m²)

調査期間 令和5年11月6日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。そのため、当該地は埋蔵文化財が希薄なエリアと考えられる。

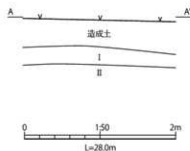


第91図 東平遺跡第161地区 トレンチ配置図、セクション図



第90図 東平遺跡第161地区 位置図

ITr南北セクション東壁



- I 黒色土 (7.5YR2/1) しまりややあり、粘性なし。赤色粒子を中量含む。
旧耕作土
- II 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性なし。
地山

38. 東下天間古墳群 第1地区 1次調査

所在地 天間1408-4 外

調査面積 74,149 m² (対象面積 3,104.29 m²)

調査期間 令和5年11月7日～11月8日

調査の原因 店舗建設

調査の概要 東下天間古墳群は1基の消滅古墳(東下天間古墳)によって構成される。『鷹岡町史』(富士市1984)によれば、昭和15年に古墳が発掘され、直刀・金環・切子玉・管玉が出土したと伝わる。

敷地内に12箇所のトレンチ(1～12Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



第92図 東下天間古墳群第1地区 位置図

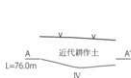
調査の結果 斜面低位部の10～12Trでは古代以前の土層が良好に遺存しており、11Trの地表下1.6m（Ⅲ層）において僅かに縄文土器片が発見されたものの、遺物包含層を形成しているとは判断できず、

遺構の存在も確認できなかった。北側から流れ込んだ遺物の可能性が高い。南東側の斜面部分ではいずれも基盤層が浅く検出され、古墳の痕跡はおろか、遺物も全く見られなかった。

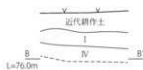


第93図 東下天間古墳群第1地区 トレンチ配置図

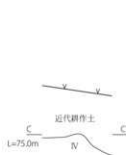
1Tr 南北セクション東壁



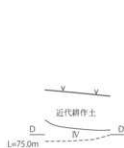
2Tr 南北セクション東壁



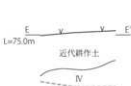
3Tr 東西セクション南壁



4Tr 東西セクション南壁



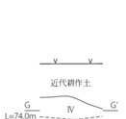
5Tr 東西セクション北壁



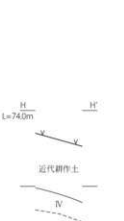
6Tr 東西セクション北壁



7Tr 南北セクション西壁



8Tr 東西セクション南壁



9Tr 南北セクション東壁



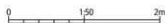
10Tr 東西セクション南壁



11Tr 南北セクション西壁



12Tr 東西セクション北壁



- I 黒色土 (10YR1.7/1) しまりやや強、粘性なし。溶岩礫 (1~5cm) 多量。褐色スコリア粒子少量。
 II 黒色土 (10YR1.7/1) しまり強、粘性なし。褐色スコリア粒子多量。
 III 黒褐色土 (10YR2/2) しまり強、粘性なし。溶岩礫 (1~20cm) 多量。
 IV 褐色土 (10YR3/4) しまり強、粘性なし。溶岩礫 (10~50cm) 多量。

縄文土器出土層

第94図 東下天間古墳群第1地区 セクション図

39. 天間沢遺跡 第74地区1次調査

所在地 天間 1942-5

調査面積 5,893 m² (対象面積 731.78 m²)

調査期間 令和5年11月2日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 縄文時代の遺物包含層に対応する土層は良好に残存していたが、遺構・遺物は確認されなかった。そのため、当該地は埋蔵文化財が希薄なエリアと結論付けられる。



第95図 天間沢遺跡第74地区 位置図



第96図 天間沢遺跡第74地区 トレンチ配置図、セクション図

40. 天間沢遺跡 第75地区 1次調査

所在地 天間 1296-6

調査面積 28,269 m² (対象面積 2,259 m²)

調査期間 令和5年11月29日～11月30日

調査の原因 宅地分譲

調査の概要 敷地内に5箇所のトレンチ (1～5Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見にとつめた。

調査の結果 縄文時代の遺物包含層に対応する土層は良好に残存していたが、遺構・遺物は確認されなかった。そのため、当該地は埋蔵文化財が希薄なエリアと結論付けられる。



第97図 天間沢遺跡第75地区 位置図



1Tr
東西セクション北壁

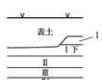
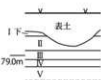
2Tr
東西セクション北壁

3Tr
東西セクション北壁

4Tr
南北セクション西壁

5Tr
東西セクション北壁

L=80.0m



古墳時代前期の遺構層土

I 大沢ラビ層 (FB) 黒褐色。細密なスコリア粒子で極めて硬くする。(上・下に分離される。)

縄文時代中・後期の包含層

II 栗色土層 (KU) 黒褐色。褐色スコリア粒をやや多く、白色テフラ (カワゴ平/ミス) を少量含む。しまりはやや強い。

縄文時代早・前期の包含層

III 富士黒土層 (FB) 黒色。褐色スコリア微粒子を微量含む。しまりはやや弱く、粘性が出てくる。

IV 漸移層 (Zn)

暗褐色。褐色味の強い土と黒味が強い土が混ざり合い、鮮やかな褐色のスコリア粒を少量含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

旧石器時代の包含層

V 休場層 (YL)

明褐色。全体的に赤みが強く、褐色スコリア粒をやや多く含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

第98図 天間沢遺跡第75地区 トレンチ配置図、セクション図

41. 三新田遺跡 R地区 1次調査

所在地 田中新田 275-15 外

調査面積 17,691 m² (対象面積 495 m²)

調査期間 令和5年11月20日

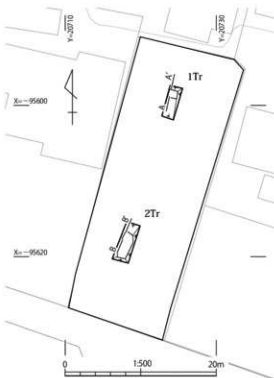
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ (1～2Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下0.2m～1.0mにおいて古墳時代に堆積した大淵スコリア層を検出し、その上下の層を中心に精査したものの、遺構や遺物は検出されなかった。対象地は遺跡内では田子の浦砂丘(砂礫洲)の最高所に近く、集落が疎らなエリアに当たると考えられる。

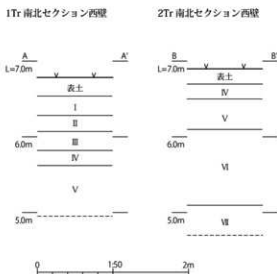


第99図 三新田遺跡 R地区 位置図



- | | | |
|--------------|---|-------------|
| I 暗褐色砂層 | (7.5YR3/4) しまりやや強、粘性なし。暗赤褐色スコリア (1～3mm) 少量。 | IV 二次堆積土 |
| II 灰黄褐色砂層 | (10YR5/2) しまり弱、粘性なし。 | |
| III 褐色砂層 | (7.5YR4/3) しまりやや強、粘性なし。暗赤褐色スコリア (1～5mm) 中量。 | |
| IV 暗赤褐色スコリア層 | (5YR3/4) しまり強、粘性なし。暗赤褐色スコリア (5～10mm) 極多量。 | 大淵スコリア一次堆積層 |
| V 灰黄褐色砂層 | (10YR4/2) しまり弱、粘性なし。 | |
| VI におい黄褐色砂層 | (10YR4/3) しまり弱、粘性なし。 | |
| VII 褐色砂層 | (7.5YR4/4) しまりやや弱、粘性なし。 | |

第100図 三新田遺跡 R地区 トレンチ配置図、セクション図



42. 富士岡1古墳群 第22地区1次調査

所在地 富士岡1610-1

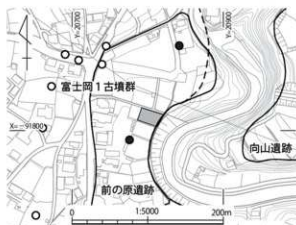
調査面積 10,337 m² (対象面積 496.44 m²)

調査期間 令和5年12月25日

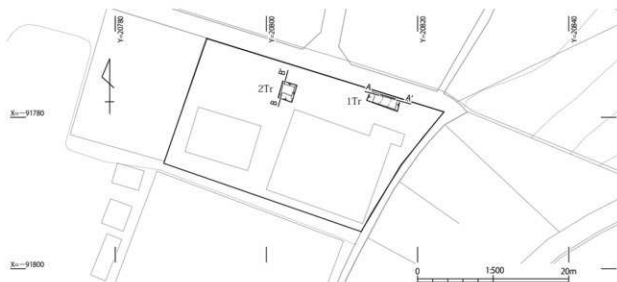
調査の原因 浄化槽設置

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ(1~2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見にとつめた。

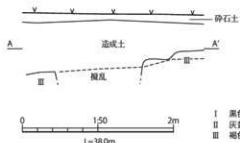
調査の結果 道路部分に近い1Trでは大規模な攪乱がみられた一方で、2Trでは自然堆積層が比較的良好に遺存する状況を確認したものの、遺構や遺物は検出されなかった。



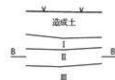
第101図 富士岡1古墳群第22地区 位置図



1Tr 東西セクション北壁



2Tr 南北セクション西壁



- I 黒色土 (10YR2/1) しまりやや強、粘性なし。黒褐色発泡スコリア (5mm) 少量。
 II 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり強、粘性弱。褐色スコリア粒子少量。
 III 褐色土 (10YR4/4) しまり強、粘性弱。褐色スコリア粒子少量。

第102図 富士岡1古墳群第22地区 トレンチ配置図、セクション図

43. 厚原遺跡 第11地区1次調査

所在地 厚原741-1、-7

調査面積 16.134 m² (対象面積 763.41 m²)

調査期間 令和6年1月11日

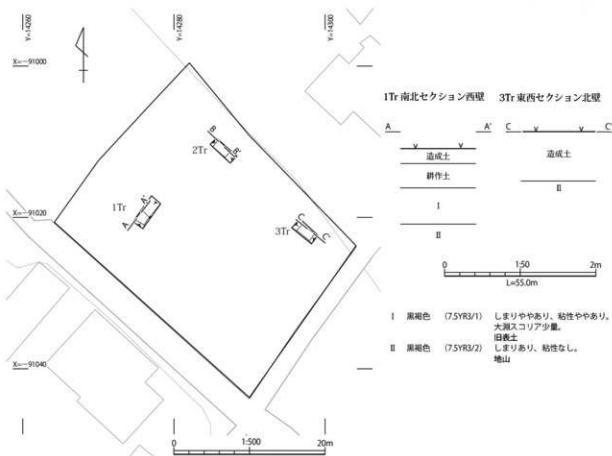
調査の原因 建売住宅建設

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ (1～3Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。当該地は埋蔵文化財の希薄なエリアと結論付けられる。



第103図 厚原遺跡第11地区 位置図



第104図 厚原遺跡第11地区 トレンチ配置図、セクション図

44. 東平遺跡 第143地区 2次調査

所在地 伝法3091-1

調査面積 10,644 m² (対象面積 361.38 m²)

調査期間 令和6年1月11日

調査の原因 佐藤浩史による個人住宅建設

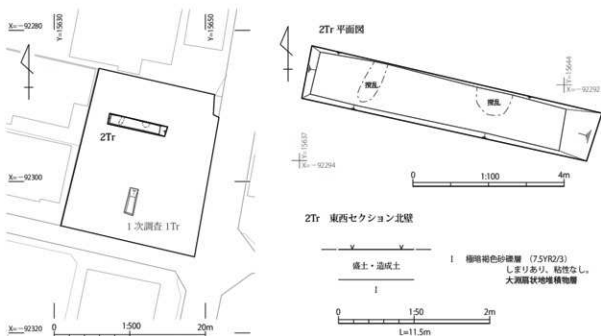
調査の概要 調査地では令和3年10月に1次調査を実施し、旧表土中から奈良時代の土器が出土している。

敷地内北寄りに1箇所の特レンチ(2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 かつて住宅が建っていた敷地北側は土地が削平を受けており、遺構・遺物は残存しないことが明らかとなった。



第105図 東平遺跡第143地区 位置図



第106図 東平遺跡第143地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

45. 沢上遺跡 第7次調査地点1次調査

所在地 中之郷4056番13

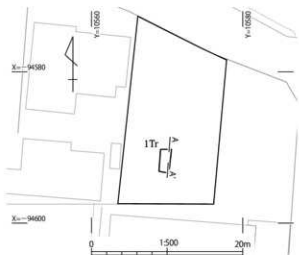
調査面積 4,203 m² (対象面積 266.59 m²)

調査期間 令和6年2月14日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。地表下1.1mから近世以降と考えられる河川堆積物層を検出した。周囲よりも低い土地で西側から東側に流れる旧河川上に位置することから、居住域には適していない土地と推察される。当該地に埋蔵文化財は存在しないと結論付けられる。

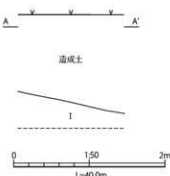


第108図 沢上遺跡第7次調査地点 トレンチ配置図、セクション図



第107図 沢上遺跡第7次調査地点 位置図

1Tr 南北セクション西壁



1 黒褐色砂礫層 (7.5YR3/1) しまり強、粘性なし。礫 (5~15cm) 多量。
近現代陶磁器片出土。
河川堆積物

46. 東平遺跡 第162地区1次調査

所在地 伝法2502番5ほか

調査面積 4,935 m² (対象面積 393.64 m²)

調査期間 令和6年1月18日

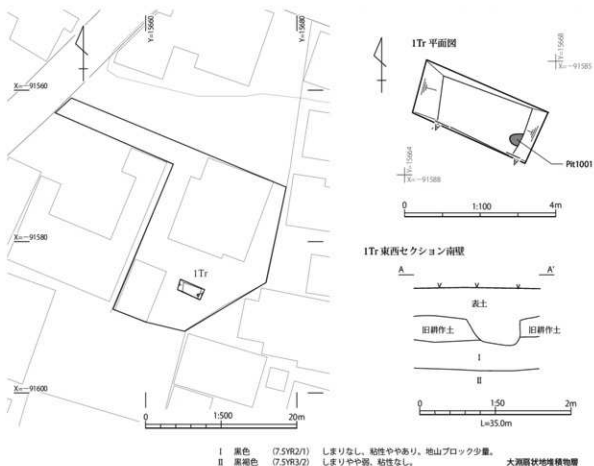
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下1.1mでピット(Pit1001)を検出した。敷地内では奈良時代から平安時代の土器が多く採集できるため、当該期の遺構と考えられる。



第109図 東平遺跡第162地区 位置図



第110図 東平道跡第162地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

47. 中桁・中ノ坪道跡 第24地区1次調査

所在地 厚原429-9

調査面積 5,469 m² (対象面積 717.35 m²)

調査期間 令和6年3月13日

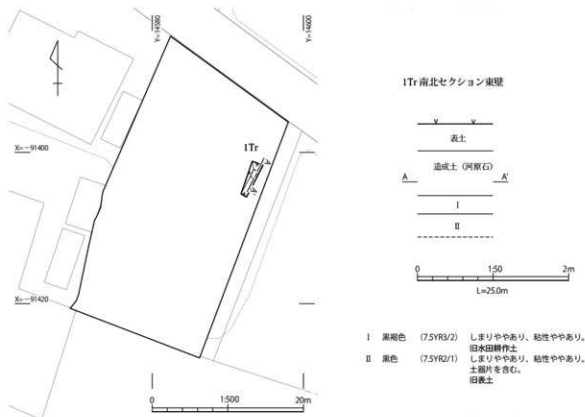
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下1.2mで奈良時代から平安時代の土器を包含する自然堆積層を検出したが、遺構は検出されなかった。現代の盛り土が厚く存在するが、地下には道跡が比較的良好に残存していると結論付けられる。



第111図 中桁・中ノ坪道跡第24地区 位置図



第112図 中桁・中ノ坪遺跡第24地区 トレンチ配置図、セクション図

48. 東平遺跡 第163地区 1次調査

所在地 伝法2736番1ほか

調査面積 18.023㎡ (対象面積611.64㎡)

調査期間 令和6年3月4日～3月6日

調査の原因 宅地分譲

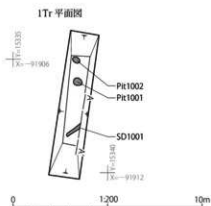
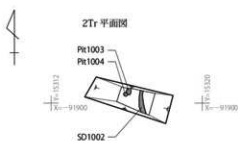
調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ (1～2Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表面0.7mからビット・溝を検出し、奈良・平安時代の土器片が出土した。

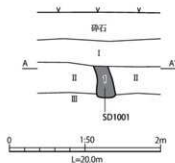
敷地内には奈良時代から平安時代の遺跡が希薄ながら残存すると結論付けられる。



第113図 東平遺跡第163地区 位置図



1Tr 南北セクション東壁



- | | | |
|---------------------|-----------------|-----------|
| I 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。 | 旧耕作土 |
| II 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。 | 旧農土 |
| III 黒褐色土 (7.5YR3/2) | しまりややあり、粘性なし。 | 地山 |
| 1 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。 | SD1001 覆土 |

第114図 東平遺跡第163地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

49. 舟久保遺跡 第79地区 1次調査

所在地 今泉六丁目 1598-12 ほか

調査面積 6,255 m² (対象面積 323.56 m²)

調査期間 令和6年2月27日

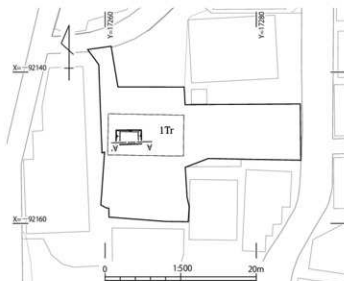
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。地表下0.2～0.3mで基盤層となる溶岩を検出した。土地全体が大規模な削平を受けており、旧表土が残存しないことが明らかとなった。敷地内に埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。

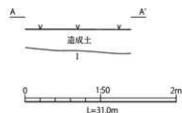


第115図 舟久保遺跡第79地区 位置図



第116図 舟久保遺跡第79地区 トレンチ配置図、セクション図

1Tr東西セクション南壁



I 黄褐色 (10YR5/6) しまりなし、粘性なし。溶岩層

50. 中島遺跡 第17地区 1次調査

所在地 原田 774-4

調査面積 4,365 m² (対象面積 182.62 m²)

調査期間 令和6年3月13日～3月15日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地全体が大規模に削平を受けており、遺構・遺物を確認することはできなかった。敷地内に埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。

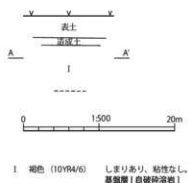


第117図 中島遺跡第17地区 位置図



第118図 中島遺跡第17地区 トレンチ配置図、セクション図

1Tr 南北セクション東壁



51. 水神堂遺跡 第4地区1次調査

所在地 原田 810

調査面積 16,250 m² (対象面積 1368 m²)

調査期間 令和6年3月13日

調査の原因 宅地分譲

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ (1～3Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見にとつめた。

調査の結果 敷地西方に設定した1Trの調査により、松原川にむかって土地が急激に傾斜していることが確認された。谷地形内の堆積層からは縄文時代以降の遺物は全く確認されなかった。

一方、敷地東側の2Tr・3Trでは近世以降の土地改変により自然堆積層が確認されなかった。

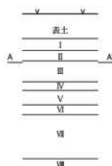
地表面で奈良・平安時代の遺物が採集されることから、かつては当該期の遺跡が展開していた可能性が高いが、現在は全く残存しないと結論付けられる。



第119図 水神堂遺跡第4地区 位置図



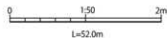
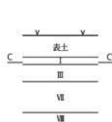
1Tr 南北セクション東壁



2Tr 東西セクション北壁



3Tr 東西セクション北壁



- | | |
|----------------------|------------------------|
| I 黒色土 (7.5YR2/1) | しまりややあり、粘性ややあり。 |
| II 黒色土 (7.5YR2/1) | しまりややあり、粘性ややあり。白色粒子多量。 |
| III 黒色土 (7.5YR2/1) | しまりややあり、粘性ややあり。 |
| IV 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。 |
| V 黒色土 (7.5YR2/1) | しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子中量。 |
| VI 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子中量。 |
| VII 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性なし。礫多量。 |
| VIII 黒褐色土 (7.5YR3/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 |

(KJ 対応か)
(FB 対応か)
(Zn 対応か)

自壊砕溶地層

第120図 水神堂遺跡第4地区 トレンチ配置図、セクション図

第3節 埋蔵文化財包蔵地の内容変更

埋蔵文化財包蔵地の範囲や遺跡種類等の内容については、確認・試掘調査や現地踏査により得られた情報に基づき、随時、変更や新規登録を行っている。

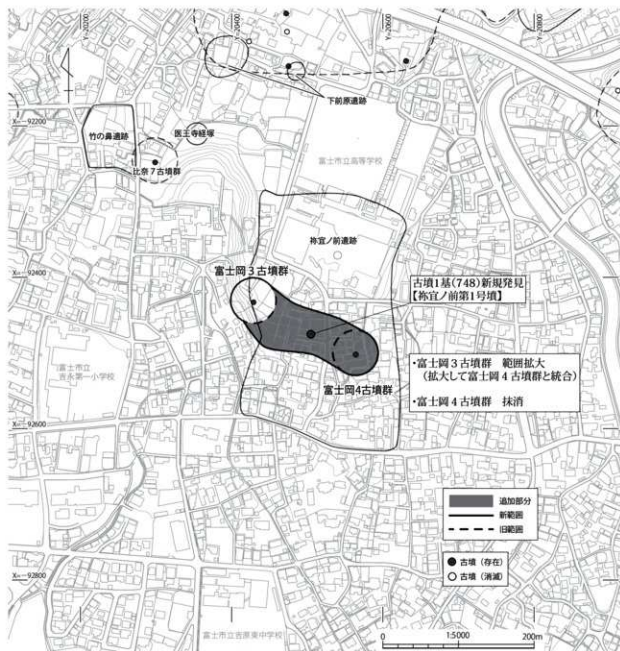
令和6年1月から令和7年1月の間に行われた埋蔵文化財包蔵地の登録内容変更について、ここで報告する。

第10表 埋蔵文化財包蔵地 登録内容の変更

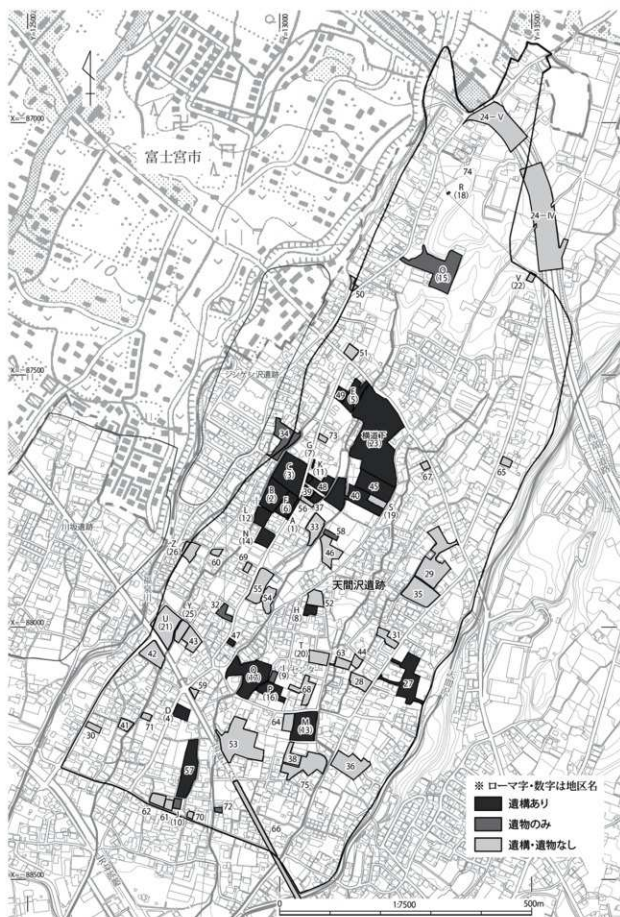
遺跡番号	遺跡名	変更内容	変更年月日
200	神谷古墳群	古墳1基（市古墳番号747 須津J-第197号墳）の新規発見（第121図参照）	令和6年6月17日発見
194	富士岡3古墳群	古墳1基（市古墳番号748 弥生ノ前第1号墳）の新規発見 包蔵地範囲の追加および富士岡4古墳群と統合（第122図参照）	令和7年1月20日
195	富士岡4古墳群	富士岡3古墳群との統合により抹消（第122図参照）	令和7年1月20日



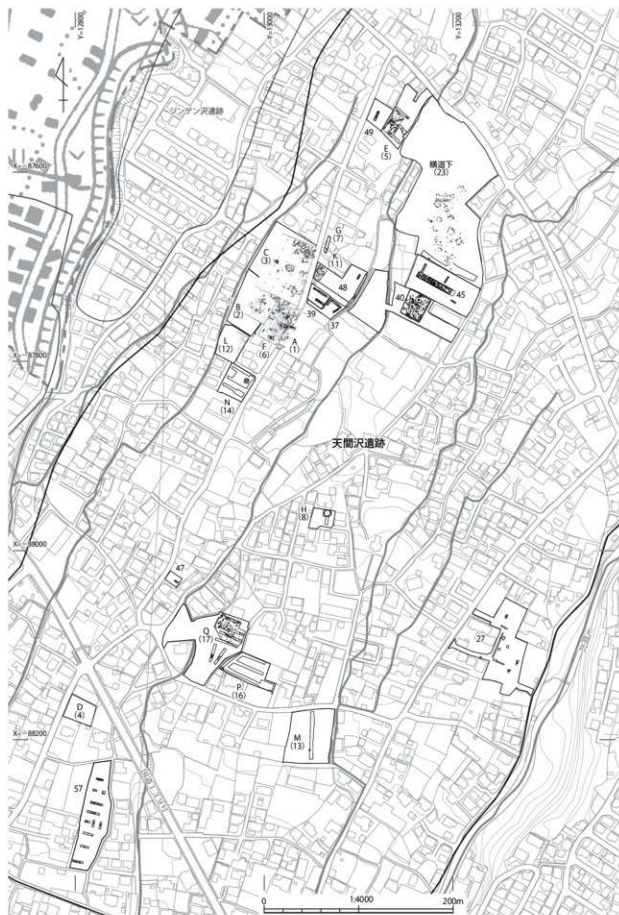
第121図 神谷古墳群の内容変更



第122図 富士岡3古墳群・富士岡4古墳群の内容変更



第125図 天間沢遺跡 調査履歴図



第 126 図 天間沢遺跡 遺構分布状況図

完新世になって、P地区とQ地区の富士黒土層からは縄文時代早期後葉の遺物が出土し、天間沢遺跡のほぼ全域で、栗色土層中で縄文時代中期から後期にかけての遺構と遺物が出検される。特に縄文時代中期後葉に最盛期を迎えている。天間沢遺跡は、近隣の縄文時代中期の遺跡として著名な富士宮市の国指定史跡千居遺跡や滝戸遺跡、沼津市の大芝原遺跡などとともに、富士・愛鷹山麓の拠点集落として営まれていたと考えられる。

その後も、栗色土層を切り込む形で、黒色土を覆土とする古墳時代前期の建物などの遺構、遺物が出検され、さらに奈良・平安時代から中世までの遺物が出土していることから、天間沢遺跡は更新世末期から中世まで、人々の生活が営まれていることがわかってきている。

天間沢遺跡が発見されたのは昭和2～3年(1927～28年)のことで、富士宮市域を中心に遺跡踏査・遺物採集を行っていた岳南考古学会の佐野武勇氏が、旧鷹岡村天間の畑を踏査し、多数の縄文土器・

石器を確認したことによる。その後も多くの研究者や学生により遺跡踏査が行われたが、小規模ながら初めての発掘調査(第6地区-1次、旧:第1次調査)が行われたのは、発見から30年以上が経過した昭和35年のことであった。

開発に伴う発掘調査が相次いだのは、昭和45年から昭和47年にかけてのことである。道路建設に伴う第1地区(旧:第2次調査 A地区)、市立幼稚園建設に伴う第2地区(旧:第3次調査 B地区)、市営団地建設に伴う第3地区(旧:第4次調査 C地区)、ボーリング場建設に伴う第23地区-1次(旧:第5次調査 横道下地区)と、3年間という短期間に4次に渡る緊急発掘調査が実施された。近接した地区で実施されたこれらの調査では、縄文時代中期・後期および古墳時代前期の集落が出検され、とりわけ縄文時代中期の遺物出土量が際立っていたことから、天間沢遺跡は当地域における当該期の中核的な遺跡と捉えられることとなった。

第11表 天間沢遺跡調査履歴

調査年度	調査区画	地区・次 (旧調査区画)	調査者	調査期間	所在地 調査の経緯	発掘面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	報告書
S35	6地区-1次 (第1次 F地区の一部)		宇野 調査	1960****	天間 1048 - 1 宇野調査	100	縄文中期	配石遺構		
S44	1地区 (第2次 A地区)		本 調査	19700323 ～ 19700405	天間 1048 外 宇野高屋天間氏祖傳建設	300	縄文中期 古墳初期	配石遺構 建物2	縄文土器・石器 土師器	2
S46	2地区 (第3次 B地区)		本 調査	19710910 ～ 19711029	天間 1047 - 1 市立天間幼稚園建設	2,600	縄文中期	配石遺構・土坑5・建物1	縄文土器・石器	2
S46	3地区 (第4次 C地区)		本 調査	19711224 ～ 19720627	天間 1045 - 1 外 宇野高屋天間氏祖傳建設	3,400	縄文中期 古墳初期	建物11・土坑15 建物3	縄文土器・石器 土師器	2
S46	23地区-1次 (第5次 横道下地区第1区)		本 調査	19711224 ～ 19720215	天間 995 ボーリング場建設	500	縄文中期～後期 古墳初期	配石遺構・建物1 建物6	縄文土器・石器 土師器	2
S47	4地区 (第6次 D地区)		試掘	19720325 ～ 19720329	天間 577 - 1 道新館建設	100	縄文中期 律令期	ビッド状遺構	縄文土器 土師器	20
S47	5地区-1次 (第6次 E地区)		試掘	19721223 ～ 19731229	天間 988 - 1 道新館建設	50	縄文中期 古墳初期	ビッド状遺構 建物1	縄文土器	2
S53	6地区-2次 (第7次 F地区)		試掘	19781002 ～ 19781202	天間 1048 - 1 市立天間幼稚園拡張	1,053	縄文中期	土坑30・建物2 土坑遺構4	縄文土器・石器	1
S54	24地区 (第1～V地点)		試掘	19791006 ～ 19791116	久武 外 市立土師館建設		縄文 弥生	なし	縄文土器・石器、有孔磨製 石器	3
S58	17地区-1次 (Q地区)		試掘	19830418 ～ 19830419	天間 1066 - 1 天間公園整備建設	1,142 125	なし	なし	なし	本年 第2巻
S58	7地区 (第8次 G地区)		試掘	19831024 ～ 19831028	天間 1045 - 5 道新館建設	50	縄文 古墳	配石遺構1・建物1・土坑2 ビッド2	縄文土器	20
S58	8地区 (第8次 H地区)		試掘	19831107 ～ 19831112	天間 1130 - 1 道新館建設	50	古墳	壁穴建物1		20
S58	9地区 (第8次 I地区)		試掘	19831114 ～ 19831117	天間 1121 道新館建設	50	縄文	なし	縄文土器	20
S58	10地区 (第8次 J地区)		試掘	19831118 ～ 19831122	天間 528・529 道新館建設	50	律令期	なし	土師器・須恵器	20
S59	11地区 (保地区)		試掘	19840115 ～ 19840331	天間 1011 - 1 分市建設調査	200	縄文	建物5・土坑	縄文土器	
S61	12地区 (L地区)		試掘	19860905 ～ 19860910	天間 1062 - 3 宅地造成	750 300	縄文 古墳古墳	土坑5 溝状遺構1	縄文土器・須恵石・打製石 器	20
S62	13地区 (M地区)		試掘	19870511 ～ 19870515	天間 1312 - 1 外 宅地造成	2,579 150	縄文	土坑2	無し(周辺から縄文土器・ 土師器出土)	20
S62	23地区-2次 (横道下地区第2次)		試掘	19870807 ～ 19870921	天間 999 外 宅地造成	7,000	縄文	遺構1・土坑1 ・配石遺構1	縄文土器・石器	本年 第7巻
H01	14地区 (N地区)		試掘	19890605 ～ 19890622	天間 1061 - 1 外 宅地造成	968 367	縄文 古墳初期	壁穴建物1・ビッド1	縄文土器・石器・石斧 土師器	20

調査年度	調査番号	地区・区(旧地区名)	調査時期	調査期間	調査の経緯	計数(㎡) 調査(㎡)	時代	遺構	遺物	報告書
H01		15地区 (O地区)	試掘	19890605 ～ 19890913	天間 1896 - 2 外 農産物出荷用住宅建設	4,758 調査 660 中・近世	土坑 2		縄文土器片	20
H03		16地区 (P地区)	試掘	19911202 ～ 19911211	天間 1120 - 4 天間公民館駐車場造成	1,329 調査 495 古墳	惣穴建物		縄文土器・須崎石 土層	20
H03		17地区-2次 (Q地区)	試掘	19911219	天間 1115 - 1 外 天間公民館駐車場造成	648	なし	なし	なし	本年 第2期
H03		18地区 (R地区)	試掘	19920316 ～ 19920319	天間 1943 - 1 送電線沿道建設	144 22	なし	なし	なし	本年 第3期
H04		19地区 (S地区)	試掘	19920708 ～ 19920710	天間 1001 - 4 共同住宅建設	905 65	なし	なし	なし	本年 第4期
H04		20地区 (T地区)	試掘	19911011 ～ 19921026	天間 1127 - 1 外 共同住宅建設	960 312	なし	なし	なし	本年 第5期
H04		21地区 (U地区)	試掘	19921020 ～ 19921027	天間 591 - 1 倉庫・事務所建設	2,915 194	なし	なし	なし	本年 第6期
H04		22地区 (V地区)	試掘	19900225	天間 1785 - 21 送電線沿道建設	144 40	なし	なし	なし	本年 第3期
H05		5地区-2次 (区-2地区)	試掘	19930420 ～ 19930428	天間 908 - 8 外 共同住宅建設造成	1,274 調査 170 古墳	土坑・ビット 溝状遺構		縄文土器	20
H05		5地区-3次 (区-2地区)	調査	19930524 ～ 19930525	天間 908 - 8 外 共同住宅建設造成	1,274 調査 300 古墳	土坑・古跡・溝 ビット状遺構・溝状遺構		縄文土器・石器	20
H14		17地区-3次 (Q地区-1次)	試掘	20020508 ～ 20020520	天間 1117 - 1 外 天間公民館南館	1,633 調査 363 古墳	溝渠		縄文土器・石器 土器	4 本年 第2期
H14		17地区-4次 (Q地区-2次)	調査	20020527 ～ 20020701	天間 1117 - 1 外 天間公民館南館	800 調査 683 古墳	土坑		縄文土器 土器	本年 第2期
H14		25地区 (Y地区)	試掘	20020823	天間 590 - 1 外 共同住宅建設	635 90	なし	なし	なし	
H17		26地区 (Z地区)	試掘	20000302	天間 917 - 1 宅地造成	839 26	なし	なし	なし	5
H19 H19-22		27地区-1次	試掘	20000318 ～ 20000326	天間 1238 - 1 外 宅地造成	3,266 87	古墳	惣穴建物 2・溝状遺構 1	土器	6
H20 H20-09		27地区-2次	試掘	20000107	天間 1238 - 1 外 宅地造成	2,665 27	なし	なし	なし	4
H20 H20-02		28地区	試掘	20000521 ～ 20000522	天間 1167 - 1 外 集合住宅建設	995 56	なし	なし	なし	4
H20 H20-11		29地区	試掘	20001215 ～ 20001222	天間 1189 - 1 外 宅地造成	4,000 209	なし	なし	なし	4
H21 H21-01		27地区-3次	試掘	20090406	天間 1242 外 集合住宅建設	1,866 13	なし	なし	なし	7
H22 H22-27		30地区	試掘	20110126	天間 625 - 10 外 不動産売買	342	なし	なし	なし	8
H23 H23-02		31地区	試掘	20110411	天間 1168 - 6 外 集合住宅建設	635 14	なし	なし	なし	8
H23 H23-08		32地区	試掘	20110603	天間 1096 - 1 外 集合住宅建設	628 19	縄文	なし	土器	8
H24 H24-15		33地区	確認	20121129	天間 1000 - 1 の一部 集合住宅新築	896 12	なし	なし	なし	9
H24 H24-16		34地区	確認	20121205 ～ 20121206	天間 964 - 1 外 及び官有地 宅地造成	2,158 72	縄文	なし	縄文土器	本年 第4期
H25 H25-03		35地区	確認	20130418	天間 1174 - 3 外 宅地造成	1,585 38	なし	なし	なし	9
H25 H25-17		36地区	確認	20130609 ～ 20130911	天間 1263 外 宅地造成	2,178 82	なし	なし	なし	9
H25 H25-20		37地区	確認	20131001 ～ 20131004	天間 1010 - 5 個人住宅建設	398 調査 96	縄文	惣穴建物・ビット	縄文土器・石器	9
H25 H25-23		38地区	確認	20131029	天間 1317 - 1 外 共同住宅建設	965 9	なし	なし	なし	9
H25 H25-31		39地区	確認	20140117 ～ 20140110	天間 1010 - 6 個人住宅建設	353 53	縄文	土坑・ビット	縄文土器・石器	9
H26 H26-12		40地区-1次	確認	20140722	天間 1001-1 外 長屋住宅新築	3,517 99	縄文	惣穴建物・ビット	縄文土器	10
H26 H26-15		40地区-2次	確認	20140813 ～ 20140821	天間 1001-1 外 長屋住宅新築	3,517 調査 353	縄文	ビット	縄文土器	10
H26 H26-39		41地区	確認	20150126	天間 615-1 外 不動産売買	507 9	なし	なし	なし	11
H27 H27-03		42地区	確認	20150417	天間 600 番 1 外 店舗建設	1,510 23	なし	なし	なし	11
H27 H27-10		40地区-3次	土 調査	20150511 ～ 20150717	天間 1001 番 1 外 長屋新築	3,517 892	縄文	惣穴建物・溝 ・土坑・ビット	縄文土器・石器	11
H28 H28-25		43地区	確認	20161114	天間 990 番 1 外 個人住宅及び集合住宅建設	996 7	なし	なし	なし	12
H28 H28-27		44地区	確認	20161121	天間 1189 番 1 外 集合住宅建設	454 12	なし	なし	なし	12
H29 H29-05		45地区-1次	確認	20170509 ～ 20170510	天間 1000-1 宅地分譲	2,437 47	縄文	惣穴建物・土坑・ビット	縄文土器・石器	13
H29 H29-102		45地区-2次	土 調査	20170619 ～ 20170810	天間 1000-1 宅地分譲	272 調査	惣穴建物・溝 ・土坑・ビット	縄文土器・石器	13	
H29 H29-09		46地区	確認	20170628 ～ 20170629	天間 1137-1 農地改良	1,415 25	なし	なし	なし	14
H29 H29-12		47地区	確認	20170703	天間 1996-12 不動産売買	163 6	縄文	ビット	縄文土器・須崎石	14
H29 H29-15		48地区	確認	20170720 ～ 20170721	天間 1011-1 外 宅地造成	1,455 30	縄文	ビット	縄文土器	14
H29 H29-16		49地区	確認	20170817	天間 988-13 宅地造成	489 23	縄文	ビット・溝・不明遺構	縄文土器	14
H30 H30-24		50地区-1次	確認	20180724	天間 1889-14 個人住宅新築	276,000 4,429	なし	なし	なし	15

調査年度	調査番号	地区・次 (旧地区名)	調査経緯	調査時期	所在地 調査の形態	調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	報告書
H30	H30-25	51地区・1次	確認	20180725	天照 1884-1 専任住宅増築	485,120 13,570	なし	なし	なし	15
H30	H30-35	52地区・1次	確認	20180830	天照 1120-2 個人住宅増築	263,000 4,845	なし	なし	なし	15
H30	H30-39	53地区・1次	確認	20180906	天照 569番 122か 店舗建設	4,301,740 56,246	なし	なし	なし	15
H30	H30-40	54地区・1次	確認	20190108	天照 1079-12か 不動産売買	872,410 5,443	なし	なし	なし	15
H31	H31-31	49地区・4次	確認	20190826	天照 1001-6 個人住宅増築	321,000 12,693	なし	なし	なし	16
H31	H31-48	52地区・2次	確認	20191105	天照 1130-2 個人住宅増築	263,000 5,687	なし	なし	なし	16
H31	H31-01	55地区・1次	確認	20190417 ～ 20190418	天照 1075-1 外 宅間空地造成	1,804,000 91,819	なし	なし	なし	16
H31	H31-11	56地区・1次	確認	20190520	天照 1010-1 宅間分譲	280,000 10,552	なし	なし	なし	16
H31	H31-34	57地区・1次	確認	20190909 ～ 20190912	天照 529-1 13か 宅間分譲	4,200,000 調査 173,008 台員	土坑・ビット 壁穴建物・溝・土坑 ・ビット	土器・石器	16	
H31	H31-39	58地区・1次	確認	20190919	天照 1137-1 個人農地改良	350,000 調査 26,279	縄文	土器	16	
H31	H31-52	59地区・1次	確認	20191212	天照 584-13 不動産売買	227,090 4,078	なし	なし	なし	16
H31	H31-54	60地区・1次	確認	20191216 ～ 20191217	天照 1069-2 個人住宅増築	198,340 4,781	なし	なし	なし	16
R02	R02-09	17地区・5次	確認	20200422 ～ 20200423	天照 1115-1 前倉野町本増築	100,000 10,531	なし	なし	なし	17
R02	R02-25	61地区・1次	確認	20200722	天照 528-1 倉庫増築	345,000 15,035	なし	なし	なし	17
R02	R02-31	62地区・1次	確認	20200805	天照 528 不動産売買	593,000 17,113	なし	なし	なし	17
R02	R02-33	63地区・1次	確認	20200827	天照 1137-3 不動産売買	562,150 5,541	なし	なし	なし	17
R02	R02-49	64地区・1次	確認	20201014 ～ 20201016	天照 1320-5 個人住宅増築	702,000 16,998	なし	なし	なし	17
R03	R03-32	65地区・1次	確認	20211014	天照 1812-8 店舗建設	297,830 3,144	なし	なし	なし	18
R03	R03-15	66地区・1次	確認	20210820	天照 529 不動産売買	56,240 8,000	なし	なし	なし	18
R03	R03-33	67地区・1次	確認	20211115	天照 1206-1 個人住宅増築	205,410 6,314	なし	なし	なし	18
R03	R03-39	68地区・1次	確認	20211124 ～ 20211125	天照 1124-1 不動産売買	1,286,14 25,875	なし	なし	なし	18
R03	R03-52	69地区・1次	確認	20220201	天照 1072-7 12か 土庫増築	230,000 8,799	なし	なし	なし	18
R04	R04-17	45地区・3次	確認	20220616	天照 1000番 1 個人住宅増築	204,790 3,372	なし	なし	なし	19
R04	R04-101	48地区・2次	本発掘	20220801	天照 1011-7 個人住宅倉庫併用増設	4,643 調査	縄文	土器・石器	19	
R04	R04-01	70地区・1次	確認	20220405	天照 522-18 外 不動産売買	69,020 6,330	なし	なし	なし	19
R04	R04-40	71地区・1次	確認	20221121	天照 550番 3 個人住宅増築	195,820 22,030	なし	なし	なし	19
R05	R05-08	72地区・1次	確認	20230419	天照 1327-14 個人住宅増築	163,720 平安 4,971	なし	土器 (平安時代)	本書 1章	
R05	R05-29	73地区・1次	確認	20230828	天照 1023-1 個人住宅増築	473,570 14,221	なし	なし	なし	本書 1章
R05	R05-46	74地区・1次	確認	20231102	天照 1942-5 個人住宅増築	731,780 5,393	なし	なし	なし	本書 1章
R05	R05-48	75地区・1次	確認	20231129 ～ 20231130	天照 1296-6 宅間分譲	2,259,000 調査 28,269 台員	なし	なし	なし	本書 1章

報告書 1 『天間沢遺跡第7次 (F地区) 発掘調査報告書』(1979)

- 『天間沢遺跡1 遺構編』(1984)、『天間沢遺跡2 遺物・考査編』(1985)
- 『西宮市遺跡(宮土地区)・西宮市城東町西宮遺跡跡地内埋蔵文化財発掘調査報告書』『天間地区』(1981)
- 『平成14・20年度 宮土市内遺跡発掘調査報告書』(2010)
- 『平成17・18年度 宮土市内遺跡発掘調査報告書』第2巻 (2008)
- 『平成15・19年度宮土市内遺跡発掘調査報告書』(2009)
- 『平成21年度 宮土市内遺跡発掘調査報告書』(2011)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—平成22・23年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第54集』(2013)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—平成24・25年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第57集』(2015)
- 『天間沢遺跡 第45地区』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第58集』(2016)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—平成26・27年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第60集』(2017)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—平成28年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第62集』(2017)
- 『天間沢遺跡 第45地区』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第65集』(2019)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—平成29年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第66集』(2019)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—平成30年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第67集』(2019)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—令和元年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第70集』(2021)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—令和2年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第73集』(2022)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—令和3年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第76集』(2023)
- 『宮土市内遺跡発掘調査報告書—令和4年度—』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第79集』(2024)
- 『天間沢遺跡 D・E・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P地区』『宮土市埋蔵文化財調査報告 第80集』(2024)

第2節 Q地区(第17地区)の調査

1次調査に至る経緯

昭和57年、富士市教育委員会は、富士市天間1106-1外(1,142.5㎡)において、天間公民館の建設を計画した。

当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内に位置することから、昭和57年11月24日、富士市教育委員会文化振興課は、文化財の所在の有無の確認のための分布調査を実施した。

その結果、当該地は傾斜地であり、さらに1～1.5mの盛土がされているため、遺構等が存在する可能性は低いものの、周辺からは遺物が採集されるため、事前に確認調査を実施する必要があると、静岡県教育委員会へ報告した(昭和57年11月26日付け、富教文第59号)。

1次調査の経過

確認調査は、富士市教育委員会文化振興課職員により、昭和58年4月18日から4月19日にかけて実施された。

調査地は中央を北から南へ流れる小川により東西に分けられている。東側は西側より1mほど低く、一部を削平して平坦地になっている。西側は道路面に合わせて盛土がされ、駐車場として利用されている。

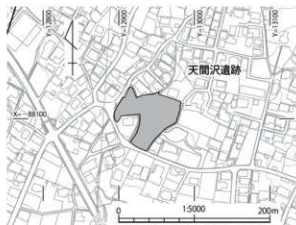
東側に十字形のトレンチを1箇所、西側に南北方向のトレンチを1箇所設定し、重機により掘削した。

東側トレンチでは、厚さ0.5mほどの表土層の直下に、平坦に削られた黄褐色ローム層が検出された。西側トレンチでは、盛土の下に厚さ0.5mほどの旧表土が検出されたものの、その下には遺物包含層はすでなく、古富士泥流の礫層となっていた。

調査地においては遺物包含層が消滅しており、遺跡の分布はないものと判断された。

2次調査

平成3年度には、敷地南側での天間公民館駐車場造成に伴い、工事立会いを実施した(これを2次調査と位置づける)が、遺構・遺物は確認されなかった。



第127図 天間沢遺跡Q地区 位置図

3次調査(旧:Q地区-1次)に至る経緯

富士市役所生涯学習課(当時)では、富士市天間1117-1外(1,633㎡)において天間公民館の増築工事を計画した。

平成13年10月10日、富士市長から文化財保護法第57条の3第1項(当時)の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の通知書」が提出され(文書番号64号)、これを受けて富士市教育委員会文化スポーツ課(当時)による確認調査を実施することとなった。

3次調査の経過

調査は平成14年5月8日から5月20日にかけて実施した。

調査地の南側に南北方向のトレンチを2本(1～2Tr)、中央から北側に東西方向のトレンチを4本(3～6Tr)、北西側に南北方向のトレンチを1本(7Tr)設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、多数の土坑・ピットを検出した。なかでも、調査地北西に設定した7Trでは、縄文時代の集石遺構(7Tr SS1)とそれに伴う土器集中や、古墳時代の土器を埋納した土坑(7Tr SK4)などが検出され、調査地中央の4・5Trでは自然礫の集積が認められた。なお、この調査時にPitと土坑の名称が、大きさに差異なく併用されているため、現地調査名のまま遺構名とした。

4 次調査（旧：Q 地区-2 次）に至る経緯

確認調査（3 次調査）の結果を受けて、富士市教育委員会文化スポーツ課と富士市社会教育課との間で協議を行い、調査地の北半部分を対象に本発掘調査を実施することとなった。

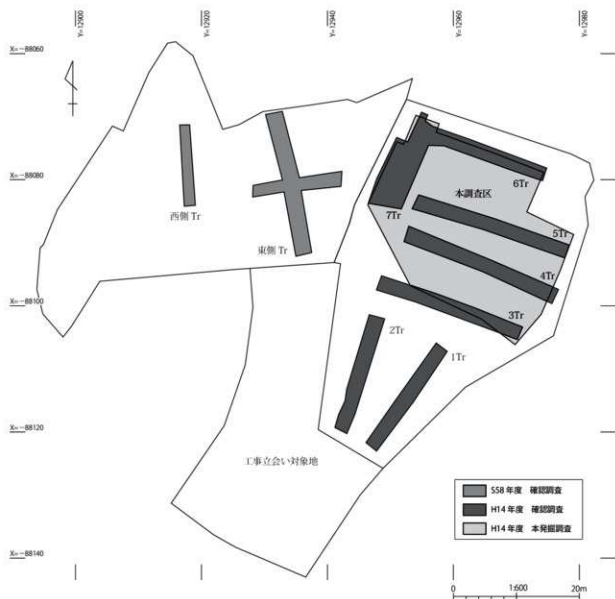
4 次調査の経過

本発掘調査（4 次調査）は平成 14 年 5 月 27 日から 6 月 28 日にかけて実施した。

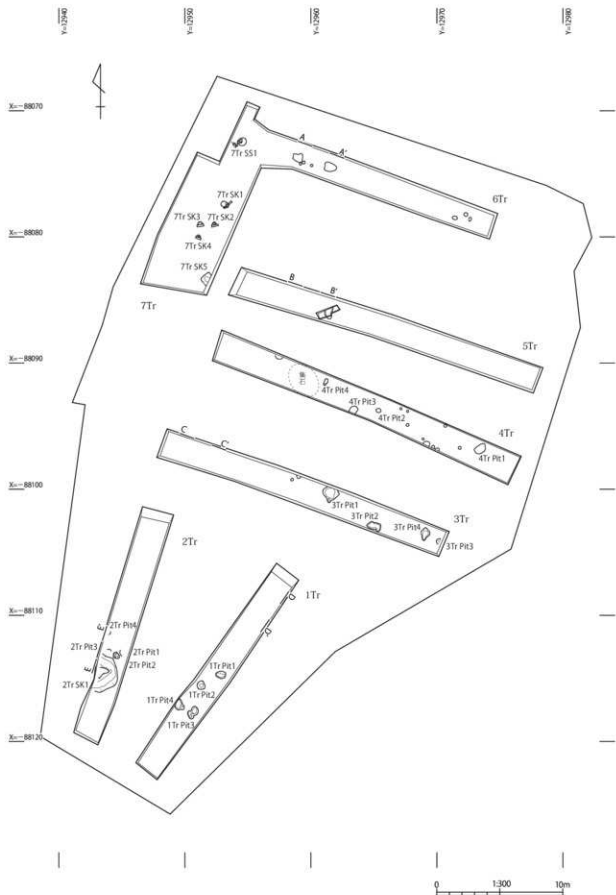
対象地の北半分に本調査区（683 m²）を設定し、重機掘削により遺構検出面まで掘り下げた後、人力で精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、ピット 89 基（Pit1～91、ただし 82・88 は欠番）を検出し、土層観察や、写真・図面による記録保存を行った。

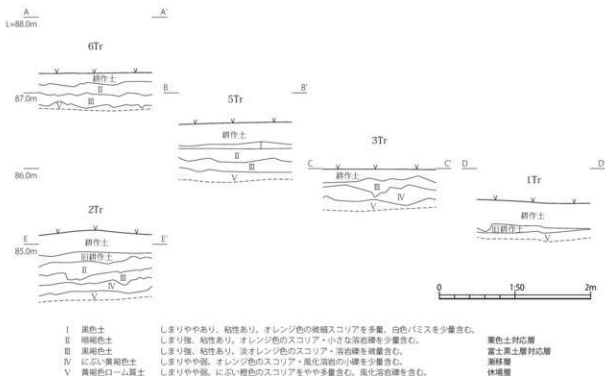
調査の結果について、「発掘調査結果概要」を静岡県教育委員会と富士市長（生涯学習課）に提出した（平成 15 年 3 月 17 日付け、富教文第 393 号）。



第 128 図 天間沢遺跡 Q 地区 トレンチおよび本調査区配置図



第 129 図 天間沢遺跡 Q 地区 トレンチ全体図



第130図 天間沢遺跡Q地区 トレンチセクション図

調査の体制

3・4次調査（平成14年度）は以下の体制で実施した。

調査主体	富士市教育委員会	教育長	平岡 彦三
		教育次長	鈴木 英之
	文化スポーツ課	課長	石井 邦敏
		統括主幹	殿岡 孝則
		主幹	渡井 義彦
		指導主事	渡邊 豊
		主査	志村 博
		上席主事	前田 勝己
		臨時職員	吉田 博子

調査の成果

3次調査では、1Trでビット4基（1Tr Pit1～4）、2Trでビット4基（2Tr Pit1～4）と土坑1基、3Trでビット4基（3Tr Pit1～4）、4Trでビット4基（4Tr Pit1～4）、7Trで土坑5基（7Tr SK1～5）と集石遺構1基（7Tr SS1）を検出した。集石遺構には63・69の縄文時代中期末の加曽利E4式土器が伴っている。ビット・土坑の規模等は第12表に示す。ただし、2Tr SK1は、幅1.0～1.3mの溝が半径1.5mほどの半円形を成したような形状で、深さは55cmを測る。4・5Trでは、自然礫の集積が認められた。

4次調査では、ビット89基（Pit1～91、ただし82・88は欠番）を検出・完掘した。特にPit63からは、ハツ崎1式（I）の完形深鉢が潰れるように出土し、土器表面に煤の付着が顕著であることから、Pit63は縄文時代草創期～早期の時期に特徴的に使用される「炉穴」であった可能性が高い。ビット・土坑の規模等は第12表に示す。

調査区中央南寄りでは3次調査4・5Trで検出されたものと同様に自然礫の集積が認められた。しか

し、これらは谷地形の場所に集中していることが確認され、また周辺で認められる集石・配石土坑等とは石の大きさ等が異なることから、谷地形に自然堆積したものだと判断した。

土器は、縄文時代早期後葉のハッ崎Ⅰ式を主体とするが、茅山式並行と考えられる、やや赤みがかった胎土で少量の繊維を含んだ沈線文や縄文を施した土器を伴っている。また、少量の縄文時代中期、古墳時代の土器、平安時代の灰軸陶器等が出土している。

縄文時代早期後葉の土器は、ほぼハッ崎Ⅰ式のみという状況で、隣接するP地区では、その量が減少するという傾向から、Q地区を中心とする狭い範囲がハッ崎Ⅰ式の天間沢遺跡といえるかもしれない。

なお、土坑4(SK4)からは、完形の古墳時代の小型土師器碗(75)が出土しており、土師器と思われる壺胴部(76)も出土していることを考慮すると、ピットと土坑に関しては、縄文時代と古墳時代、平安時代の遺構が混在している可能性が高い。

石器は、黒曜石製の無茎凹基(79)と無茎平基(80)の石鏃、81の黒曜石製ノッチ、82・83の黒曜石と84の富士川ホルンフェルスの石核、85と86の磨石が出土している。また、古墳時代以降のものと考えられる、87の線条痕が顕著な大型の砥石も出土している。81のノッチに関しては、石鏃等の小型石器の素材となる剥片を作出するための、石核残核を再利用していると考えられ、打点凹部のカーブを利用し刃部を形成している。

出土した遺物で、特に注目されるのは、ハッ崎Ⅰ式の完形深鉢形土器である。口縁部から平底の底部までは完全に揃っている類例は知られていない。また、土器焼成後と考えられるが、底部側面に7つの貫通孔が片側に偏って穿てられている。また、胴部には土器を覆う龍目痕が観察される。この土器は土坑(Pit63)から全個体が潰れたように出土している。このような状況から、本来、Pit63は上部が炉体が失われた炉穴と思われる。土器も全体が煤に覆われた様子から、炉穴で焼かれた状況が想像され、縄文時代早期に多用された炉穴の使用法が類推できる一例となるだろう。図版には、この土器を三次元ソ

フトウェア Scaniverse、VisualSFM、CloudCompare、MeshLab で3D化したモデルをもとにして展開した画像、さらに Lit Sphere Radiance Scalling 処理を行って細部を明確化した画像を掲載した。

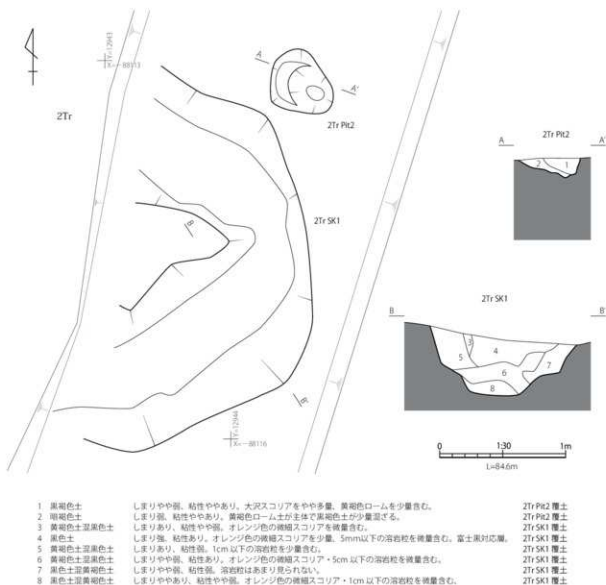
ハッ崎Ⅰ式は、増子康真氏が1983年に設定した縄文時代早期後葉の土器型式で、東海地方を中心に関東から関西まで分布している。時間的には関東の茅山下層式後半期と並行し、東海東部の早期後葉においては、清水柳E式(ミツ坂式)からはじまり、在地系野島式(木戸上式)から元野式に引き続き、次の粕畑式に繋がる連続と続く在地型式の一部をなす。器形のわかる個体は、滋賀県米原市の磯山城遺跡、三島市天台B遺跡、長泉町富士石遺跡、神奈川県横須賀市吉井貝塚が知られるのみであり、現在まであまり資料数の多くないハッ崎Ⅰ式が、Q地区では、ほぼ純粋な形で纏まっていることが重要であろう。

上記以外の遺物として、灰軸陶器(77)と中世の瀬戸美濃系の椀口縁部(78)、江戸末の銭貨「文久永宝」(88)が出土している。

参考文献

- 増子康真 1983 「ハッ崎Ⅰ式土器をめぐる」『古代人』41 名古屋考古学会
- 中井 均 1986 『磯山城遺跡』米原市教育委員会
- 池谷初恵 1998 「(1) 土器」『中村分遺跡 天台B遺跡・台崎C遺跡 試掘調査』三島市教育委員会
- 毒島正明 2005 「ミツ坂式」「木戸上式」の再提唱について『土曜考古』第29号 土曜考古学研究会
- 依原千賀子 2009 「ふたつの野島-長泉町梅ノ木沢遺跡の第Ⅱ群土器」『研究紀要』第15号 静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 小崎 晋 2010 「東海地方における早期後葉-前期初頭の貝塚と土器」『縄文海進の考古学』六一書房
- 壬生亮輔・勝又直人 2012 「第3章 縄文時代の遺構と遺物」『富士石道跡Ⅲ』静岡県埋蔵文化財センター
- Romain Vergne, Romain Pacanowski, Pascal Barla, Xavier Granier, Patrick Reuter 2012 「Enhancing surface features with the Radiance Scalling Meshlab Plugin」『Archaeology in the Digital Era Volume II』e-Papers from the 40th Conference on Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology Southampton, 26-30 March 2012 pp.417-421.
- 野内秀明 2010 「43a 吉井貝塚・吉井城山」『新横須賀市史』横須賀市

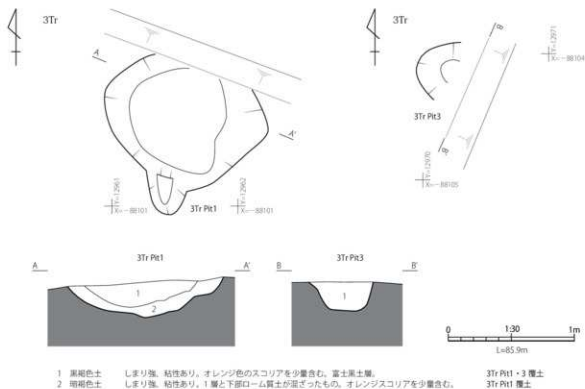




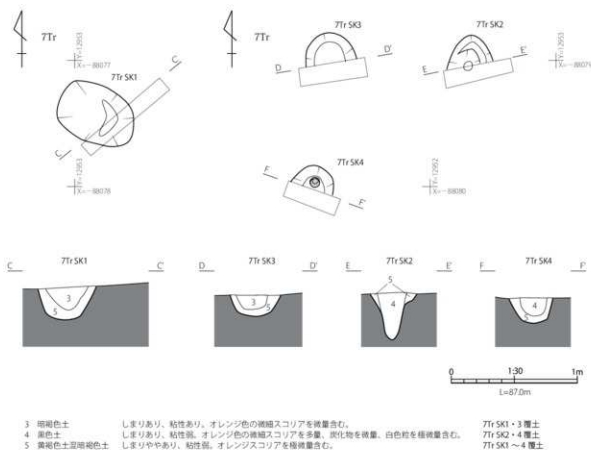
第132図 天間沢遺跡Q地区 2Tr遺構平面図、セクション図



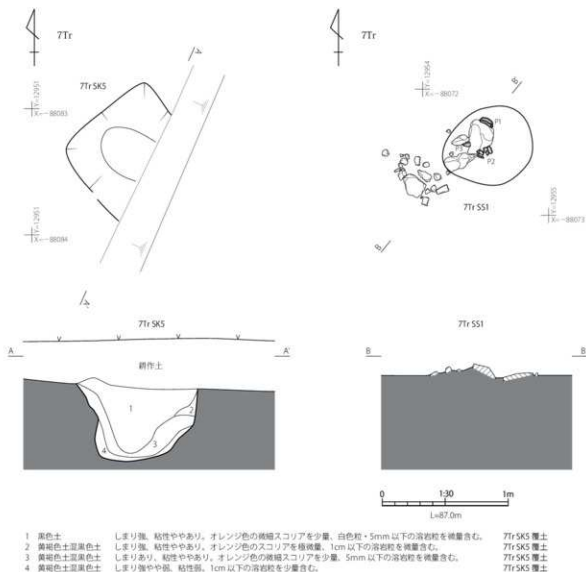
第133図 天間沢遺跡Q地区 4Tr遺構平面図、セクション図



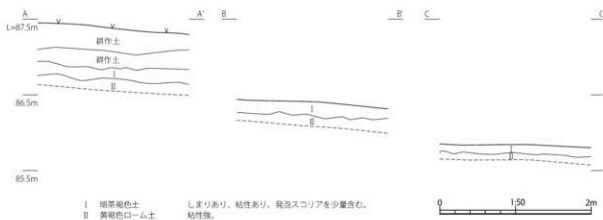
第134図 天間沢遺跡Q地区 3Tr 遺構平面図、セクション図



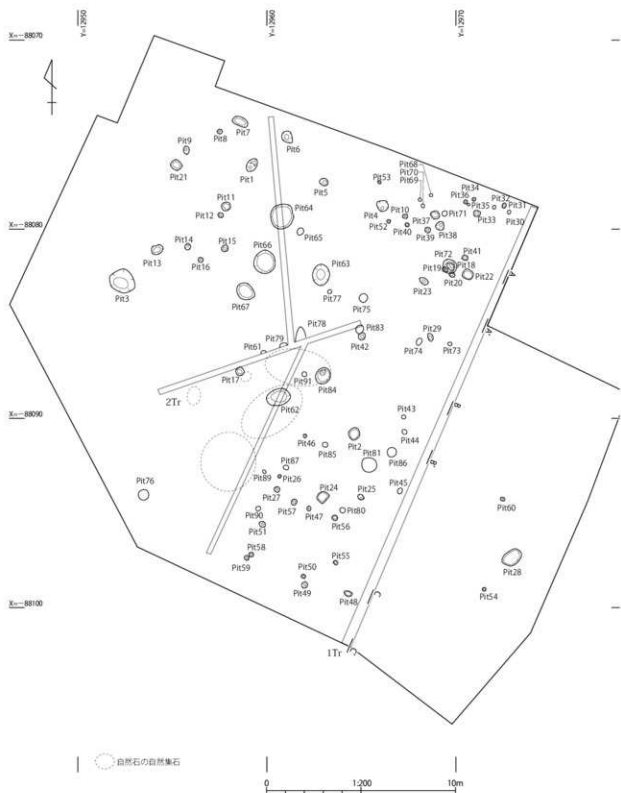
第135図 天間沢遺跡Q地区 7Tr 遺構平面図、セクション図 ①



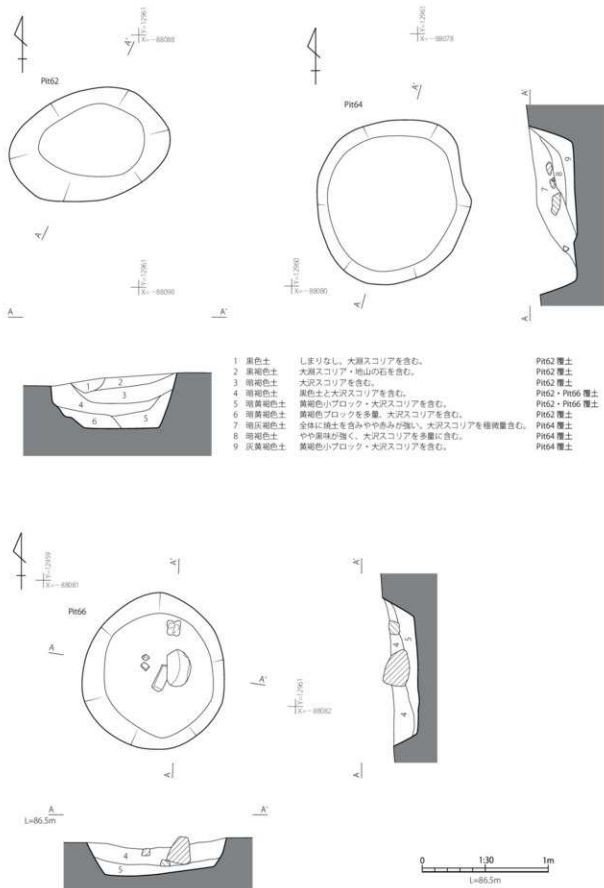
第136図 天間沢遺跡Q地区 7Tr遺構平面図、セクション図②



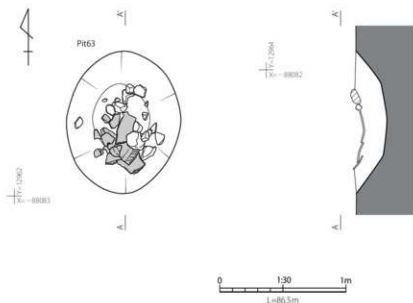
第137図 天間沢遺跡Q地区 本調査区セクション図



第 138 図 天間沢遺跡 Q 地区 本調査区全体図



第139図 天間沢遺跡Q地区 本調査区 遺構平面図、セクション図 ①

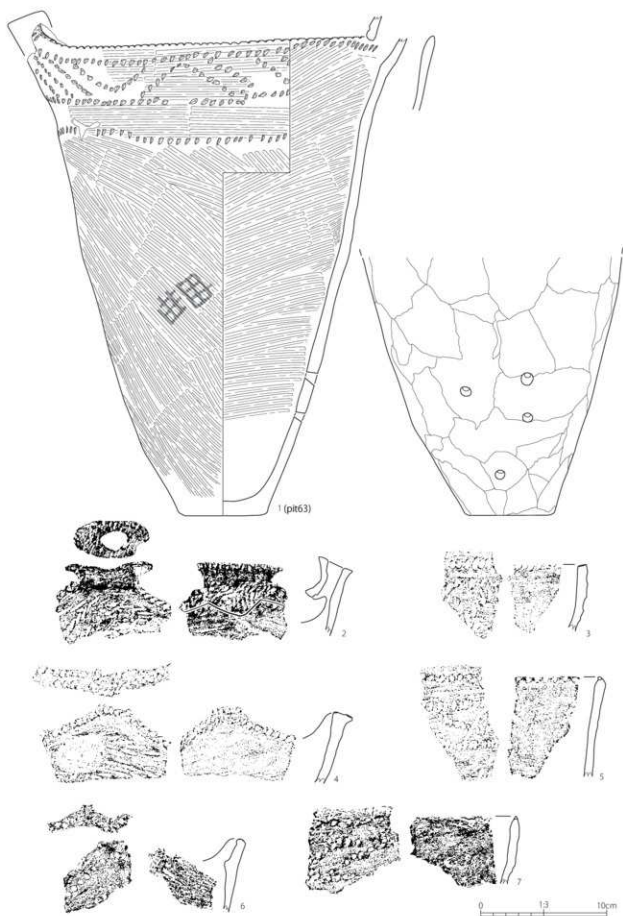


第140図 天間沢遺跡Q地区 本調査区 遺構平面図、セクション図 ②

第12表 天間沢遺跡Q地区 遺構一覧表

調査区	遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	覆土
1Tr	1Tr Pt1	80	59	18	不整形	丸底	
1Tr	1Tr Pt2	68	59	22	不整形	丸底	
1Tr	1Tr Pt3	95	62	20	不整形	平底	
1Tr	1Tr Pt4	87	(77)	19	不整形	平底	
2Tr	2Tr Pt1	-	-	-	-	-	
2Tr	2Tr Pt2	55	49	15	不整形	丸底	
2Tr	2Tr Pt3	-	-	-	-	-	
2Tr	2Tr Pt4	-	-	-	-	-	
3Tr	3Tr Pt1	132	(118)	30	不整形	浅い丸底	
3Tr	3Tr Pt2	112	58	16	不整形	丸底	
3Tr	3Tr Pt3	50	(29)	22	(円形)	平底	
3Tr	3Tr Pt4	103	71	15	不整形	-	
4Tr	4Tr Pt1	90	62	16	楕円形	平底	富士黒
4Tr	4Tr Pt2	42	34	12	円形	平底	富士黒
4Tr	4Tr Pt3	(55)	57	12	(楕円形)	平底	スコリア含む
4Tr	4Tr Pt4	58	28	27	楕円形	平底	スコリア含む
7Tr	7Tr SK1	64	45	27	楕円形	丸底	
7Tr	7Tr SK2	37	(24)	37	(楕円形)	丸底	
7Tr	7Tr SK3	40	(24)	17	(円形)	丸底	
7Tr	7Tr SK4	35	(19)	20	(円形)	丸底	
7Tr	7Tr SK5	90	(63)	58	(方形)	丸底	
7Tr	7Tr SS1	74	61	-	楕円形	-	
本調査区	Pt1	76	50	33	楕円形	-	スコリア含む
本調査区	Pt2	65	59	26	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pt3	142	119	48	楕円形	-	黒色土
本調査区	Pt4	63	63	35	楕円形	-	
本調査区	Pt5	48	37	19	円形	-	
本調査区	Pt6	72	59	15	楕円形	-	
本調査区	Pt7	84	49	19	楕円形	-	
本調査区	Pt8	29	24	34	円形	-	
本調査区	Pt9	44	31	20	楕円形	-	
本調査区	Pt10	28	21	21	楕円形	-	
本調査区	Pt11	47	45	13	円形	-	
本調査区	Pt12	30	26	39	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pt13	63	48	52	楕円形	-	
本調査区	Pt14	34	29	43	円形	-	
本調査区	Pt15	38	33	22	円形	-	
本調査区	Pt16	28	27	19	円形	-	
本調査区	Pt17	46	41	11	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pt18	46	35	47	楕円形	-	スコリア含む
本調査区	Pt19	31	25	35	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pt20	32	24	38	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pt21	56	50	24	隅丸方形	-	

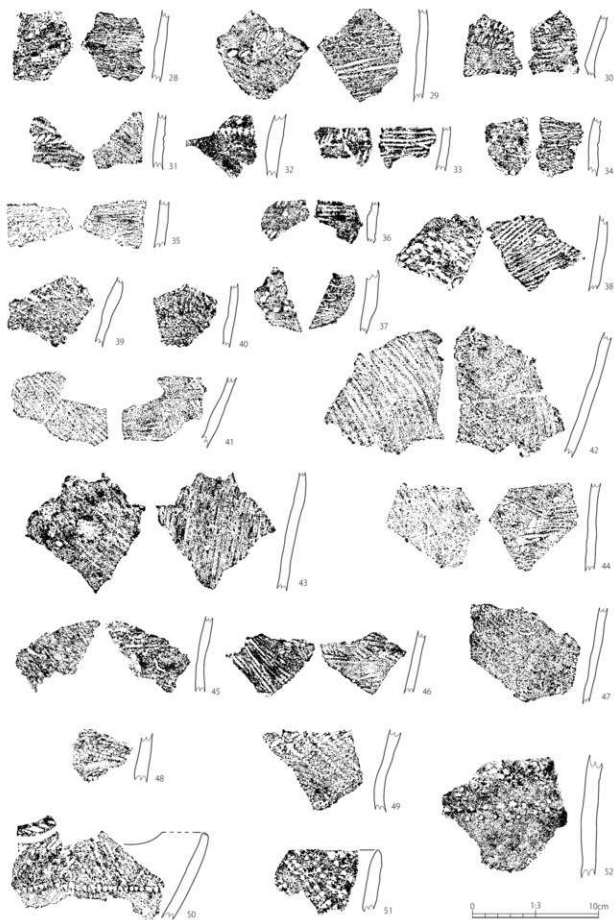
調査区	遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備注
本調査区	P622	58	53	23	円形	-	
本調査区	P623	54	33	28	楕円形	-	
本調査区	P624	60	52	16	楕円形	-	スコリア含む
本調査区	P625	35	27	15	不整形	-	
本調査区	P626	18	18	20	円形	-	
本調査区	P627	30	28	19	円形	-	
本調査区	P628	109	75	30	楕円形	-	
本調査区	P629	44	27	31	楕円形	-	
本調査区	P630	20	18	16	円形	-	
本調査区	P631	30	22	19	円形	-	
本調査区	P632	19	18	19	円形	-	
本調査区	P633	38	33	20	円形	-	
本調査区	P634	20	19	32	円形	-	
本調査区	P635	15	14	29	円形	-	
本調査区	P636	21	21	38	円形	-	
本調査区	P637	50	45	51	楕円形	-	スコリア含む
本調査区	P638	46	45	47	楕円形	-	
本調査区	P639	32	29	51	円形	-	スコリア含む
本調査区	P640	23	22	32	円形	-	スコリア含む
本調査区	P641	32	26	22	楕円形	-	
本調査区	P642	40	37	29	円形	-	
本調査区	P643	22	21	19	円形	-	
本調査区	P644	28	24	10	円形	-	
本調査区	P645	31	23	43	円形	-	スコリア含む
本調査区	P646	21	18	26	円形	-	
本調査区	P647	25	21	34	円形	-	スコリア含む
本調査区	P648	44	29	8	楕円形	-	
本調査区	P649	36	32	54	円形	-	スコリア含む
本調査区	P650	24	21	31	円形	-	スコリア含む
本調査区	P651	35	29	40	円形	-	スコリア含む
本調査区	P652	19	17	27	円形	-	スコリア含む
本調査区	P653	21	16	25	円形	-	
本調査区	P654	20	20	11	円形	-	
本調査区	P655	25	21	27	楕円形	-	
本調査区	P656	34	29	23	円形	-	
本調査区	P657	32	28	19	円形	-	
本調査区	P658	26	23	31	円形	-	
本調査区	P659	27	25	28	円形	-	
本調査区	P660	26	20	18	円形	-	
本調査区	P661	27	(13)	-	(円形)	-	
本調査区	P662	126	88	42	楕円形	平底	スコリア含む
本調査区	P663	113	90	20	楕円形	丸底	
本調査区	P664	137	120	34	楕円形	平底	スコリア含む
本調査区	P665	40	32	-	円形	-	
本調査区	P666	123	113	25	円形	平底	スコリア含む
本調査区	P667	105	83	-	楕円形	-	
本調査区	P668	16	16	-	円形	-	
本調査区	P669	16	16	-	円形	-	
本調査区	P670	20	17	-	楕円形	-	
本調査区	P671	28	24	-	楕円形	-	
本調査区	P672	79	74	-	円形	-	
本調査区	P673	21	19	-	円形	-	
本調査区	P674	39	27	-	楕円形	-	
本調査区	P675	47	43	-	円形	-	
本調査区	P676	57	57	53	円形	-	
本調査区	P677	21	21	-	(円形)	-	
本調査区	P678	(65)	60	-	(楕円形)	-	
本調査区	P679	42	(19)	-	(円形)	-	
本調査区	P680	28	28	-	円形	-	
本調査区	P681	79	75	-	円形	-	
本調査区	P683	46	39	-	円形	-	
本調査区	P684	89	76	-	円形	-	
本調査区	P685	25	25	-	円形	-	
本調査区	P686	53	48	-	円形	-	
本調査区	P687	30	21	-	円形	-	
本調査区	P689	19	16	-	円形	-	
本調査区	P690	27	22	-	円形	-	
本調査区	P691	25	24	-	円形	-	



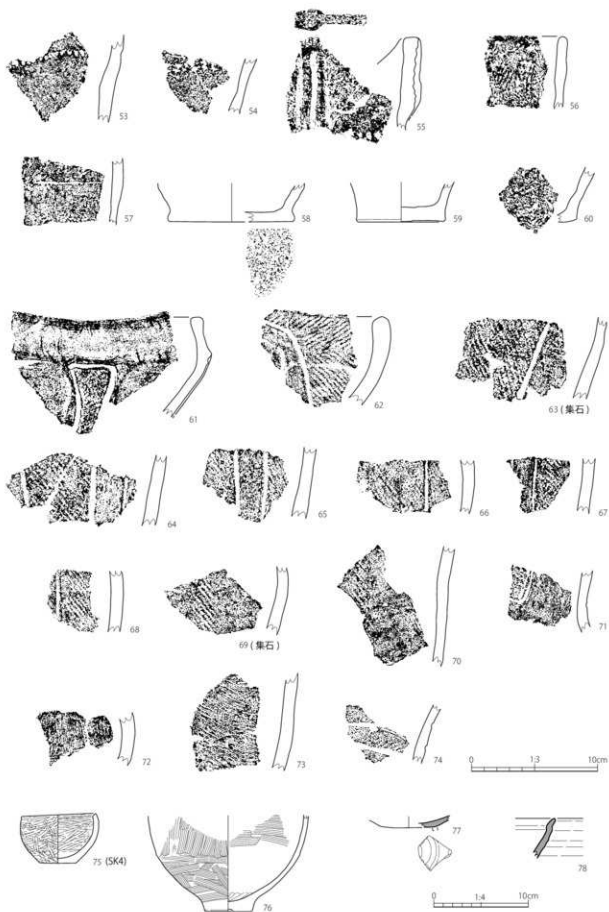
第141図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ①



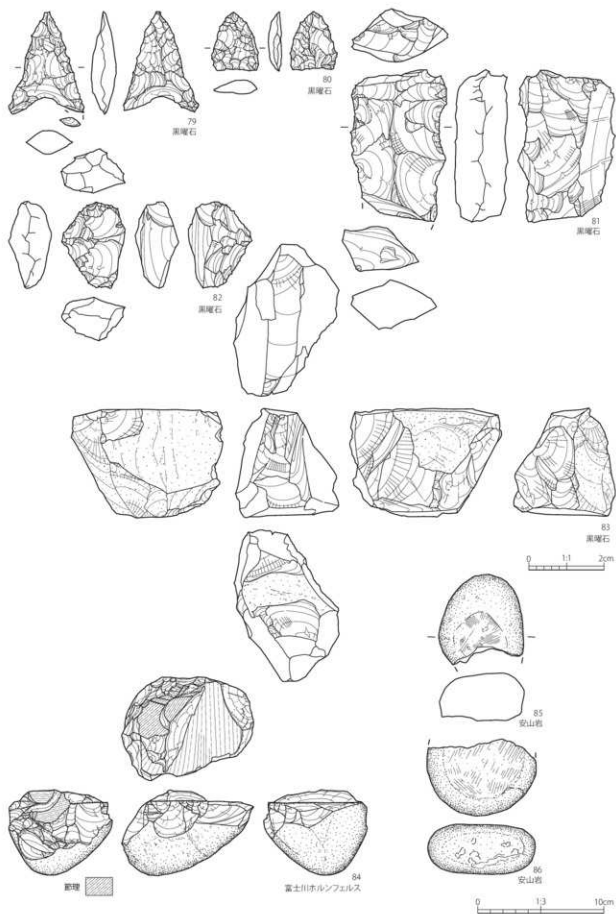
第142図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ②



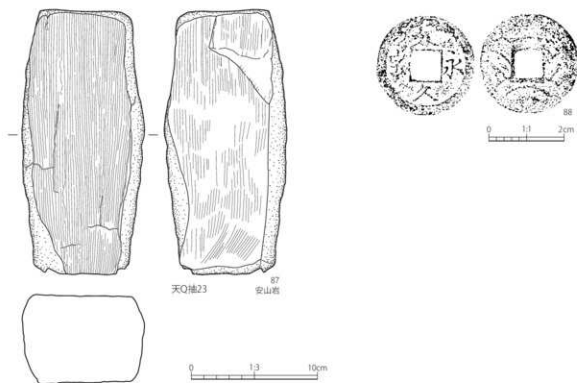
第143図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ③



第144図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ④



第145図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 (5)



第146図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ⑤

第13表 天間沢遺跡Q地区 出土土器観察表

神保 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第141図 PL.24	1	P663	10YR4/1 褐灰	10YR5/3 に近い黄褐色	I群A類	八ッ崎I	二単位の注口状把手を持つ平底の深鉢。口縁部は二段の段を形成し、段の境には連続斜突文を施文する。文様は、口唇とその表面両面に連続斜突文を施し、一段目の文様帯は斜突による三角文と、その辺に合わせた斜行文で構成する。二段目は貝紋縦線による横平行の条痕を施し、器体下半は斜め条痕を全体に施文する。器体には部分的に籠状の包み容器的底跡と思われる、黒色の斜め棒子の模様が観察される。また、底部近くに補修孔のような貫通孔が7つも穿けられている。P663出土。残存高 39.6cm、底径 7cm。	
第141図 PL.25	2	B2Gr	10YR6/3 に近い黄	7.5YR4/3 褐	I群A類	八ッ崎I	注口状の把手部分。口唇の表角と裏角に斜め爪形の刻みを施し、口唇上面平坦部を拡張する形で、幅広い漏斗状の把手を形づくる。把手上面は横四角の笠状になり、爪形文が密接施文される。波状口縁に沿うように斜め爪形の連続斜突文を施文し、その下に斜め平行の連続爪形文を配置する。把手の裏面の注口部は、口唇の裏角部分をそのまま三角形に突出させる形で彫り出す成形をしている。	R57
第141図 PL.25	3	集石中	10YR3/1 黒褐	2.5Y2/1 黒	I群A類	八ッ崎I	器面全体に横位の線痕がみられ、口唇に平行する二本の連続爪形文とその間に斜行する連続爪形文を施文し文様帯を形成する。やや内側に傾斜する、角のある口唇上面に連続爪形文を施している。	R42
第141図 PL.25	4	排土	7.5YR6/4 に近い橙	7.5YR6/4 に近い橙	I群A類	八ッ崎I	波状口縁の突起部を含む口縁部。口唇の表角と裏角に斜め爪形の刻みを施し、波状口縁に沿うように斜め爪形の連続斜突文を施文する。その下に斜行する連続爪形文を施文する。突起部は厚みを増して、上面は横四角形の平坦面となる。	R38
第141図 PL.25	5	SK4・7Tr	2.5YR5/6 明赤褐	10YR3/1 黒褐	I群A類	八ッ崎I	鋭角な口唇に刻みを施し、口唇に平行して連続した爪形文を二列に配置して文様帯とし、内部に斜行の連続爪形文を施文する。	R24
第141図 -	6		10YR8/4 浅黄橙	10YR4/2 灰黄褐	I群A類	八ッ崎I	波状口縁の酒杯状把手部分。口唇に沿って連続斜突文を施し、口唇上面には管状工具による円形の連続斜突文を施文する。	R45

神国 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第141図 PL-25	7	4Tr	7.5YR7/6 橙	7.5YR3/2 黒褐	I群A類	ハッ崎I	口唇に刻みを入れ、口唇近くと口縁部の段に平行して連続に爪形の斜め刻文を施し、その間を斜行する刻文を施する。裏面に薄く貝殻条痕文を施す。胎土には多くの繊維を混入する。	R7
第142図 PL-25	8	6Tr	10YR7/4 に近い黄橙	10YR6/4 に近い黄橙	I群A類	ハッ崎I	口唇に刻みを入れ、口唇と口縁部の段の下に平行して連続に爪形の斜め刻文を施し、その間を斜行する刻文を施する。段より下は、ゆるやかにくびれるが、その下部に水平の連続刻文を施す。裏面は植物質の繊維による模位の縞痕で、全体を彫形している。	R29・ R44
第142図 PL-25	9	C2Gr	5YR5/6 明赤褐	7.5YR3/1 黒褐	I群A類	ハッ崎I	波状口縁の突起部、口唇上面に斜め刻みを施し、基状の工具による平行押引き文で重なったV字状に施す。胎土には多量の繊維を含有する。	R59
第142図 -	10	5Tr	10YR7/4 に近い黄橙	10YR6/3 に近い黄橙	I群A類	ハッ崎I	口唇の表側と裏側に斜め爪形の刻みを施し、波状口縁に沿うように斜め爪形の連続刻文を施す。	R36
第142図 -	11	5Tr	7.5YR6/4 に近い黄	7.5YR5/3 に近い黄	I群A類	ハッ崎I	口唇に刻みを入れ、口縁部の段に、断面四角の工具による連続刻文を施して文様帯とし、その中に重なったV字に連続刻文を施す。裏面には貝殻条痕文を施す。	R36
第142図 -	12	Plu61	7.5YR6/4 に近い黄	7.5YR6/4 に近い黄	I群A類	ハッ崎I	鋭角な口唇部に基状の工具で刻みを入れ、口唇に接して連続斜め刻文を施す。その下に平行する連続斜め刻文を施して、その間を、連続斜め刻文で重なったV字状に施す。胎土には多量の繊維を含有する。	R52
第142図 -	13		7.5YR4/3 褐	5YR4/3 に近い赤褐	I群A類	ハッ崎I	口唇上面に刻みを入れ、口縁部平行する連続爪形文の下に、並行する連続爪形文を同方向に施す。胎土に繊維を多量に含有する。	R38
第142図 -	14	表腹	7.5YR8/6 黄褐	10YR7/3 に近い黄橙	I群A類	ハッ崎I	鋭角な口唇の表側と裏側に斜め爪形の刻みを施し、口唇に沿って連続斜め爪形文を施す。	R66
第142図 -	15	5Tr 東	2.5YR6/6 橙	10YR3/2 黒褐	I群A類	ハッ崎I	口唇に刻みを入れ、口唇に沿って表側に斜め刻文を施す。表側に斜行する斜め刻文を施す。胎土に多量の繊維を含む。	R36
第142図 PL-25	16	C2Gr	7.5YR5/4 に近い黄	7.5YR5/3 に近い黄	I群A類	ハッ崎I	鋭角な口唇に刻みを入れ、さらに口唇平坦面にも刻文を施す。口唇に接して連続刻文を施す。平行して段部分にも刻文を施して文様帯とし、内部に斜行の刻文を施す。	R64
第142図 PL-25	17	5Tr 東	10YR6/3 に近い黄橙	10YR6/3 に近い黄橙	I群A類	ハッ崎I	口唇に浅い刻みを施し、口唇に沿って浅い沈線を引き、その下に連続刻文を斜行して施す。	R36
第142図 -	18	5Tr	10YR4/1 褐灰	10YR3/2 黒褐	I群A類	ハッ崎I	口縁部把手部分。口唇内部に注口状に溝をつくり、口唇とともに上に斜め刻文を施す。口縁の表側にも平行して連続刻文を施す。	R9
第142図 -	19	C2Gr	10YR6/4 に近い黄橙	7.5YR4/2 灰褐	I群A類	ハッ崎I	口唇上面に斜め爪形の刻みを入れ、口縁部に並行する刻文を同方向に施す。	R64
第142図 PL-26	20	C2Gr	10YR3/4 暗褐	7.5YR4/4 褐	I群A類	ハッ崎I	薄い貝殻条痕文を施すと、段部分に連続した斜め爪形文を施す。	R64
第142図 PL-26	21	Plu63	2.5YR6/8 橙	7.5YR6/4 に近い黄	I群A類	ハッ崎I	貝殻条痕文を施す。口縁部近くで、水平に斜め連続刻文を施す。胎土に多量の繊維を含む。	R81
第142図 PL-26	22	C1Gr	10YR6/4 に近い黄橙	7.5YR5/3 に近い黄	I群A類	ハッ崎I	はつきりとした段をつくり、口縁部文様帯を形成、段に斜め爪形文を施し、その上に連続爪形文で並行する山形の文様を描く。	R58
第142図 PL-26	23		10YR6/4 に近い黄橙	5YR4/4 に近い赤褐	I群A類	ハッ崎I	段をもつ口縁部の文様帯部分。段に連続斜め爪形文を施し、その上に斜行する爪形文を施す。表裏に貝殻条痕文を施し施文としている。	R40
第142図 -	24	5Tr 東	10YR6/4 に近い黄橙	5YR4/3 に近い赤褐	I群A類	ハッ崎I	平行する連続刻文と斜行する連続刻文を施す。裏面の口縁部に近いと思われる部分に模位の貝殻条痕文が施文される。	R36
第142図 PL-26	25		10YR6/4 に近い黄橙	7.5YR4/2 灰褐	I群A類	ハッ崎I	段をもつ口縁部の文様帯部分。段に連続斜め爪形文を施し、その上に斜行する爪形文を施す。表裏に貝殻条痕文を施し施文としている。	R40
第142図 -	26	SK1・2Tr	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 に近い黄	I群A類	ハッ崎I	段をもつ口縁部の文様帯部分。段に連続斜め爪形文を施し、その上に斜行する爪形文を施す。	R19
第142図 PL-26	27		10YR7/4 に近い黄橙	7.5YR7/4 に近い黄	I群A類	ハッ崎I	連続した斜め爪形文を多量に平行して施す。裏面は、植物繊維の縞痕で模位している。	R45
第143図 PL-26	28	Plu61	5YR6/6 橙	5YR5/4 に近い赤褐	I群A類	ハッ崎I	平行する連続刻文と斜行する連続刻文を施す。裏面に薄く貝殻条痕文を施す。	R52
第143図 -	29	7Tr	10YR7/4 に近い黄橙	10YR4/2 灰黄褐	I群A類	ハッ崎I	連続した斜め爪形文を模位に施す。裏面に貝殻条痕文を施す。胎土に多くの繊維を含む。	R12
第143図 PL-26	30	5Tr	2.5YR4/4 に近い赤褐	7.5YR5/3 に近い黄	I群A類	ハッ崎I	二つの段を持つ遺跡のくびれ部。段に連続爪形文を施し、その間を平行、斜めに連続爪形文で文様帯を構成する。	R4
第143図 -	31	B3Gr	10YR7/4 に近い黄橙	10YR6/3 に近い黄橙	I群A類	ハッ崎I	貝殻条痕文を施した後、斜め連続刻文を施す。裏面に薄い貝殻条痕文を施す。	R54
第143図 PL-26	32	C1Gr	5YR5/4 に近い赤褐	7.5YR4/2 灰褐	I群A類	ハッ崎I	斜め縦の連続刻文を模位に施文している。器壁は厚く、胎土は少量に繊維を含む。	R58
第143図 -	33	C2Gr	5YR5/4 に近い赤褐	7.5YR6/6 橙	I群A類	ハッ崎I	平行する連続爪形文を施す。裏面には貝殻条痕文を施す。	R59

神保 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第143図	34	Pl64	7.5YR6/4 ぶい橙	7.5YR5/3 ぶい橙	1群 A 類	ハッ崎1	重わたV字状に連続刺突文を施し、裏面に貝殻条痕文を多く施す。	R68
第143図	35	Pl64	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/6 橙	1群 A 類	ハッ崎1	連続刺突文を横位に施す。裏面は貝殻条痕文を施す。	R68
第143図	36		7.5YR3/3 暗褐	5YR6/6 橙	1群 A 類	ハッ崎1	平行する連続斜め爪形文を施し、裏面には貝殻条痕文を施す。	R40
第143図	37	Pl63	7.5YR6/4 ぶい橙	7.5YR4/3 褐	1群 A 類	ハッ崎1	深鉢の段部分、段に連続刺突文を施し、その上部に斜行する連続刺突文を施す。	R81
第143図	38	B2Gr	7.5YR7/6 橙	2.5YR6/6 橙	1群 A 類	ハッ崎1	連続刺突文を横位に施し、その下に並行する連続刺突文を同字状に施す。裏面には貝殻条痕文を施す。胎土に多量の繊維を含む。	R64
第143図	39		2.5YR6/6 橙	5YR5/4 ぶい赤褐	1群 A 類	ハッ崎1	深鉢の段部分、段に連続刺突文を施す。胎土に多量の繊維を含む。	R45
第143図	40	3Tr	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/4 ぶい橙	1群 A 類	ハッ崎1	薄い爪形の連続刺突文を水平に施す。	R20
第143図	41	C2Gr	2.5YR5/6 明赤褐	7.5YR4/2 灰褐	1群 A 類	ハッ崎1	表裏に貝殻条痕文を施す。	R59
第143図	42	4Tr	7.5YR4/2 灰褐	10YR3/2 黒褐	1群 A 類	ハッ崎1	粗い太めの条痕を器面全体に施す。裏面は植物質の工具で斜めにナグた縦痕で整形している。胎土には多くの繊維を混入している。	R7
第143図	43		7.5YR6/4 ぶい橙	7.5YR4/2 灰褐	1群 A 類	ハッ崎1	裏面に貝殻条痕文を施す。	R38
第143図	44	C2Gr	10YR7/4 ぶい黄褐	7.5YR6/4 ぶい橙	1群 A 類	ハッ崎1	裏面に貝殻条痕文を施す。	R69
第143図	45		10YR7/4 ぶい黄褐	10YR4/1 褐灰	1群 A 類	ハッ崎1	裏面に薄く貝殻条痕文を施す。	R45
第143図	46	C1Gr	2.5YR6/6 橙	7.5YR4/3 褐	1群 A 類	ハッ崎1	表面に貝殻条痕文を施す。	R58
第143図	47	2Tr	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	1群 A 類	ハッ崎1	胎土に繊維を多く含む。	R3
第143図	48		5YR7/6 橙	5YR4/1 褐灰	1群 A 類	ハッ崎1?	LR?の縄の側面圧痕を横位に施し、その上位には図案によって弧状線が引かれる。胎土には多量の繊維を含む。	R45
第143図 PL-26	49	Pl64	5YR6/6 橙	7.5YR3/1 黒褐	1群 A 類	ハッ崎1?	口縁部下部に段を設け、口縁に平行、および段に連続斜め爪形文を施して文様帯とし、その内部にRLの縄文あるいは側面押文を施す。胎土に多量の繊維を含有する。	R68
第143図 PL-26	50		5YR4/4 ぶい赤褐	5YR3/3 暗赤褐	1群 B 類	早期末	斜めに丸棒状工具を刺し、連続して水平に施す。その上部を文様帯とし、同じ工具による斜めの平行押し筋により、重層した三角形式を構成する。器壁は厚めで、少量の繊維を含有する。茅山式並行か。	R38
第143図 PL-26	51	SK1・7Tr	10YR5/3 ぶい黄褐	10YR5/3 ぶい黄褐	1群 B 類	早期末	丸棒状工具による斜めの平行押し筋により、重層した三角形式を構成する。器壁は厚めで、少量の繊維を含有する。	R29
第143図 PL-26	52	5Tr 東	2.5YR5/6 明赤褐	5YR5/4 ぶい赤褐	1群 B 類	早期末	頸部に平行して丸棒状の工具による連続した斜め刺突文を平行して施す。その上に同じ工具で平行押し筋を斜行して施す。器壁が厚く、あまり繊維を含まない。茅山式並行か。	R36
第144図	53	C2Gr	2.5YR5/6 明赤褐	5YR4/3 ぶい赤褐	1群 B 類	早期末	器壁が厚い深鉢の屈曲部の上位に、丸棒状工具による連続刺突文を水平に施す。茅山式並行か。	R59
第144図	54	6Tr	5YR6/6 橙	5YR5/4 ぶい赤褐	1群 B 類	早期末	丸棒状工具による、押し筋の連続刺突文を平行に施す。茅山式並行か。	R10
第144図 PL-26	55		7.5YR5/4 ぶい褐	7.5YR3/2 黒褐	1群 B 類	早期末	二本の隆条を突起部とする波状口縁部分、隆条の側面および隆条間には、二本の棒状工具による押し筋によって圧着されている。口縁部の下には斜め縦の連続刺突文を横位に施している。胎土には繊維を含有する。茅山式並行か。	R38
第144図	56	排土	7.5YR5/4 ぶい褐	5YR4/3 ぶい赤褐	1群 B 類	早期末	口唇に浅い刻みと口唇に沿って斜め刺突を施し、貝殻条痕?の押し筋を縦、斜めに施す。胎土は少量の繊維と雲母を含む砂粒を多く混入する。茅山式並行か。	R40
第144図	57	5Tr	7.5YR4/4 褐	7.5YR5/4 ぶい褐	1群 B 類	早期末	沈凹状になるように、短く薄くへう状工具で水平に連続刺突で施文している。胎土に少量の繊維を含む。茅山式並行か。	R4
第144図	58	中央部集 石中	7.5YR6/6 橙	7.5YR4/6 褐	1群 A 類	ハッ崎1	胎土に多量の繊維を含有する深鉢底部。	R42
第144図	59	B2Gr	10YR6/4 ぶい黄褐	7.5YR7/6 橙	1群 A 類	ハッ崎1	平底の底部。繊維を多く含む。	R62
第144図	60	5Tr	2.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	1群 A 類	ハッ崎1	平底の底部。繊維を多量に含有する。	R4
第144図 PL-26	61		7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/4 ぶい褐	III 群 B-2 類	加曾利 E4	無文口縁鉢(肩付土器の形態) 肩部分から隆条の懸垂文を垂下し、広い区画は無文、狭い区画には浅い沈凹で囲み、その内部をLRの縄文を横位に埋める。	R48

神国 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第144図 PL.26	62	SK・7Tr	2.5YR5/4 に近い赤褐色	2.5YR6/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利 E4	内湾する口縁をもつ深鉢の口縁部。平行沈隆による区画内を、LR の織文で、口縁部に沿っては横位に、その下は縦位に施文して充填する。	R5
第144図 -	63	SS (P2)・7Tr	10YR6/3 に近い黄	5YR6/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利 E4	沈隆による懸垂文とそれによる区画内を縦位の RL の織文で埋める。	R49
第144図 -	64	5Tr 東	10YR7/3 に近い黄褐色	5YR6/8 橙	III 群 B-2 類	加曾利 E	沈隆による懸垂文とそれによる区画内を単純 L の織文を縦位で埋める。	R36
第144図 -	65	5Tr 東	10YR6/3 に近い黄褐色	5YR6/8 橙	III 群 B-2 類	加曾利 E	平行沈隆による懸垂文とそれによる区画内を LR の織文を縦位で埋める。	R36
第144図 -	66	SK・7Tr	7.5YR7/6 橙	5YR6/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利 E	沈隆による懸垂文の区画内を LR の織文を縦位で埋める。	R5
第144図 -	67	5Tr 東	2.5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利 E	平行沈隆による懸垂文とそれによる区画内を LR の織文を縦位で埋める。	R36
第144図 -	68	SK・7Tr	2.5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利 E	沈隆による懸垂文の区画内を、LR の織文で縦位で埋める。	R5
第144図 -	69	SS (P2)・7Tr	7.5YR5/3 に近い黄	5YR6/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利 E	単純 L の織文を縦位に帯状に施文。	R49
第144図 -	70	SK・7Tr	5YR4/2 灰褐色	5YR5/6 明赤褐色	III 群	中期?	単純 L の織文を縦位に帯状に施文する。	R5
第144図 -	71	4Tr	7.5YR7/4 に近い黄	5YR5/4 に近い赤褐色	III 群	中期?	平行沈隆で区切られた中を LR の織文で充填する。	R32
第144図 -	72	SK・7Tr	7.5YR4/2 灰褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	III 群	中期?	r の焼赤文を器体全体に施文している。53 と同一個体。	R5
第144図 -	73	SK・5Tr 東	2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	III 群	中期?	r の焼赤文を斜めに器体全体に施文している。84 と同一個体。	R5
第144図 -	74	5Tr 東	5YR4/6 赤褐色	5YR4/6 赤褐色	IV 群 A-2 類	堀之内 2	LR の帯織文を横位に施文。	R36
第144図 PL.27	75	SK4	7.5YR6/3 に近い黄	7.5YR6/3 に近い黄	土師器	古墳前期?	小型陶。SK4 出土。	R24
第144図 PL.27	76	7Tr	7.5YR5/3 に近い黄	10YR4/1 褐色	土師器	古墳前期?	巻底部。	R12
第144図 -	77	5Tr	2.5YR2 灰白	2.5YR2 灰白	灰輪陶器	平安	薄い高台の痕跡がある輪・皿底部。	R9
第144図 -	78	5Tr	5YR6/3 オリーブ黄	5YR6/3 オリーブ黄	陶器	中世	緑色の灰輪が施輪されている。15 世紀代、古瀬戸後期の直縁大皿の口縁部。	R9

第14表 天間沢遺跡 Q 地区 出土石器観察表

神国 図版	番号	出土場所	器種名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	観察	現地 番号
第145図 PL.27	79	集石横	石鏃	黒曜石	2.65	1.98	0.59	1.8	右鐮欠損の四基無茎鏃。中央集石の横で出土。	R46
第145図 PL.27	80	SK4・7Tr 拡張区	石鏃	黒曜石	1.54	1.18	0.37	0.6	小型の平基無茎鏃。	R24
第145図 PL.27	81	調査地北東	ノッチ	黒曜石	3.99	2.53	1.17	12.57	石鏃から転用してノッチとしている。排土中出土。	R38
第145図 PL.27	82		楔形石器	黒曜石	2.33	1.6	1.17	2.82	ほぼ横状としての形態をしている。	R73
第145図 PL.27	83	Pt23	石鏃	黒曜石	3.99	2.76	2.76	29.26	ほとんど原石の形態を留めている。Pt23 出土。	R47
第145図 PL.27	84	Pt64	石鏃	富士川ホルンフェルス	10.45	8.22	6.72	571.55	磨理面を打面とした石鏃。ほとんど素材となる剥片は作出されていない。Pt64 出土。	R71
第145図 -	85	1Tr	磨石	安山岩	(7.18)	6.68	(3.71)	188.37	部分的に平坦面ができている磨石。	R12
第145図 PL.27	86		磨・敲石	安山岩	(6.1)	8.75	3.85	273.57	被熱を受け、亀裂と変色が見られる。	R7
第146図 PL.27	87	Pt66	砥石状磨石	安山岩	20.11	9.71	9.01	2860	表裏平坦部に長軸平行に条線状の磨痕が顕著にのこされている。Pt66 出土。	R82

第15表 天間沢遺跡 Q 地区 出土金属製品観察表

神国 図版	番号	出土場所	分類	型式	観察	現地 番号
第146図 PL.27	88	江戸末	銭貨	「文久永宝」(草文略宝細郭) 松平春嶺筆の草文		

第3節 R地区・V地区（第18地区・第22地区）の調査

調査に至る経緯

平成3年、東京電力株式会社（以下、事業者）は、富士市天間において送電線鉄塔建設工事を計画し、平成3年5月28日、富士市教育委員会に「埋蔵文化財分布確認指導依頼書」を提出した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」に位置するため、富士市教育委員会文化振興課は、鉄塔が建設される4箇所（鉄塔No.1～3・42）について分布確認調査を実施した。その結果、2箇所（鉄塔No.1～2）については事前の確認調査が必要であるとの判断に至った。

R地区の調査

平成4年1月20日、鉄塔No.1・3・42の建設箇所について、事業者から文化財保護法第57条の2第1項（当時）の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に連達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、鉄塔No.1の範囲（富士市天間1943-1）について、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった（平成4年2月6日付け、教文第3-139号）。

平成4年3月10日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し（富教文第212号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

調査は平成4年3月16日から3月19日にかけて行った。調査地に1箇所のトレンチ（1Tr）を設定し、人力により掘削・精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

その結果、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会に提出した（平成4年4月4日付け、富教文第2号）。



第147図 天間沢遺跡R地区・V地区 位置図

V地区の調査

平成4年6月1日、鉄塔No.2の建設箇所（富士市天間1785-21）について、事業者から文化財保護法第57条の2第1項（当時）の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に連達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった（平成4年6月12日付け、教文第3-43号）。平成5年2月26日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し（富教文第331号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

調査は平成5年2月25日から2月26日にかけて行った。調査地に2箇所のトレンチ（1～2Tr）を設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

その結果、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の体制

R 地区（平成3年度）の調査は以下の体制で実施した。

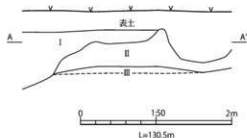
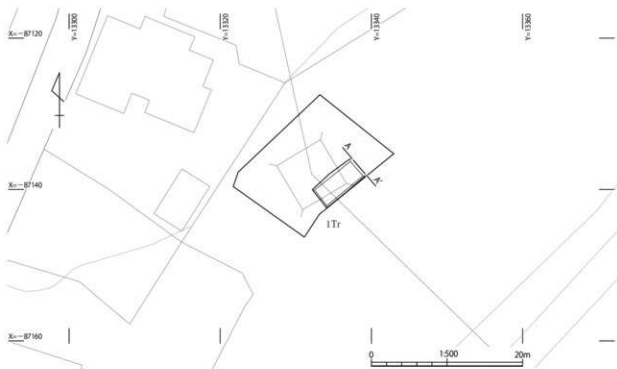
調査主体者

富士市教育委員会	教育長	山本 厚
	教育次長	伊藤 輝英
文化振興課	課長	小長谷 秀夫
	課長補佐	小出 禮節
調査担当	文化財係	係長 佐野 誠一
	指導主事	中尾 欣司
	主事	前田 勝己

V 地区（平成4年度）の調査は以下の体制で実施した。

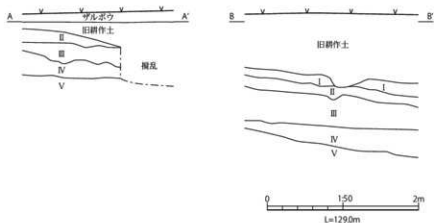
調査主体者

富士市教育委員会	教育長	山本 厚
	教育次長	小山 哲雄
文化振興課	課長	小長谷 秀夫
	課長補佐	若林 富彦
調査担当	文化財係	係長 佐野 誠一
	主事	前田 勝己
	主事	影山 英之



- I 黒褐色土 しまり強。大沢スコリアを少量含むが、攪乱の可能性ある。
 II 暗褐色土 しまり強。粘性やや強。軟質の褐色スコリアを上部にやや多く含む。礫が少量混入する。 褐色土か？
 III 褐色土 礫を多く含む風化溶結層。褐色のやや大粒のスコリアが非常に多い。 地山

第148図 天間沢遺跡R地区 トレンチ配置図、セクション図



- I 暗褐色土 しまり極強。橙色とにぶい橙色の軟質のスコリア（1～2mm）で形成される。
 II 黒色土 しまり強。暗褐色の発泡スコリア（大割SC？）を少量。粒細なオレンジスコリアを少量含む。
 III 暗褐色土 しまり極強。鮮やかな橙色の発泡スコリアを少量。上部にやや多く含む。白色粒子（カワゴロパミス）を少量含む。
 IV 黒褐色土 この層から溶岩礫がやや多くなる。
 V 褐色土 しまり強。橙色スコリアは微細になり少なくなる。溶岩礫は大きく多くなる。
 角礫が非常に多く、下部にいくに硬い溶岩化する。

栗色土か？
 富士黒か？
 地山

第149図 天間沢遺跡V地区 トレンチ配置図、セクション図

第4節 S地区(第19地区)の調査

調査に至る経緯

事業者(個人)は、富士市天間 1001-4 (905 m²)において、共同住宅新築工事を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内に位置するため、平成4年6月22日、事業者から文化財保護法第57条の2第1項(当時)の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会はこれを静岡県教育委員会に進達し(平成4年6月25日付け、富教文第86号)、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった(平成4年7月8日付け、教文第3-51号)。

平成4年7月7日、事業者(土地所有者)から発掘調査承諾書が提出された。これを受けて富士市教育委員会は、文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し(平成4年7月14日付け、富教文第103号)、文化振興課職員による発掘調査を実施することとなった。

調査の経過

調査は平成4年7月8日から7月10日にかけて実施された。

敷地の南寄りに、東西方向に1本のトレンチ(1Tr)を設定し、重機および人力による掘削を行い、休場層対応層まで掘り下げたものの、暗茶褐色土(富士黒土層相当)上面にて確認された、樹痕等自然要因と思われる非人為的なビット状の落ち込み以外、遺構は検出されなかったが、遺物は、縄文時代中期中葉～後葉の土器とそれに伴うと考えられる石器類が出土した。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会に提出した(平成4年12月28日付け、富教文第262号)。



第150図 天間沢遺跡S地区 位置図

調査の体制

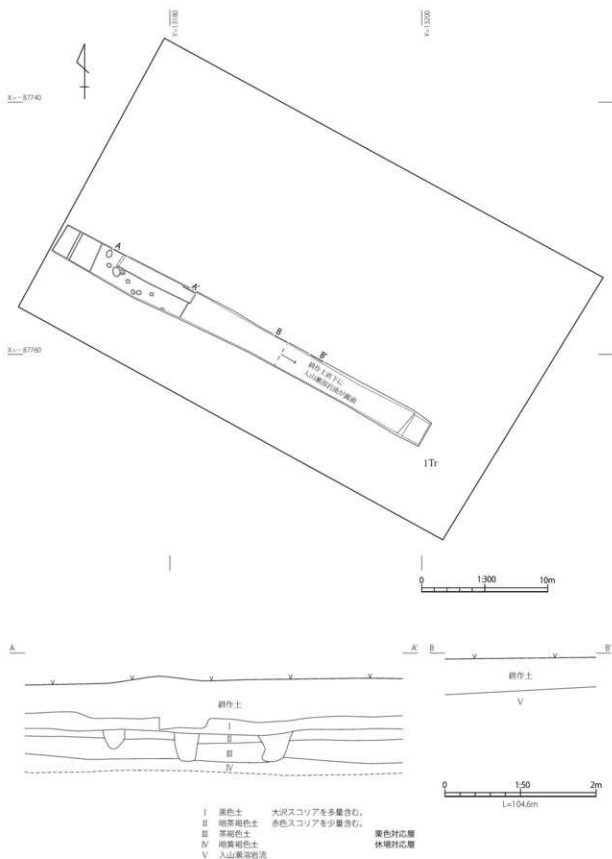
調査は以下の体制で実施した。

調査主体

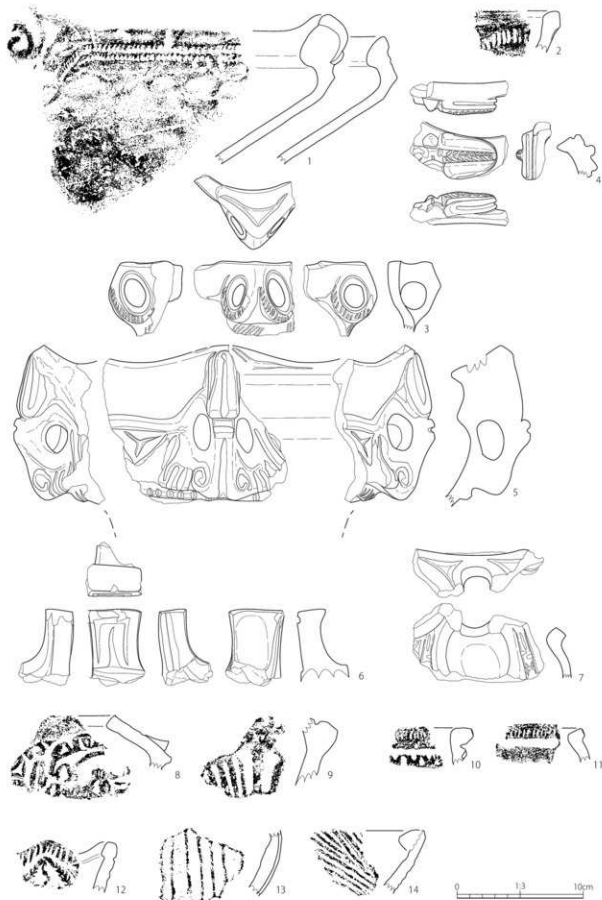
富士市教育委員会	教育長	山本 厚
	教育次長	小山 哲雄
文化振興課	課長	小長谷 秀夫
	課長補佐	若林 富彦
文化財係	係長	佐野 誠一
調査担当	主事	久松 義昭
	主事	影山 英之

調査の成果

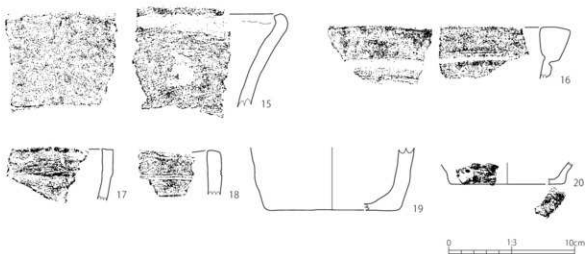
遺構は検出されなかったが、遺物は、縄文中期中葉を主体に後葉までの土器が出土している。特に4の蛇頭装飾が付された口縁部が目される。他に3・5・7の環状把手等、立体的な把手部分の出土が多い。石器については黒曜石製の楔形石器、富士川ホルンフェルス製の打製石斧頭部、打欠による礫石錘2点、凹石が出土している。



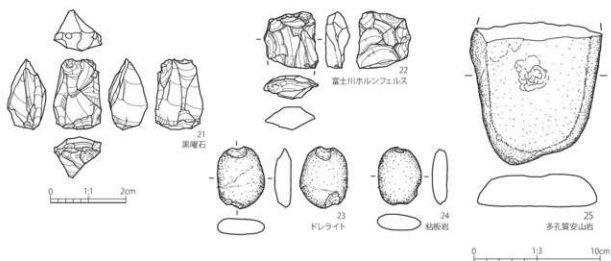
第151図 天間沢遺跡S地区 トレンチ配置図、セクション図



第152図 天間沢遺跡S地区 出土遺物実測図 ①



第153図 天間沢遺跡S地区 出土遺物実測図 ②



第154図 天間沢遺跡S地区 出土遺物実測図 ③

第16表 天間沢遺跡S地区 出土土器観察表

採掘 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第152図 PL-29	1		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-1 類	竈内1	大型浅鉢の口縁部。渦巻文の把手と、口縁に沿って平行する二本の押引き爪形文を施文する。くの字に張り出す肩部を連続して凹むように削り、立体的波状突起をつくり出している。	R5
第152図 -	2		5YR4/2 灰褐	7.5YR3/1 黒褐	III群 A-1 類	竈内	口縁に平行して連続爪形文を施文する。	R1
第152図 PL-29	3		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR8/4 浅黄橙	III群 A-1 類	井戸尻1・2	環状把手のある口縁部。把手部分は三角形に突出し、その上面に三叉文を施す。環状通しに沿って浅く区画した隆帯状になった部分に刻みを施す。把手の下にはHLの縄文が縦に施文されている。	R3
第152図 PL-29	4		7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/3 にぶい橙	III群 A-1 類	井戸尻1・2	波状口縁に沿う形で蛇腹文を配置する。蛇腹には矢羽状の刻みを施した隆帯が貼付されている。	R1
第152図 PL-29	5		7.5YR6/3 にぶい黄	5YR6/4 にぶい橙	III群 A-1 類	井戸尻1・2	環状把手部分が山形になる波状口縁部。口唇近くは無文とし、肩部は文様帯状の区画になり渦巻文や三叉文によって複雑な文様が描かれる。肩部直下には太い刻みのある隆帯が一周する。	R5
第152図 PL-29	6		5YR5/3 にぶい赤褐	5YR6/6 橙	III群 A-1 類	井戸尻1・2	口縁と平行する環状把手部分。肩部に接合する三叉部分に矢羽状の刻みを入れた隆帯を貼付している。赤色顔料塗布あり。	R5
第152図 PL-29	7		5YR6/6 橙	2.5YR5/6 明赤褐	III群 A-1 類	井戸尻	粘土貼付けと沈線、削りにより、渦巻文、三叉文などの文様を施文している。	R4
第152図 PL-29	8		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	III群 A-1 類	井戸尻1・2	粘土貼付けと沈線、削りにより、渦巻文、三叉文などの文様を施文している。	R1
第152図 -	9		5YR6/6 橙	10YR8/4 浅黄橙	III群 A-1 類	井戸尻3	口唇近くの把手部分。区画内を縦集合沈線で充填する。	R5
第152図 -	10		5YR5/4 にぶい赤褐	10YR6/3 にぶい黄橙	III群 A-1 類	井戸尻	口縁に隆帯を貼付し幅広平坦な口唇とし、その隆帯に刻みを施す。口唇下に平行して、上下交互の斜突による波状隆帯を施文する。	R5
第152図 -	11		7.5YR7/8 黄橙	7.5YR6/8 橙	III群 A-1 類	井戸尻	口縁に隆帯を貼付し幅広平坦な口唇とし、その隆帯に刻みを施す。	R1
第152図 PL-29	12		7.5YR4/2 灰褐	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-1 類	井戸尻	波状口縁の口唇表に沿って、刻みのある平らな隆帯を貼付し、その下に矢羽状の刻みをいれた隆帯で文様を描く。	R2
第152図 -	13		5YR6/4 にぶい橙	2.5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利1	内向する口縁をもつキャリパー形深鉢の口縁部。断面三角形の浮線文をやや斜め縦位に平行施文する。	R5
第152図 -	14		5YR6/3 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2 類	曾利1	籠目文土器口縁部。半隆帯の条線を斜めに密接施文する。	R4
第153図 -	15		5YR6/8 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	III群	中期	大型深鉢の無文口縁部。	R4
第153図 -	16		5YR6/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	III群	中期	肥厚し幅広の平坦面にした口唇をもつ口縁部。口縁に平行する太い半隆帯を施文する。	R5
第153図 -	17		2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	III群	中期?	無文の角のある口唇をもつ口縁部。表面に線状の調整をする。	R2
第153図 -	18		5YR6/6 橙	7.5YR3/1 黒褐	III群	中期?	口縁に沿って半横竹管による平行沈線を水平に施文。	R4
第153図 -	19		10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	III群	中期	深鉢底部。	R5
第153図 -	20		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	III群	中期?	非常に薄く紅色の粘土の底面。西日本系か。	R1

第17表 天間沢遺跡S地区 出土土器観察表

採掘 図版	番号	出土場所	器種名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重さ (g)	観察	現地 番号
第154図 PL-29	21		模形石器	黒曜石	1.83	1.27	0.96	1.86	両極石核の残核の可能性あり。	R3
第154図 PL-29	22		打製石斧	富士川ホルン フェルス	(4.48)	4.13	1.88	38.16	頭部の一部。	R1
第154図 PL-29	23		石錘	ドレライト	4.93	3.74	1.31	34.84	端の両端が打欠かれている礫石錘。	R2
第154図 PL-29	24		石錘	粘板岩	4.61	3.42	1.18	27.04	上下左右に打ち欠きを施している礫石錘。	R5
第154図 -	25		凹石	多孔質安山岩	(11.18)	10.45	2.58	423.2	裏面の平坦面も磨痕が全面に観察される。	R1

第5節 T地区（第20地区）の調査

調査に至る経緯

平成4年、事業者（個人）は、富士市天間 1127-1 の内、1128 の内において共同住宅建設工事を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」に位置するため、富士市教育委員会文化振興課は、事前の確認調査が必要であると判断した。

平成4年9月7日、事業者から文化財保護法第57条の2第1項（当時）の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった（平成4年10月1日付け、教文第3-87号）。

その後、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査指導依頼書」および「発掘調査承諾書」が提出された。10月8日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

調査の経過と結果

調査は平成4年10月13日から10月17日にかけて実施した。

敷地内に、東西方向に4本（1～4Tr）、南北方向に1本（5Tr）のトレンチを設定し、重機および人力による掘削を行い、休場層対応層まで掘り下げた。

1Tr・3Tr・5Trでは大沢スコリア層以下が部分的に残存しており、一部トレンチを拡張して精査したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。2Tr・4Trでは上部の土は耕作により削られており、遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会に提出した（平成4年12月28日付け、富教文第264号）。



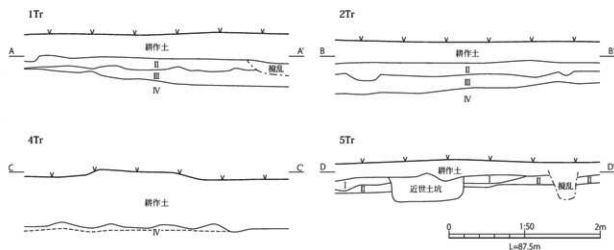
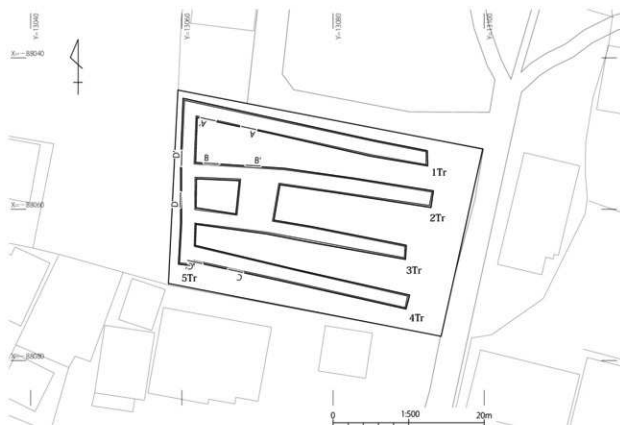
第155図 天間沢遺跡T地区 位置図

調査の体制

調査は以下の体制で実施した。

調査主体者

富士市教育委員会	教育長	山本 厚
	教育次長	小山 哲雄
文化振興課	課長	小長谷 秀夫
	課長補佐	若林 富彦
調査担当	文化財係	係長 佐野 誠一
		主事 久松 義昭



- I 黒色土 しまりやや弱、粘性強。大割スコリアが疎らに混ざる。
 II 黒色土 しまり極強、粘性やや弱。大割スコリアが多量に混ざる。
 III 黒褐色土 しまり極強、粘性やや強。赤色スコリアが少量混ざる。
 IV 明褐色土 しまり極強、粘性強。黄灰色火山灰が混ざる。

旧（近世？）耕作土

黒色土層
 休場ローム層

第156図 天間沢遺跡T地区 トレンチ配置図、セクション図

第6節 U地区（第21地区）の調査

調査に至る経緯

平成4年、富士コカ・コーラボートリング株式会社（以下、事業者）は、富士市天間591-1において倉庫・事務所建て替え工事を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」に位置するため、富士市教育委員会文化振興課は、事前の確認調査が必要であると判断した。

平成4年5月25日、事業者から文化財保護法第57条の2第1項（当時）の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に達達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった（平成4年6月9日付け、教文第3-34号）。

平成4年9月30日、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査指導依頼書」および「発掘調査承諾書」が提出された。10月15日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し（富教文第190号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

調査の経過と結果

調査は平成4年10月20日から10月27日にかけて実施した。

敷地内に、9箇所のトレンチを設定し（1～9Tr）、アスファルトカット後、重機および人力による掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

その結果、既存倉庫建設時の造成工事等により、大部分の旧表土が削平されていることが判明した。4Trにおいてわずかに旧表土以下が残存する部分が見とめられたものの、遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会ならびに事業者宛に提出した（平成4年11月9日付け、富教文第214号・215号）。



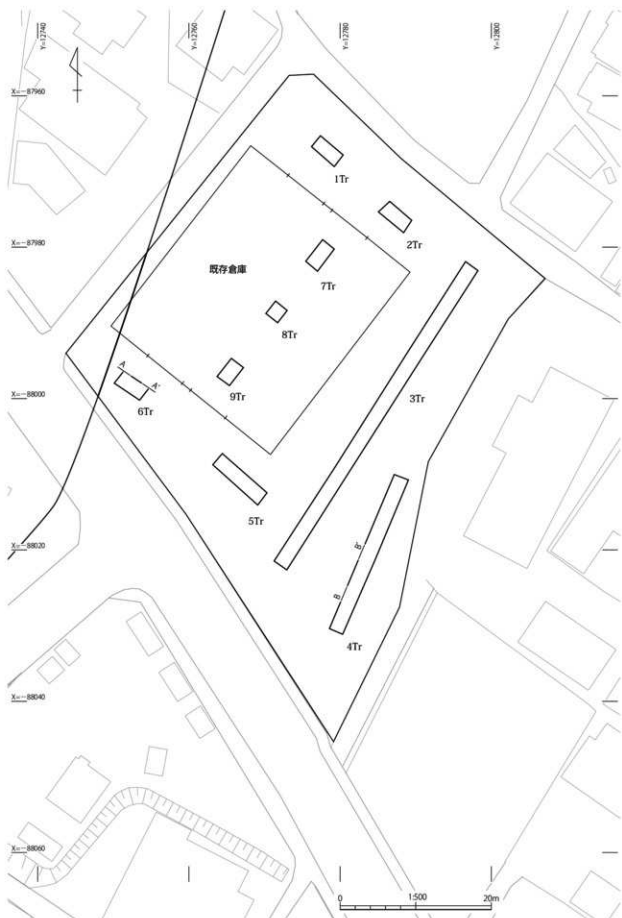
第157図 天間沢遺跡U地区 位置図

調査の体制

U地区の調査は以下の体制で実施した。

調査主体

富士市教育委員会	教育長	山本 厚
	教育次長	小山 哲雄
文化振興課	課長	小長谷 秀夫
	課長補佐	若林 富彦
文化財係	係長	佐野 誠一
調査担当	指導主事	中尾 欣司
	主事	前田 勝己



第158図 天間沢遺跡跡地 トレンチ配置図

第7節 横道下地区（第23地区）の調査

調査に至る経緯

昭和62年、事業者（法人）は富士市天間999番地外（約12,000㎡）において宅地造成工事を計画し、7月20日、富士市教育委員会に「埋蔵文化財分布確認調査指導依頼書」を提出した。

当該地は旧ボーリング場敷地であり、ボーリング場建物建設に伴って、昭和46年度に確認調査および本発掘調査が実施され、古墳時代中期の配石遺構と竪穴建物1軒、古墳時代初期の竪穴建物6軒を検出している（横道下地区）。

こうした状況を踏まえ、富士市教育委員会は7月27日、文化体育課職員による表面分布調査を行い、8月5日、事前の発掘調査が必要であるとの意見を事業者へ通知した（富教文体第92号）。

昭和62年8月26日、事業者から文化財保護法第57条の2第1項（当時）の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に達達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった（昭和62年9月17日付け、教文第4-19号）。

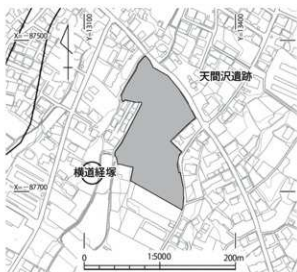
9月1日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し（富教文体第104号）、富士市教育委員会文化体育課職員による確認調査を実施することとなった。

昭和46年度の調査を横道下地区1次調査とし、今回の調査を横道下地区2次調査と位置づける。

調査の経過

調査は、昭和62年9月7日から9月21日にかけて実施した。1次調査の調査範囲外を対象とし、ボーリング場建物の南（b地区）、ボーリング場駐車場北側（c地区）、竹林（d地区）にトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査して遺構・遺物の検出につとめた。

b地区は丘陵の緩斜面にあたり、北東部には溶岩の露頭が認められ、南西に向けて緩やかに傾斜して



第160図 天間沢通路横道下地区 位置図

いる。トレンチ中央付近で土坑1基（第3号土坑：SK3）が、トレンチ西側で配石遺構と土坑1基（第4号土坑：SK4）が検出された。

c地区では、トレンチ東側で古墳時代の建物に伴うとみられる焼土が検出されたが、それ以外に遺構・遺物は検出されなかった。駐車場造成時に北側を削平し、その土砂を用いて西側の急斜面を埋めていることが確認され、遺構の存在は想定されない。

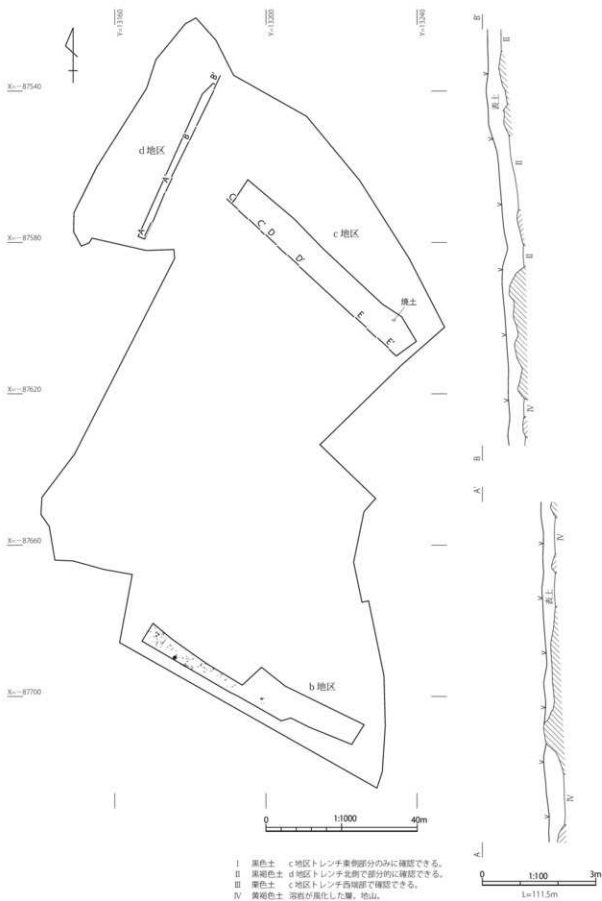
d地区は小川に挟まれた南北に延びる小丘陵で、馬の背部分に溶岩の露頭がみられる。少量の縄文土器が出土したが、遺構は確認されなかった。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会に提出した（昭和63年3月31日付け、富教文体第218号）。

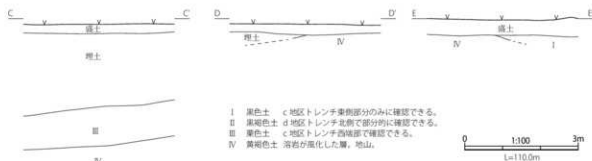
調査の体制

調査は以下の体制で実施した。

調査主体	富士市教育委員会	教育長	小川 清
事務局		教育次長	伊達 喬一
		文化体育課	課長 深澤 清一
			課長補佐 渡邊 誠
		文化振興係	係長 杉本 篤
			主事 平林 将信
			主事 渡井 義彦



第161図 天間沢遺跡横道下地区 全体図、セクション図



第162図 天間沢遺跡横道下地区 セクション図

調査の成果

b地区の北側では、1次調査において縄文時代中期～後期の配石遺構が検出されている。b地区トレンチの西側ではこれに連続するものとみられる配石遺構が検出され、土器のまとまりも認められた。

さらに、土器を伴う土坑が2基検出された(SK3～4)。

SK3はトレンチの中央付近で検出され、平面形は長径79cm、短径43cmの細長い楕円形を呈する。検出面からの深さは30cmほどを測り、底面の中央に径24cm、深さ27cmほどのピットが掘られている。上段部分の覆土中から、底部のない縄文土器深鉢が正位で出土した。埋塞土坑とみられる。

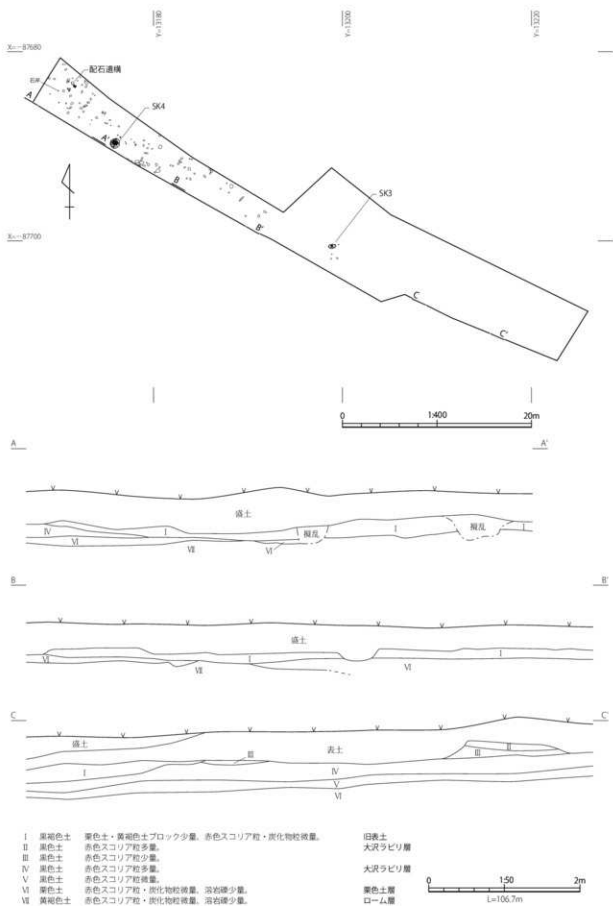
SK4はトレンチの西寄りで検出され、平面形は長径110cm、短径97cmの円形を呈する。検出面からの深さ13cmほどの浅い平底で、径50cmほどの範囲に焼土が認められ、覆土中から器形が復元可能な大型の破片が重なり合う形で4個体以上の土器が出土している。この土器群は、関西系の縄文時代中期末の北白川C式と関東系中期末の加曽利E4式、そして後期初頭に位置づけられる称名寺1式から構成され、縄文時代中期から後期への移行期のセット関係を示す貴重な資料となる。

この北白川C式(18)の文様構成は滋賀県尾上湖底遺跡の完形深鉢形土器(永峰1981)に酷似し、胎土も白色系を呈すことから、関西地域と直接関係する可能性が高い。北白川C式は、泉拓良氏により設定された関西地方を中心に分布する縄文時代中期終わりの土器型式で、関東地方の加曽利E5の影響下で成立すると考えられている。天間沢遺跡のSK4一括出土の状況は、まさに関東地方と関西地方

の接触を示すものであろう。また、伴出した後期初頭の称名寺1式(71～79)の文様構成はO字形で、西日本の中津式系であることから、あわせて両地域の文化的紐帯を表すものかもしれない。

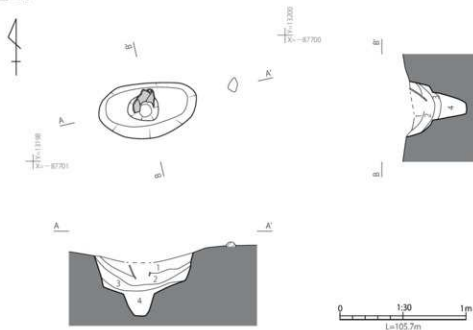
参考文献

- 永峰光一 1981『縄文土器大成②中期』P124 No.351
 富井 眞 1998 「北白川追分町遺跡出土の縄文土器 -- 北白川C式の成立を考える --」『京都大学構内遺跡調査研究年報』1998, 1994: 95-115
 縄文時代文化研究会 編 1999『縄文時代文化研究の100年 - 21世紀における縄文時代文化研究の深化に向けて -』
 縄文時代 第10号 縄文時代文化研究会
 小林達雄 編 2008『総覧 縄文土器』アム・プロモーション



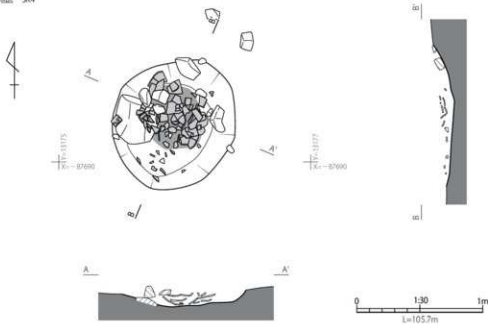
第163図 天間沢道跡横道下地区 b地区全体図、セクション図

b地区 SK3

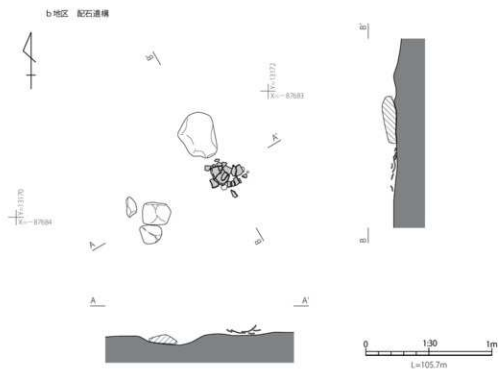


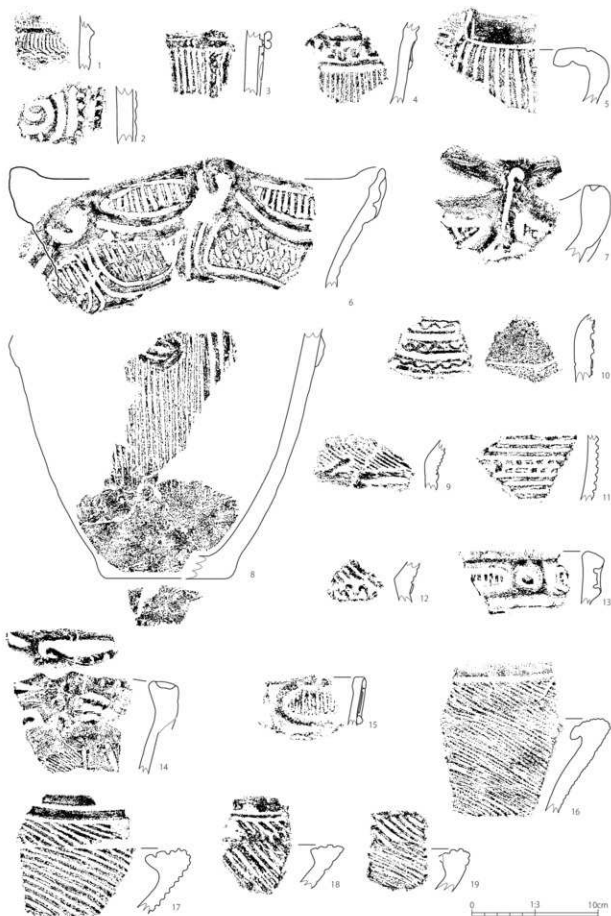
- | | | |
|--------|-------------------------------|--------|
| 1 褐色土 | 赤色スコリア粒・炭化物粒微量。 | SK3 覆土 |
| 2 褐色土 | 赤色スコリア粒・炭化物粒・発泡スコリア微量。溶岩小礫微量。 | SK3 覆土 |
| 3 暗褐色土 | 赤色スコリア粒・炭化物粒・発泡スコリア微量。 | SK3 覆土 |
| 4 暗褐色土 | | SK3 覆土 |

b地区 SK4

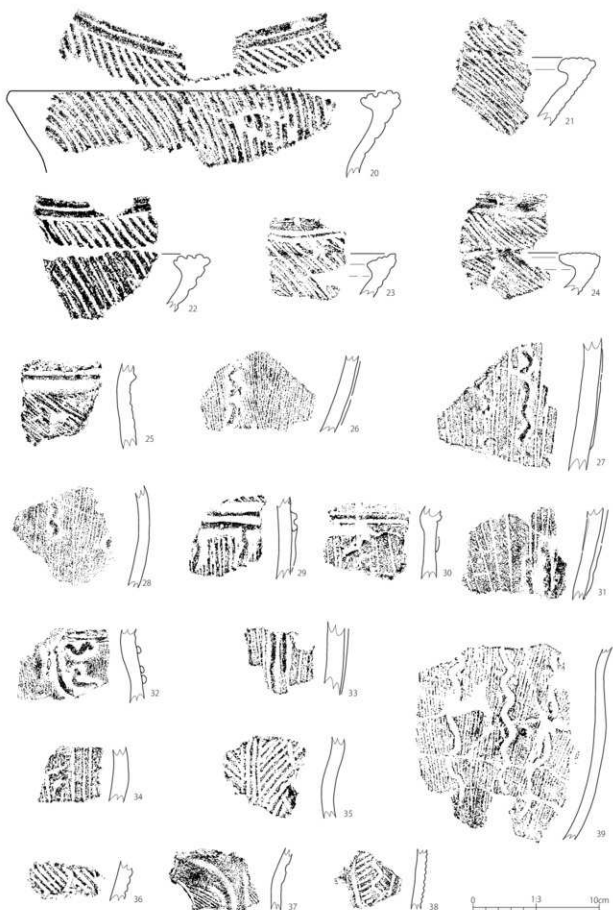


第164図 天間沢遺跡横道下地区 b地区遺構平面図、セクション図 ①

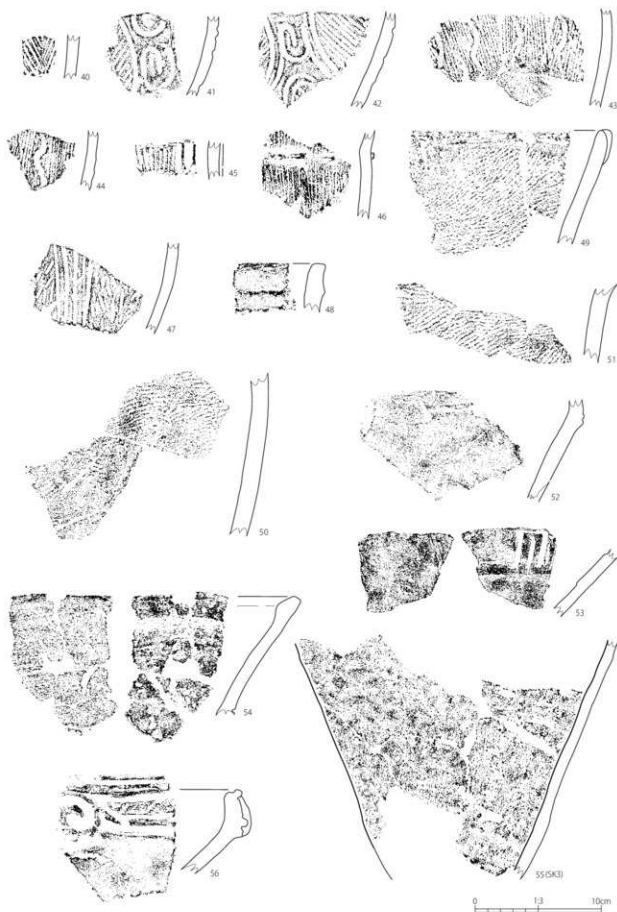




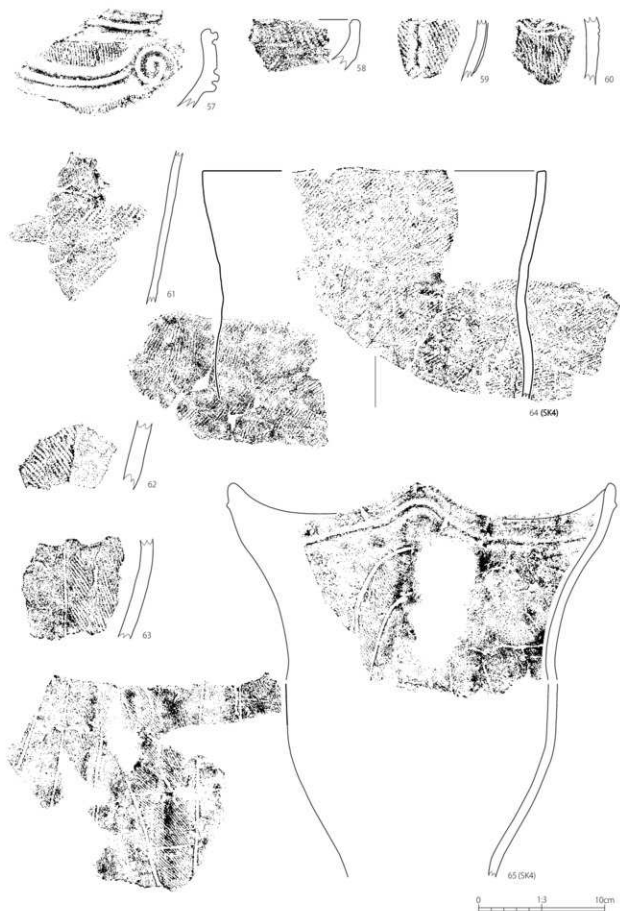
第 166 図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ①



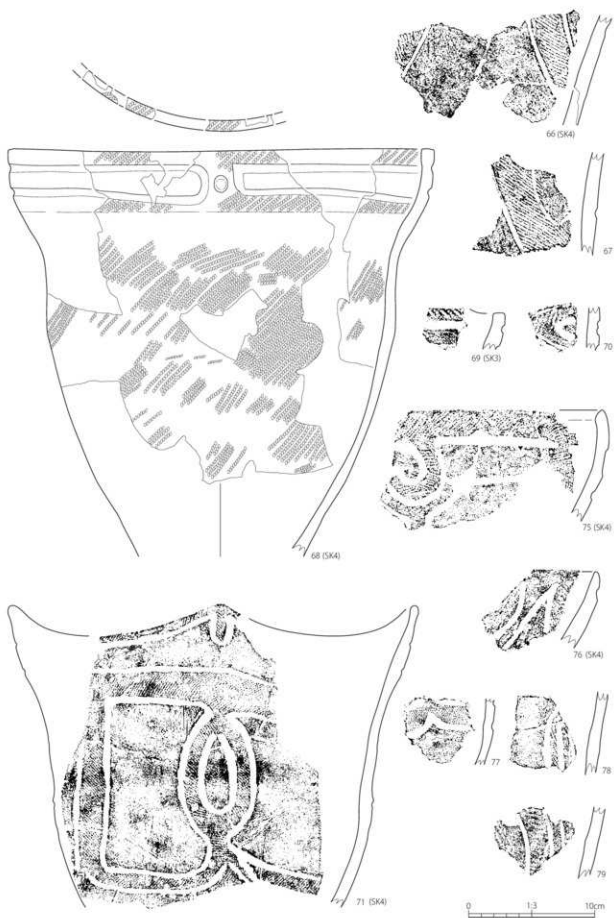
第 167 図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ②



第168図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ③



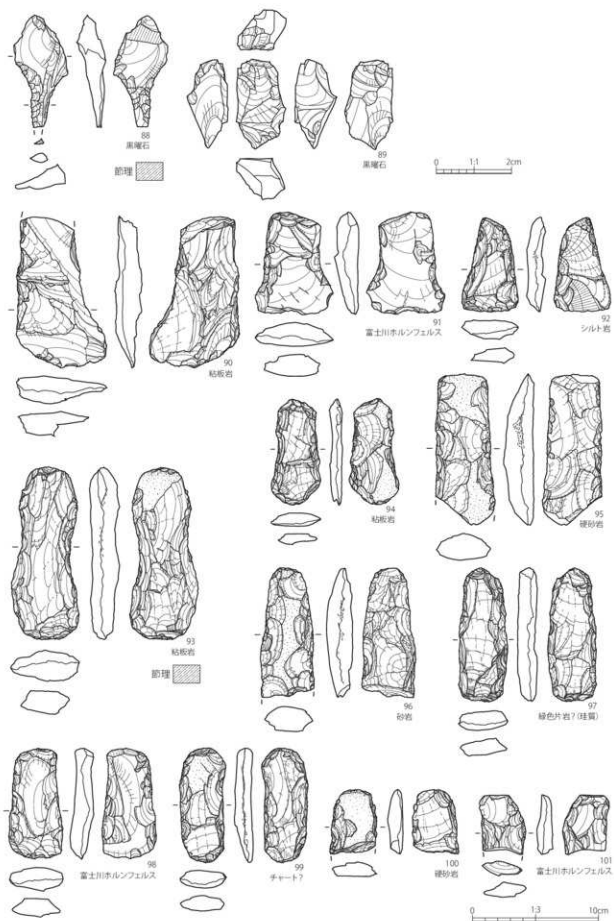
第169図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ④



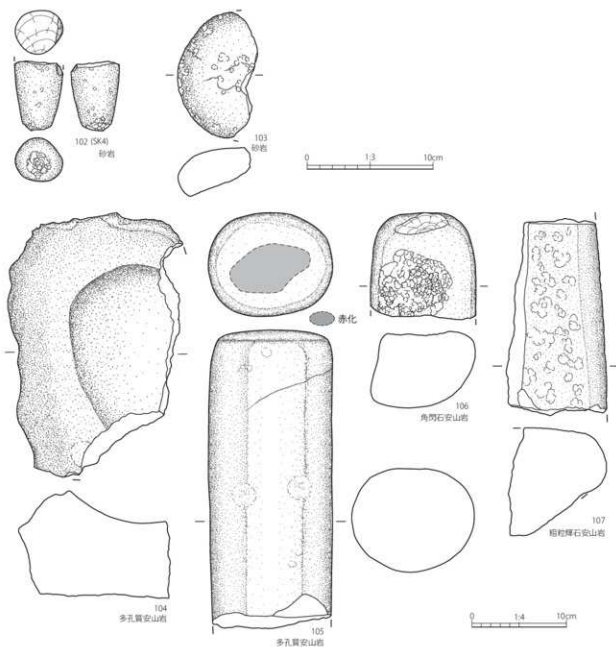
第170図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑤



第 171 図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑥



第172図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑦



第173図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑧

第18表 天間沢遺跡横道下地区(第23地区)出土土器観察表

採掘図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地番号
第166図版	1	b地区トレンチ東	5YR5/3にぶい赤褐	2.5YR5/4にぶい赤褐	III群A-1類	磨内I	断面三角形の隆帯の両側を押し引き爪形で押さえて区画とし、その下部にRLの縄文を施す。沈没による波状文を施す。	R18
第166図版PL-33	2	b地区トレンチ東	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	III群A-2類	曾利I	割みのある懸垂文の間に渦文を配する。	R16
第166図版PL-33	3	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	III群A-2類	曾利I	キャリパー形隆帯の側部、平隆帯の縦糸線を地文とし、その上から筋みのある浮線文を傾斜に平行して貼付け、そこから同じ浮線を懸垂させる。その交点には蛇頭状の浮点を突起させる。	R15
第166図版PL-33	4	b地区トレンチ	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	III群A-2類	曾利I	二本の平行する隆帯の中を密接した波状浮線文を貼付した傾斜から、下に縦糸線を施す。	R13
第166図版PL-33	5	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙	III群A-2類	曾利I?	大きく内湾する口縁部に沿って沈没を引き、そこから縦に太い集合沈没を施す。	R32
第166図版PL-33	6	b地区トレンチ西(配石遺構に伴う)	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	III群A-2類	曾利II	口縁部渦巻き状の波文をもつキャリパー形隆帯上部、区画内を太い条線や斜刺刺突、押し刺突で埋める。	R29
第166図版PL-33	7	b地区トレンチ西	10YR8/4 浅黄褐	7.5YR8/6 浅黄褐	III群A-2類	曾利II	口唇部渦巻き状の波文をもつキャリパー形隆帯口縁部、区画内を太い条線と刺突で埋める。	R5
第166図版PL-33	8	b地区トレンチ西	7.5YR7/4にぶい橙	5YR7/6橙	III群A-2類	曾利II	大型の隆帯の底部、地文に太い条線を縦に貼付。垂下J字状になる隆帯の一部が現れている。	R34
第166図版PL-33	9	b地区トレンチ西	10YR6/3にぶい黄褐	10YR8/4 浅黄褐	III群A-2類	曾利II	縄目文土器のくびれ部、粘土貼付け隆帯の上部に平隆帯の斜行条線を施す。	R32
第166図版PL-33	10	b地区トレンチ西	10YR6/4にぶい黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	III群A-2類	曾利II?	縄目文土器のくびれ部、平行する粘土線の間に波状の粘土貼付け単位隆帯を何重にも重ねて施す。	R28
第166図版PL-33	11	b地区トレンチ	10YR6/3にぶい黄褐	7.5YR7/6橙	III群A-2類	曾利II	平行する平隆帯の集合沈没文を区画全体に施す。その内の一帯二条に連続した爪形刻目を施し、そこから土紐の斜行懸垂文を垂下する。	R13
第166図版PL-33	12	b地区トレンチ西	10YR8/4 浅黄褐	10YR5/2 灰黄褐	III群A-2類	曾利II	縄目文土器のくびれ部、平隆帯の斜行条線を地文とし、粘土貼付けの波状隆帯を施す。	R22
第166図版PL-33	13	b地区トレンチ西	10YR7/4にぶい黄褐	7.5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	口縁部文様帯に条線を交錯する横四文と円文を配置する。	R32
第166図版PL-33	14	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	波状口縁部に粘土帯を貼り付けて厚手に文様帯とし、変形した横四文を施す。口唇上部に横J字の沈没を施す。体部には二本の浅い沈没による懸垂文を引き、区画内を条線で充填する。	R32
第166図版PL-33	15	b地区トレンチ西	7.5YR3/3 暗褐	5YR5/4にぶい赤褐	III群A-2類	曾利III?	隆帯による横四文の内部を浅い縦の条線によって埋める。器型が薄く、西日本系(北九州C型?)かもしれない。	R32
第166図版PL-33	16	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄褐	III群A-2類	曾利III	大型の縄目文土器の口縁部、表面に大きく内湾した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する沈没まで周回するように施す。	R7
第166図版PL-33	17	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐	III群A-2類	曾利III	大型の縄目文土器の口縁部、表面に大きく内湾した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する平隆帯まで周回するように施す。	R32
第166図版PL-33	18	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	縄目文土器の口縁部、表面に大きく内湾した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する平隆帯まで周回するように施す。	R32
第166図版PL-33	19	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	縄目文土器の口縁部、表面に大きく内湾した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する平隆帯まで周回するように施す。	R32
第167図版PL-34	20	b地区トレンチ東	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	III群A-2類	曾利III	縄目文土器の口縁部と胴部、表面に大きく内湾した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する平隆帯まで周回するように施す。斜行条線を地文に粘土貼の懸垂文を施す。	R16
第167図版PL-34	21	b地区トレンチ西	5YR7/6橙	5YR7/6橙	III群A-2類	曾利III	縄目文土器の口縁部、表面に大きく内湾した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に周回するように施す。	R5
第167図版PL-34	22	b地区トレンチ東	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	III群A-2類	曾利	縄目文土器の口縁部、表面に大きく内湾した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する平隆帯まで周回するように施す。	R7
第167図版PL-34	23	b地区トレンチ西	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR7/4にぶい橙	III群A-2類	曾利	縄目文土器の口縁部、表面に大きく内湾した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する平隆帯まで周回するように施す。	R7
第167図版PL-34	24	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利	縄目文土器の口縁部、表面に大きく内湾した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に周回するように施す。	R7
第167図版PL-34	25	b地区トレンチ西	10YR7/4にぶい黄褐	10YR7/4にぶい黄褐	III群A-2類	曾利III	縄目文土器のくびれ部、隆帯の下部に斜行条線を施す。	R32
第167図版PL-34	26	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	縄目文土器の胴部、縦の条線を地文とし、粘土貼による斜行懸垂文を貼付する。	R32
第167図版PL-34	27	b地区トレンチ東	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	大型の縄目文土器の胴部、太い条線を地文に、二本の粘土貼による懸垂文を施す。	R18
第167図版PL-34	28	b地区トレンチ西	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/3 褐	III群A-2類	曾利III	縄目文土器の胴部、太い条線を地文に、粘土貼による懸垂文を施す。	R20

神岡図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地番号
第167図 PL-34	29	b地区トレン チ西	5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利 III	龍目文土器の頸部、縦位の条線を地文とし、平行する二本の粘土紐貼付けの浮線から粘土紐の蛇行懸垂文を施す。	R5
第167図 -	30	b地区トレン チ西	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	III群 A-2 類	曾利 III	龍目文土器の頸部、縦位の条線を地文とし、頸部に平行する太い隆帯上に平截竹管による平行沈線を描く。そこから粘土紐の蛇行懸垂文を垂下する。	R5
第167図 PL-34	31	b地区トレン チ西	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5YR5/6 明赤褐	III群 A-2 類	曾利 III	龍目文土器の頸部、太い条線を地文に、粘土紐による二本の懸垂文を施す。	R20
第167図 PL-34	32	b地区トレン チ西	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	III群 A-2 類	曾利 III	うすい縦位条線を地文とし、頸部隆帯から粘土紐の浮線を垂下し渦文を描く。	R17
第167図 -	33	b地区トレン チ東	10YR6/3 にぶい黄褐	7.5YR8/6 浅黄褐	III群 A-2 類	曾利	太い縦位の条線を地文に二本の平行隆帯の懸垂文を施す。	R16
第167図 PL-34	34	b地区トレン チ東	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2 類	曾利	太い縦位条線を地文に粘土紐の蛇行懸垂文を垂下する。	R16
第167図 PL-34	35	b地区トレン チ西	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	III群 A-2 類	曾利 IV	三本の集合沈線による懸垂文に区切られた内部を、縦杉状の条線で充填し、その真ん中に蛇行懸垂文を施す。	R32
第167図 -	36	b地区トレン チ西	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	III群 A-2 類	曾利 IV	平帯帯状の斜行条線に蛇行懸垂文を施す。	R32
第167図 PL-34	37	b地区トレン チ西	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	III群 A-2 類	曾利 IV	深緑くびれ部分。沈線による渦文の内部を条線で埋める。	R32
第167図 PL-34	38	b地区トレン チ西	7.5YR4/2 灰褐	2.5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利 IV	平行沈線の懸垂文に区画された中に蛇行懸垂文を描き、それを軸に集合沈線で羽状条線を施す。	R20
第167図 -	39	b地区トレン チ西	7.5YR4/2 灰褐	5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利 IV	縦位の条線を地文とし、浅い沈線による蛇行懸垂文を施す。43・44 と同一個体か？	R20
第168図 -	40	b地区トレン チ西	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利 IV	縦杉状の条線文。	R17
第168図 -	41	b地区トレン チ西	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2 類	曾利 IV	鉢形土器の胴部？。沈線で区切られた文様帯に、沈線による連続した渦文を描き、地文として斜めの集合沈線で空間を埋める。90 と同一個体。	R32
第168図 PL-34	42	b地区トレン チ西	5YR4/1 褐灰	5YR5/6 明赤褐	III群 A-2 類	曾利 IV	鉢形土器の胴部？。沈線で区切られた文様帯に、沈線による連続した渦文を描き、地文として斜めの集合沈線で空間を埋める。60 と同一個体。	R5
第168図 -	43	b地区トレン チ西	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利	縦位の条線を地文とし、浅い沈線による蛇行懸垂文を施す。39・43 と同一個体か？	
第168図 -	44	b地区トレン チ東	7.5YR5/2 灰褐	5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利	縦位の条線を地文とし、浅い沈線による蛇行懸垂文を施す。39・42 と同一個体か？	
第168図 -	45	b地区トレン チ東	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	III群 A-2 類	曾利	二本単位の間隔に懸垂文の間を平行する条線で充填する。	R22
第168図 PL-34	46	b地区トレン チ西	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2 類	曾利	龍目文土器のくびれ部。縦位の条線を地文に、頸部に平行して二・一と交互に押し引かれた文様帯に粘土紐貼付け隆帯を施す。	R28
第168図 PL-34	47	b地区トレン チ西	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2 類	曾利 V	四本の集合沈線による懸垂文の区画内に、融れた八の字文で充填する。	R32
第168図 -	48	b地区トレン チ西	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利	口縁に沿って断面三角形の薄い隆帯を施す。	R32
第168図 PL-34	49	b地区トレン チ中央	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	III群 A-2 類	曾利	単節 L の縄文を横位を主体に器面全体に施し、地文とし、口唇部に沿って粘土紐を束ねて隆帯とし、口縁上に粘土紐で逆 U 状の突起を付ける。地文が施すだが、曾利式の施文に類似する。83・84 と同一個体。	R14
第168図 -	50	b地区トレン チ中央	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利	単節 L の縄文をランダムに器面全体に施す。84・85 と同一個体。	R14
第168図 -	51	b地区トレン チ中央	7.5YR7/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	III群 A-2 類	曾利	単節 L の縄文をランダムに器面全体に施す。83・85 と同一個体。	R14
第168図 PL-34	52	b地区トレン チ西	2.5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	III群 A-2 類	曾利	龍目の器底部に太く低い隆帯を貼付けて、その上に平截竹管による二本の平隆帯を引く。大型の浅鉢？	R5
第168図 PL-34	53	b地区トレン チ西	10YR7/4 にぶい黄褐	2.5YR6/6 橙	III群 A-2 類	曾利	浅鉢の内面に、肥厚して段になった部分に太い集合沈線を縦に施す。	R32
第168図 -	54	b地区トレン チ西	5YR5/3 にぶい赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	III群 A-2 類	曾利	大きくひろく無文口縁部。頸部に平行する沈線を施す。	R5
第168図 -	55	SK3	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	III群	中期	無文の深鉢土器胴部。	R19
第168図 PL-34	56	b地区トレン チ西	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR4/4 にぶい赤褐	III群 B-2 類	加曾利 K2	口縁部文様帯に隆帯による渦文と区画が施される。区画内は LR の縄文が充填される。	R2
第169図 PL-34	57	b地区トレン チ西	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	III群 B-2 類	加曾利 E3	隆帯による口唇部渦文つなぎの文をもつケリバー形深鉢口縁部。区画内を L の条線をやや斜めに縦で充填する。	R13
第169図 PL-34	58	b地区トレン チ西	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	III群 B-2 類	加曾利 E	口縁に平行して RL の縄文を施し、口縁から頸部に同じく縦に施す。	R32
第169図 PL-34	59	b地区トレン チ西	N31 暗灰	7.5YR7/6 橙	III群 B-2 類	加曾利 E	横位の RL の縄文を地文に粘土紐による蛇行懸垂文を施す。	R32
第169図 -	60	b地区トレン チ西	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐	III群 B-2 類	加曾利 E	縦位の R の条線を地文とし、平截竹管による沈線を描く。	R28

神宮 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第169図 -	61	SK4	10YR7/3 ぶい・黄橙	10YR8/4 浅黄橙	III 群	中期?	薄い深緑の胴部にやや空間をあけてLRの縄文を横位帯状文とする。	R34
第169図 -	62	b地区トレン シチ西	7.5YR6/4 ぶい・橙	2.5YR6/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利E?	LRの縄文を縦位に施文後、縦に幅広く開くように無文帯を形成する。	R7
第169図 PL-35	63	SK4	7.5YR6/4 ぶい・橙	5YR6/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利E?	細い沈線の垂下線に沿う単筋Lの縄文を縦位に施文する。65と同一個体の可能性がある。	R37・ R38・ R43・ R45
第169図 PL-35	64	SK4	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利E?	キャリバー形深緑の全面に、単筋Lの縄文を横位に施文。	R51・ R48
第170図 -	65	SK4	5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利E4	波状口縁に沿って断面三角の薄い隆帯を施文し、口縁突起部の直下に単筋Lの磨消縄文帯を上平部の逆U字形と合わせる形で配線しているようだが、縄文が施文されていない部分も多い。66・67と同一個体か。	R37・ R41
第170図 -	66	SK4	5YR6/6 橙	5YR7/6 橙	III 群 B-2 類	加曾利E4	単筋Lの縄文で幅広の磨消縄文を施文。65・67と同一個体か。	R47・ R49・ R50・ R32・ R34
第170図 PL-36	68	SK4・b地区 トレンシチ西	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	III 群 D-2 類	北白川C	比較的大きな砂粒を多く含む粘土で、灰黒色を呈す。ゆるやかなキャリバー形の深緑で、やや立ちぎみの口縁部文様帯には隅丸長方形の区画を浅い沈線で構成し、その内部は無文だが、それを囲んだ口唇部までLRの縄文を施す。胴上部は無文帯をつくり、胴部から底部まで横位LRの縄文を全体に施文する。11と12と54・75と同一個体。	R19
第170図 -	69	SK3	5YR6/6 橙	7.5YR5/3 ぶい・濁	III 群 D-2 類	北白川C	砂粒を多く含む粘土。口縁に沿って沈線を引き、口唇との間をRLの縄文で埋める。	R22
第170図 -	70	b地区トレン シチ東	10YR6/1 濁灰	10YR8/4 浅黄橙	III 群 D-2 類	北白川C	砂粒を多く含む白灰色の粘土で、沈線に区画された中をLRの縄文で充填する。	R36・ R37・ R44
第170図 PL-37	71	SK4	5YR6/8 橙	5YR6/8 橙	IV 群 A-1 類	称名寺I	波状口縁をもつキャリバー形深緑の上平部。口唇に沿って沈線を引き、細いLRの縄文で充填し、突起部の部分の下では沈線に干渉する。胴部には中津タイプのO字文を施す。O字文から下には平文字に縄文帯が囲って垂下帯と結合し、O字文全体を四角で囲む文様構成となる。	R42
第171図 PL-36	72	SK4	5YR6/6 橙	2.5YR5/6 明赤濁	IV 群 A-1 類	称名寺I	突起をもつ波状口縁で、中津タイプのO字文をキャリバー形の上部に施文。区画の沈線を引き前に、文様に合わせてLRの縄文を施文している。1・8と同一個体。	R46
第171図 PL-36	73	SK4	5YR6/6 橙	2.5YR5/8 明赤濁	IV 群 A-1 類	称名寺I	突起をもつ波状口縁で、中津タイプのO字文をキャリバー形の上部に施文。区画の沈線を引き前に、文様に合わせてLRの縄文を施文している。1・6と同一個体。	R35
第171図 PL-37	74	SK4	5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	IV 群 A-1 類	称名寺I	突起をもつ波状口縁で、中津タイプのO字文をキャリバー形の上部に施文。区画の沈線を引き前に、文様に合わせてLRの縄文を施文している。6・8と同一個体。	R8・ R37
第170図 PL-37	75	SK4・b地区 トレンシチ西	7.5YR7/4 ぶい・橙	5YR7/6 橙	IV 群 A-1 類	称名寺I	口唇部に沿ってLRの縄文を施文し、沈線を引き前に文様に合わせる形で同じ縄文を施文。磨消縄文になるように磨消文や帯状に沈線を施す。	R33
第170図 -	76	SK4	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 ぶい・橙	IV 群 A-1 類	称名寺I?	長石風の白い粘土を多く含む粘土で、滑面にして細く丸い砂粒を文様帯する。円を斜めに連結する沈線で区画し、円の内部をRLの縄文で充填する。	R32
第170図 -	77	b地区トレン シチ西	7.5YR6/4 ぶい・橙	5YR6/6 橙	IV 群 A-1 類	称名寺I	太い沈線の間を細いLRの縄文で充填する。	R7
第170図 -	78	b地区トレン シチ西	7.5YR6/4 ぶい・橙	2.5YR5/6 明赤濁	IV 群 A-1 類	称名寺I?	LRの磨消縄文による縦位のO字文あるいはJ字状の文様を描く。	R7
第170図 -	79	b地区トレン シチ西	7.5YR6/4 ぶい・橙	5YR6/6 橙	IV 群 A-1 類	称名寺I?	LRの磨消縄文を弧状に配置する。	R15
第171図 PL-37	80	b地区トレン シチ西	7.5YR5/3 ぶい・濁	7.5YR6/6 橙	IV 群 A-1 類	称名寺2?	ラフな平行沈線で中津タイプのO字文を施文するが、その内部は無文としている。	R9
第171図 -	81	表掘	10YR7/3 ぶい・黄橙	10YR7/3 ぶい・黄橙	IV 群 A-2 類	堀之内2	朝顔形深緑の口縁部。RLの帯縄文の連結した三角文様を描く。	R17
第171図 -	82	b地区トレン シチ西	7.5YR4/4 濁	5YR6/6 橙	IV 群 A-2 類	堀之内2	弧状のLRの磨消縄文を施文。	R18
第171図 -	83	b地区トレン シチ東	7.5YR4/2 灰濁	10YR5/2 灰黄濁	IV 群 A-2 類	堀之内?	RLの縄文を横位に施文した後、縦位に施文してラフな擬似羽状文としている。	R32
第171図 -	84	b地区トレン シチ西	10YR5/2 灰黄濁	7.5YR7/6 橙	IV 群	後期?	口縁に沿って平行する沈線と口唇上面に浅い沈線を施文する。	R2
第171図 -	85	b地区トレン シチ	5YR6/8 橙	5YR6/6 橙	縄文	不明	角ばった口唇をもつ口縁部。	R5
第171図 PL-37	86	7.5YR7/4 ぶい・橙	10YR8/4 浅黄橙	中期?	底部。			
第171図 PL-37	87	b地区トレン シチ西	7.5YR7/6 橙	5YR6/6 橙	IV 群 A-2 類	堀之内2?	網代筋のある底部。堀之内2式の8の字形浮点文と同じ工具の刺突痕がある。	

第19表 天間沢遺跡横道下地区（第23地区）出土石器観察表

所属 図版	番号	器種名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重さ (g)	観察	現地 番号	
第172図 PL.37	88	b地区トレンチ 西	鎌（ドリル）	黒曜石	(2.89)	1.33	0.58	1.31	先端欠損の鎌磨器。	R11
第172図 PL.37	89	b地区トレンチ 西	楔形石器	黒曜石	2.3	1.4	1.05	2.5	両端石核の残骸と思われる。	R6
第172図 PL.38	90	b地区トレンチ 西	打製石斧	粘板岩	(11.98)	7.18	2.12	156.97	頭部欠損のバチ形打製石斧。左右非対称なので短冊形の未製品の可能性もある。ボーリング溝南トレンチ西端、黒色土出土。	R27
第172図 PL.38	91	b地区トレンチ 西	打製石斧	富士川ホルン フェルス	7.95	6.17	1.85	101	バチ形の小型打製石斧。	R54
第172図 PL.38	92	b地区トレンチ 西	打製石斧	シルト岩	7.41	4.37	1.39	45.78	風化度の少ないやや粗粒の良質な富士川ホルンフェルス。小型で精緻的なので利器的な石器かもしれない。	R55
第172図 PL.38	93	b地区トレンチ 西	打製石斧	粘板岩	13.6	5.07	2.27	204.41	ややバチ形の短冊型の打製石斧。南トレンチ西側出土。	R11
第172図 PL.38	94	b地区トレンチ 西	打製石斧	粘板岩	8.34	3.85	0.94	38.59	ややバチ形の小型短冊型の打製石斧。	R54
第172図 PL.38	95	b地区トレンチ 西	打製石斧	硬砂岩	(11.98)	4.69	2.41	156.48	短冊形の打製石斧。刃部と頭部に新しい欠損。	R55
第172図 PL.38	96	b地区トレンチ 西	打製石斧	砂岩	(10.22)	4.19	2.04	107.67	刃部欠損の短冊形打製石斧。	R11
第172図 PL.39	97	b地区トレンチ 西	打製石斧	緑色片岩？	10.52	3.72	1.52	83.54	理質な石材の短冊形打製石斧。南トレンチ西側出土。	R54
第172図 PL.39	98	b地区トレンチ 西	打製石斧	富士川ホルン フェルス	8.71	4.22	1.47	72.65	短冊形の小型打製石斧。利器的な石器かもしれない。	R21
第172図 PL.39	99	b地区トレンチ 中央	打製石斧	チャート？	9	35.3	1.35	63.85	短冊形の小型打製石斧。全体に使用あるいは着柄による磨痕が観察される。	R52
第172図 PL.39	100	b地区トレンチ 西	打製石斧	硬砂岩	(5.05)	(3.69)	1.09	29.19	短冊形の小型打製石斧の頭部。南トレンチ出土。	R54
第172図 PL.39	101	b地区トレンチ 中央	打製石斧	富士川ホルン フェルス	(4.66)	3.46	1.29	25.34	短冊形の小型打製石斧の頭部。南トレンチ中央出土。	R52
第173図 PL.39	102	SK4	礫石	砂岩	(5.52)	3.84	3.4	97.11	軟質な砂岩製なので、石製だがソフトハンマー的な用途か。	R53
第173図 PL.39	103	b地区トレンチ 西	礫・磨石	砂岩	(10.01)	(6.32)	(3.81)	209.41	軟質な砂岩製。	R54
第173図 PL.39	104	表採	石皿	多孔質安山岩	(28.4)	(18.5)	11.1	8380	頂面をはっきりと造り出した石皿。約1/4残存。	R57
第173図 PL.39	105	b地区トレンチ 西	石棒	多孔質安山岩	(31.52)	13.2	10.9	8600	縄文時代中期と思われる大型石棒。基部が先端部か不明。	R56
第173図 PL.39	106	b地区トレンチ 西	台石	角閃石安山岩	(11.38)	11.1	8.1	1700	大きく窪む縦打痕をもつ。焼石に転用したのか変化が観察される。	R55
第173図 PL.39	107	b地区トレンチ 西	石棒？	粗粒輝石安山岩	(20.93)	(10.6)	(11.5)	3400	酸熱による大きな剥落で、石棒の側面が一部残るのみ。	R12

第8節 表面採集資料等の報告

市に寄贈された天間沢遺跡の採集品と、以前の調査で未報告であった資料をここで報告する。

1は、1971～72（昭和46～47）年に調査されたC地区14号建物跡から出土した深鉢の裝飾環状把手部分である。円環透しが表面に1、裏面に2つの3孔ある。縄文時代中期中葉の藤内2式に比定した。2は、1978（昭和53）年に調査されたF地区で出土した井戸尻式の深鉢底部である。先端部を円文とした扁平な隆帯の懸垂文を施し、LRの縄の絡糸体を縦位に回転施文したものを地文としている。『天間沢遺跡Ⅱ』1985で報告されているが、再実測した。

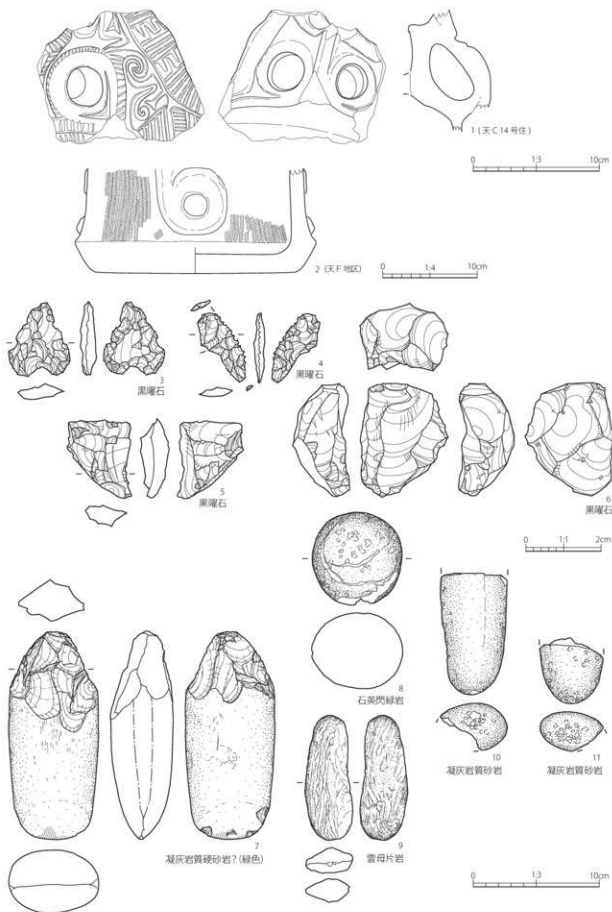
3は荒い成形による黒曜石製凹基無茎織で、あるいは未製品かもしれない。4は鋸歯縁加工の黒曜石製長脚織。5は黒曜石剥片製のノッチ。6は黒曜石製の多方向からの剥片剥離が観察される残核である。7は緑色を呈する凝灰岩質砂岩製の大型乳棒状石斧で、頭部着柄部の欠損を打撃剥離により再生している。8は磨・敲石、9～11は棒状の敲石である。

第20表 天間沢遺跡表面採集資料等 土器観察表

採出 図数	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第174図 PL-40	1	C地区 14号建物跡	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	III群 A-1 類	藤内2	深鉢の裝飾環状把手部分。円環透しが表面に1、裏面に2つの3孔ある。	R5
第174図 PL-40	2	F地区	2.5YR5/4 に近い橙	5YR5/6 明赤褐	III群 A-1 類	井戸尻	深鉢底部。先端部を円文とした扁平な隆帯の懸垂文を施し、LRの縄の絡糸体を縦位に回転施文したものを地文としている。	R1

第21表 天間沢遺跡表面採集資料等 石器観察表

採出 図数	番号	出土場所	器種名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	観察	現地 番号
第174図 PL-40	3		石織	黒曜石	1.91	1.57	0.39	0.92	未製品に近い粗い成形の凹基無茎織。菅原淳・菅原千恵・勝赤孝泰氏採集。	R3
第174図 PL-40	4		石織	黒曜石	(1.82)	(1.28)	0.28	0.35	先端部、左側部欠損の長脚織。鋸歯縁加工。菅原淳・菅原千恵・勝赤孝泰氏採集。	R3
第174図 PL-40	5		ノッチ	黒曜石	2.01	1.64	0.69	1.87	楔形石器からの転用？。菅原淳・菅原千恵・富田美孝氏採集。	R4
第174図 PL-40	6		石槌	黒曜石	2.92	2.25	1.46	9.22	打面を形成し、縦長および等比剥片を作出している。菅原氏ほか採集。	R9
第174図 PL-40	7		磨製石斧	凝灰岩質砂岩	16.6	7.14	5	844.94	緑色の硬質な石材を素材とした大型鉋刀のような乳棒状石斧。頭部欠損後、打撃による再生を行っている。藤内・天間沢の黒曜石あり。	R14
第174図 PL-40	8		敲石	石英閃緑岩	7.33	7.01	5.97	433.5	棒状で、比熱を受け亀裂多く、茶褐色に変色。昭和40年に奈木氏採集。	R1
第174図 PL-40	9		敲石	雲母片岩	9.92	3.74	2.12	84.54	棒状。菅原淳・菅原千恵・勝赤孝泰氏採集。	R2
第174図 PL-40	10		敲石	凝灰岩質砂岩	(9.17)	(5.21)	(4.73)	180.76	棒状。菅原淳・菅原千恵・勝赤孝泰氏採集。	R2
第174図 PL-40	11		敲石	凝灰岩質砂岩	(5.31)	(5.08)	(3.1)	90.14	棒状敲石の先端部。菅原淳・菅原千恵・勝赤孝泰氏採集。	R2



第174図 天間沢遺跡表面採集資料等 実測図

跡を検出した北久保遺跡(諸星 2001b)が立地する。破魔射場遺跡は、これらの遺跡と同じ段丘上に位置している。

破魔射場遺跡は、東名高速道路上り線の改良工事にもない、平成9年に発掘調査された遺跡である(諸星 2001a)(図版1上段左)。谷津原古墳群、北久保遺跡とともに、富士川サービスエリア関連遺跡として報告された(第1図)。

破魔射場遺跡では、縄文時代中期から後期の住居跡や炉跡、配石遺構、弥生時代や平安時代の遺構が見つかっている。縄文土器は、縄文時代中期後半の曽利式と後期前半の堀之内式を主体とし、前期から晩期にかけて幅広い型式が出土している。土器にともなって石器も出土している。石鏃や打製石斧、石錘、磨石、石皿を中心に、砕片を含めて3000点以上の発見があった(福島 2001)。

本稿において着目するのは、黒曜岩製の尖頭器である(図版1上段右)。当初は、本遺跡で出土した唯一の「石槍」(福島 2001: 146)として報告されたが、後年「石鋸に類似する資料」(成瀬 2021: 175)とも紹介されている。本資料が出土したB区は、最下層のⅦ層で縄文時代後期前半の遺構が検出されている(井鍋 2001)。しかし、本資料は遺構から出土していないため、詳細な帰属時期は不明である¹⁾(第2図)。現在は、富士山かぐや姫ミュージアムに所蔵されている。

研究の方法

破魔射場遺跡で出土した黒曜岩製尖頭器に対して、熱覚と、金属顕微鏡を通した石器表面の観察を実施した。顕微鏡を通することで、肉眼では認識でき

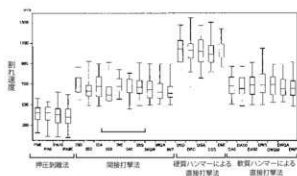
ない、石器表面に形成された微小な痕跡をとらえることが可能である。本稿で特に着目したのは、ガルウィングと被熱痕跡である。

岩石に加撃することで発生する破壊前線が、岩石内部の夾雑物や不均質な部分をとらえると、一対の翼のような様様を作り出される(ツイルク 2020)。石器の剥離面に観察されるこのV字形を、ガルウィングとよぶ。ガルウィングの二等分線は、破壊前線が発生した方向と対応するため、剥離方向の推定に役立つ。またガルウィングは、夾雑物や不純物の少ない、黒曜岩のような岩石上で観察しやすい。石器石材として多用されるフリントやチャートなどでは、いくらか良質であっても不明瞭に現れるとされる。

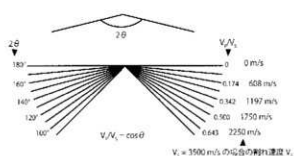
石器の破壊力学的研究のなかで、ガルウィングは剥離方法を同定する根拠になるとして着目されてきた。日本では山田ら(1989)が、ガルウィングの存在とその形成過程を紹介している。高倉ら(2004)は、ガルウィングの開き角から計算して表される割れ速度と剥離方法間に強い相関があることを示した。そして導き出される割れ速度から、剥離方法の同定が可能であることを、実験によって確かめた(第3図)。

彼らによると、剥離方法はグループⅠ: 押圧剥離法(金属、角による)、グループⅡ: 間接打撃法(石、金属、角、木による)や直接打撃法(角、木などの軟質ハンマーによる)、グループⅢ: 直接打撃法(石、金属などの硬質ハンマーによる)に分類でき、それぞれの割れ速度は350～500m/秒前後、600～800m/秒前後、900～1100m/秒前後にままとされる(高倉ほか2004)。

ツイルク(2020)は、ガルウィングの角度と割れ



第3図 割れ速度と剥離方法の関係(高倉ほか2004を改定)



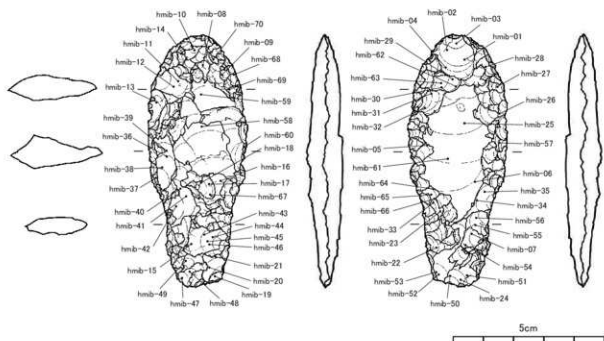
第4図 ガルウィングの開き角と割れ速度の関係(ツイルク 2020)

速度の対応を模式図で表した（第4図）。実際に石割りのスピードを測定していなくとも、石器表面に現れたガルウィングの開き角から、割れ速度を概算できることが示されている。彼らの成果から、割れ速度が大きいほど、石器表面に表されるガルウィングの開き角は小さく、対して割れ速度が小さいほどガルウィングの開き角は大きくなることが判明している。

岩石が熱を受けると、石器表面の変質や、傷が生じることがある。これを被熱痕跡とよぶ。中沢(2000)は、黒曜岩の表面に観察される被熱痕跡の特徴と生成過程を、実験と実資料の対比から明らかにした。北海道千歳市メボシ川2遺跡から出土した石器群から黒曜岩製資料を抽出し、観察したところ、黒曜岩の表面に現れる被熱痕跡として、ヒビ（クラック）、発泡、平坦もしくは凹凸のある折れ面が形成されるとした。さらにクラックは1a:曲線状、1b:ウロコ状、1c:蜘蛛の巣状の3種類に分けられた。これらクラックは、埋没後の自然作用で生じた移動や、使用により形成される線上痕とは、形態状で区別できるとされる。また、黒曜岩製資料のすべてではなく、一部に認められる痕跡であるため、一律した変化がある風化作用の所産ではないと結論づけた。

中沢の実施した実験では、黒曜岩におけるクラックの形成には、550℃で9時間以上の加熱を要するという結果が得られた。このことから、黒曜岩製石器に呈されるクラックは、石器が被熱した際にしか表れない特徴的なひび割れであると明示された。中沢(2000)は被熱痕跡の観察に実体顕微鏡を用いていた。しかし金属顕微鏡でも、同様の倍率での観察が可能と考えられる。

本稿では、落斜照明付金属顕微鏡 OLYMPUS BX-FM（南山大学上峯研究室所有）によって、100～200倍の倍率で石器を観察した。観察に際し、アルコールなどを用いて石器表面を拭いた。金属顕微鏡での撮影は、WRAYMER WRAYCAM-NOA2000（山田しよう氏より借用）を使用し、ノートPCにインストールされた WRAYMER 顕微鏡用カメラ制御ソフトウェア Micro Studio（ver.1.9.25633.20240519）上で実施した。対物レンズがガルウィングや被熱痕跡に正対するように石器を据え、石器の表裏70箇所を、写真撮影により記録した（第5図、図版1下段、図版2）。写真撮影の際には、ガルウィングと被熱痕跡がもっとも明瞭に観察できるよう、各箇所において光度や照射角を微調整した。



第5図 破魔射場遺跡出土尖頭器の金属顕微鏡による観察箇所

尖頭器の製作工程と使用・破壊

熟覧により、尖頭器の製作工程と使用、および破損について明らかにする。資料は全長8.3cm、幅3.2cm、厚さ1.2cmで、全体が入念に加工され、一定の器厚と左右対称形を得た、黒曜岩製の両面調整の尖頭器である。片面にはポジティブな剥離面残り、縦長剥片を素材として製作されたことがわかる。素材剥片の剥離面には無数の傷がついており、表面が粗くなっている。3cmほどの舌部を有し、返刺は作り出されているものの、顕著ではない。舌部にみられる、剥離と剥離の境界である稜線の部分には、若干の擦られた痕跡があり、摩耗しているようにみえた。また、尖頭器整形のための剥離はすべて、石器の縁辺から中心に向かって施されるが、舌部にはいくつかの、内側から縁辺に向かう剥離がみられる。尖頭器の先端には、周囲の二次加工の剥離痕に比べて大きな、もっとも新しい剥離が残されている。そのため先端部は尖らず、丸みを帯びているようにみえる。

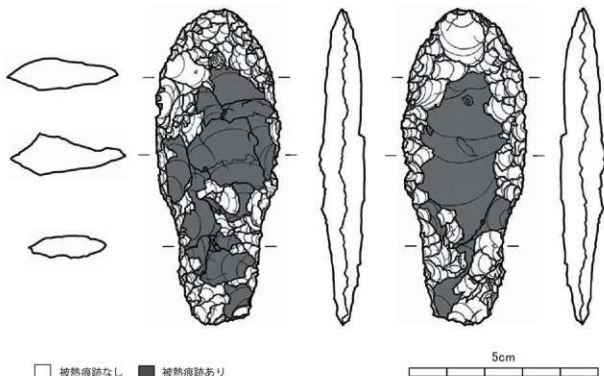
これらのことから、本資料における剥離の過程が、以下のとおり復原される。まず素材剥片のポジティ

ブな剥離面に残される傷からは、素材剥片の段階において、長期間ストレスを受ける環境下にあったことがわかった。素材剥片の形状のまま、遠距離にわたって運搬されていたことが考えられる。

素材剥片が作出された遺跡、また素材剥片に二次加工が施された遺跡については、現時点では明らかにする術がない。本資料は、石器石材原産地と破魔射場遺跡を結ぶ石器時代の人類の移動ルートのどこかで素材剥片となり、長距離にわたって運ばれ、両面に加工されたことがわかる。

舌部の稜線の摩耗や、内側から縁辺に向かう剥離痕は、この部位に石器以外のものが長期間、もしくは強く接していたことを示す。本資料には、柄が装着されていたと考えられ、石槍もしくは石鈎として、使用されたことをうかがわせる。

先端に残される大きな剥離痕は、周囲の二次加工に後続している点から、使用時に形成されたものと予想される。対象に突き刺す動作による衝撃の反動で剥離された結果、先頭部を欠失したと考えられる。これは、いわゆる衝撃剥離痕（御堂島1991）だとみなせる。



第6図 破魔射場遺跡出土尖頭器の被熱痕跡が確認された剥離痕

尖頭器表面のガルウィングと被熱痕跡

熟覧によって、石器製作工程と使用および破損の有り様を推察した。それに留まらず、肉眼ではとらえられない痕跡と、その形成理由を考察に加えることで、石器のライフヒストリーをより深く理解することができる。本石器における剥離の方法や被熱の有無を調べるため、金属顕微鏡を用いて、100～200倍の倍率で石器表面を観察した（第5図、図版1下段、図版2）。

まずは素材剥片の段階における運搬痕跡を呈する面について、200倍の倍率で観察したところ、クレータ状の小穴群が確認された（図版1下段：hmb-06、図版2：hmb-61）。これらは、素材剥片が運搬される際に被った、無数の傷である。小穴群が石器表面を覆い尽くしていたため、素材剥片の剥離方法や、その段階における被熱の有無は解説できなかった。

次に、素材剥片の二次加工の部分を観察した。二次加工は、尖頭器の内部にまで剥離痕の末端を到達させるものと、長さ数mmで外形の整形に注力されたものに分けられる。このうち前者の、石器中央部に到達する剥離痕では、ガルウィングと蜘蛛の巣状のクラックが同時に確認できた（図版1下段：hmb-23、図版2：hmb-41）。このときのガルウィングの開き角は、90°前後と小さく、割れ速度が比較的速かったことがわかる。高倉ら（2004）がグループⅢに分類するような、硬質ハンマーによる直接打撃法によって、粗く加工されたと考えられる。

後者の、尖頭器の外形整形に傾注する小さな剥離痕上には、いかなる被熱痕跡もみられず、ガルウィングのみが確認できた（図版1下段：hmb-19、図版2：hmb-26、63など）。これらのガルウィングの開き角は145°から170°と幅があるが、180°近くに達するものもある。このことから、比較的小さい割れ速度を発生させる剥離方法が実施されたことがわかる。高倉ら（2004）の分類におけるグループⅠの押圧剥離法、もしくはグループⅡの、角、木など軟質ハンマーによる直接打撃法が間接打撃法、いずれかの実施が示唆される。

破魔射場遺跡の尖頭器において、素材剥片に対する二次加工は、2段階に分けることが可能である（第

6図）。すなわち石器中央部にまで到達し、クラックがみられる剥離痕と、長さ数mmで、整形に注力された、クラックがみられない剥離痕である。クラックがみられる剥離痕が先行することから、二次加工の途中で熱を被っていることが明らかである。また両者はガルウィングの開き角に差異があり、それぞれで異なる剥離方法が実施されたことが予想される。

着柄時に生成されたと判断した剥離痕、および尖頭器先端にある、使用による衝撃の反動で形成されたと判断した剥離痕上では、角度120°前後のガルウィングがとらえられた（図版1下段：hmb-01、02、03、17、図版2：hmb-60など）。二次加工にみられる90°前後、もしくは180°近くに達するガルウィングとは区別される。また、被熱を示す痕跡が認められなかった。これらの剥離痕が、二次加工の段階にあった被熱イベント以降に形成されたことが確認された。舌部に観察される特徴的な剥離痕と、先端部の大きな剥離痕は、二次加工以降の、着柄や使用の所産だと考えられる。

肉眼による石器熟覧では、素材剥片、二次加工、着柄、使用および破損の、4段階が認識できた。また金属顕微鏡を用いた観察により、クラックの有無から、石器製作工程の途中で被熱イベントがあることがわかった。また石器の二次加工の剥離痕と、舌部や先端の特徴的な剥離痕は、ガルウィングの開き角に差異がみられ、割れ速度が異なることがわかった。その結果、破魔射場遺跡の尖頭器の変形は、素材剥片、被熱を受けるまでの粗い二次加工、被熱後の二次加工、着柄、使用および破損の、5段階で認識可能であることが明らかになった。

結論

本稿では、肉眼による石器熟覧と金属顕微鏡によるガルウィングと被熱痕跡の観察から、破魔射場遺跡出土の尖頭器の変形の過程の解明を試みた。その結果、本資料の製作から使用、廃棄までの道程を明瞭に認識できた。

まず、残存する素材剥離面の傷からは、素材剥片の状態で運搬されていたことが明らかになった。二次加工は、石器の中央部にまで至る粗めの剥離と、

細かな剥離の2段階に分けられた。二次加工の途中で被熱イベントがあったことが、金属顕微鏡による蜘蛛の巣状クラックの観察で判明した。緻密な二次加工に後続する剥離痕からは、尖頭器が着柄され、使用され、対象物に命中し衝撃を被ったことが示された。そして最後に破魔射場遺跡にて廃棄された事実がある。

肉眼と金属顕微鏡を用いた丹念な資料観察にもとづき、石器が変形していく過程に、詳細に迫ることができた。資料の観察というシンプルな方法が、今後も考古資料の理解に大いに有効であることを示せた。

謝辞

資料実見に際しては、富士山かぐや姫ミュージアムにお世話になった。富士市埋蔵文化財調査室には、本稿の発表の場を提供していただいた。厚く御礼申し上げる。

本稿の作成にあたっては、指導教員である上峯篤史准教授にご助言賜った。また金属顕微鏡は、南山大学上峯研究室所有のものをお借りした。

注

- 1) 破魔射場遺跡が立地する谷津原丘陵の頂上部、および南側傾斜地に広がる谷津原古墳群のSF-03土坑からは、黒曜岩原石が6点出土している(石川2001)。覆土から縄文時代中期後半の土器片が出土しており、当該期の土坑と考えられている。富士川下流域において、縄文時代中期に黒曜岩の流通があったことが明らかであり、本資料も当該時期に関わる可能性もある。

引用文献

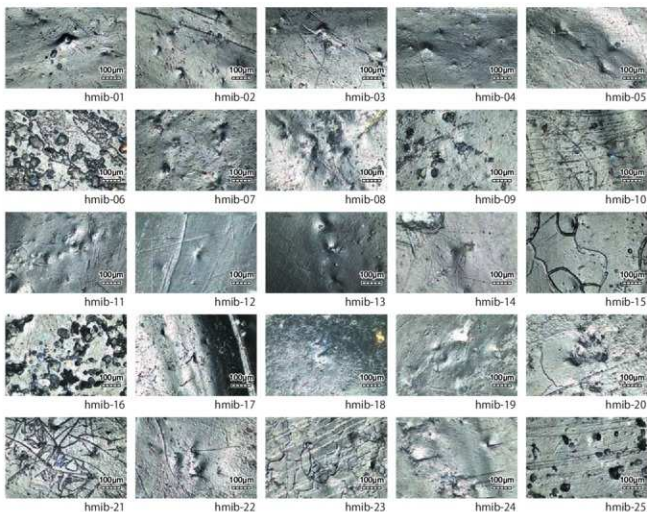
- 石川武男 2001「第V章 谷津原古墳群の調査」『富士川SA 関連遺跡(遺構編)』静岡県埋蔵文化財調査研究所編、p.130-161。
- 池谷昌彦・佐野五十三 1980「第IV章2節 土器」『本島』富士川町教育委員会、pp.52-82。
- 稲垣甲子男 1975「第7章第1節 考察 縄文時代の文化」『駿河山王』富士川町教育委員会、pp.102-114。
- 井鍋善之 2001「第III章3節 基本層序」『富士川SA 関連遺跡(遺構編)』静岡県埋蔵文化財調査研究所編、p.11-13。
- 加藤明秀・芹沢長介 1936「静岡県に於ける細線紋指紋薄手土器と其伴出石器」『考古学』7-9、pp.416-428。
- 高倉 純・出穂雅実 2004「フラクチャー・ウィングによる剥離方法の同定研究」『第四紀研究』43-1、日本第四紀学会、pp.37-48。
- ツルク・アレ 2020『石の目を読む』上峯篤史訳編著、京都大学学術出版会。
- 中沢祐一 2000「黒曜石石器群に認められる被熱痕跡の生成実験と量的評価」『第四紀研究』39-6、日本第四紀学会、pp.535-546。
- 成瀬陽介 2021「静岡県破魔射場遺跡出土の石鈎類似資料」『東海石器研究』11、東海石器研究会、pp.175-178。
- 福島志野 2001「第II章第1節3 石器」『富士川SA 関連遺跡(遺物編)』静岡県埋蔵文化財調査研究所編、pp.143-200。
- 御堂島正 1991「石鏃と有舌尖頭器の衝撃剥離」『古代』92、pp.79-97。
- 諸星雅一 2001a「第I章 調査に至る経緯」『富士川SA 関連遺跡(遺構編)』静岡県埋蔵文化財調査研究所編、p.1。
- 諸星雅一 2001b「第VI章 北久保遺跡の調査」『富士川SA 関連遺跡(遺構編)』静岡県埋蔵文化財調査研究所編、pp.162-189。
- 山田しょう・志村宗昭 1989「石器の破壊力学(2)」『旧石器考古学』39、旧石器文化談話会、pp.15-30。



破魔射場遺跡の遠景写真 (△の交点)



破魔射場遺跡出土の尖頭器 (富士山かぐや姫ミュージアム所蔵、筆者撮影)



破魔射場遺跡出土尖頭器の観察箇所 (hmib-01 から hmib-25、色調未調整)

図版 2



破魔射場遺跡出土尖頭器の観察箇所 (hmb-26 から hmb-70、色調未調整)

写真図版

PLATE

1. 中野沖田遺跡 第4地区1次調査



1. 2Tr 土層堆積 (南から)



2. 5Tr 土層堆積 (南から)

3. 東平遺跡第156地区1次調査



1. 1Tr 完掘 (南東から)



2. 1Tr 土層堆積 (南西から)

2. 滝下遺跡 Q地区1次調査



1. 1Tr 完掘 (南東から)



2. 1Tr 土層堆積 (南から)

4. 中原遺跡 第33地区1次調査



1. 2Tr 完掘 (南西から)



2. 6Tr 土層堆積 (南西から)

PL.2 第1章 令和5年度確認調査

5. 三新田遺跡 Q地区1次調査



1. 1Tr完掘（東から）



2. 1Tr土層堆積（北西から）

7. 天間沢遺跡 第72地区1次調査



1. 1Tr完掘（北西から）



2. 1Tr土層堆積（西から）

6. 舟久保遺跡 第77地区1次調査



1. 1Tr完掘（南西から）



2. 1Tr土層堆積（西から）

8. 亀窪遺跡 第1地区1次調査



1. 1Tr完掘（南東から）



2. 1Tr土層堆積（南から）

9. 善得寺廃寺跡 第9地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南東から)



2. 1Tr土層堆積 (南から)

10. 川窪遺跡 第7地区2次調査・3次調査



1. 3Tr完掘 (北東から)



3. 4Tr完掘 (南東から)

12. 東平遺跡 第158地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北東から)



2. 1Tr土層堆積 (北から)



2. 3Tr土層堆積 (北東から)



4. 4Tr土層堆積 (南から)

PL.4 第1章 令和5年度確認調査

11. 児森遺跡 第4地区1次調査



1. 1Tr 完掘 (南西から)



2. 1Tr SK1001 土層堆積 (南から)



3. 2Tr SD1001・SX1001 検出、遺物出土状況 (南西から)



4. 2Tr SD1001 土層堆積 (南東から)

13. 富士岡1古墳群 第20地区1次調査



1. 1Tr SZ1001 検出 (北から)



2. 1Tr SZ1001 検出 (北西から)



3. 1Tr 土層堆積 (北西から)



4. 1Tr 土層堆積 (北東から)

14. 比奈1古墳群 第12地区1次調査・2次調査



1. 3Tr 完掘 (南東から)



2. 3Tr 土層堆積 (南西から)



3. 4Tr 土層堆積 (南西から)



4. 9Tr 完掘 (西から)



5. 9Tr 土層堆積 (南西から)



6. 12Tr 完掘 (南東から)

15. 沖田遺跡 第170次調査地点1次調査



1. 1Tr 重機掘削の様子 (北東から)



2. 1Tr 完掘 (南東から)

PL.6 第1章 令和5年度確認調査

16. 川坂遺跡 第14地区1次調査



1. 1Tr完掘（北西から）



2. 1Tr土層堆積（北から）

18. 国久保遺跡 第13地区1次調査



1. 1Tr土層堆積（北から）



出土遺物

17. 東平遺跡 第121地区2次調査



1. 1Tr重機掘削の様子（南東から）



2. 1Tr土層堆積（西から）

19. 国久保遺跡 第14地区1次調査



1. 1Tr完掘（北西から）



2. 1Tr土層堆積（北から）

20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査



1. 調査地遠景（南から）



2. 調査地全景（南直上から）



1. SZJ-12 検出 (北東から)



2. 3・4Tr SZJ12 奥壁周辺検出 (南西から)



3. 6Tr SZJ12 側壁裏込め検出 (南東から)



4. 8Tr 千人塚古墳周溝検出 (南西から)



5. 8Tr 千人塚古墳周溝土層堆積 (南東から)



6. 10Tr 完掘 (南から)

20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査



出土遺物

21. 沢東A遺跡 第31次調査地点1次調査



1. 1Tr完掘 (南東から)



2. 2Tr土層堆積 (南から)

22. 厚原横道下遺跡 第7地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北西から)



2. 1Tr土層堆積 (東から)

PL.10 第1章 令和5年度確認調査

23. 柏原遺跡 第22地区1次調査



1. 1Tr 土層堆積 (南から)



2. 2Tr 土層堆積 (南から)

25. 宇東川遺跡 第34地区1次調査



1. 1Tr 遺構検出 (南東から)



3. 4Tr 5K1001 土層堆積 (北から)

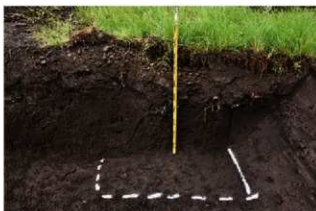
24. 天間沢遺跡 第73地区1次調査



1. 1Tr 完掘 (北東から)



2. 1Tr 土層堆積 (南から)



2. 1Tr 5B1001 土層堆積 (南から)



出土遺物

26. 外原遺跡 第1地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南東から)



2. 1Tr土層堆積 (東から)

28. 東平遺跡 第159地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積 (北から)

27. 富士岡1古墳群 第21地区1次調査



1. トレンチ完掘全景 (北東から)



2. 1Tr土層堆積 (南西から)

29. 舟久保遺跡 第78地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南東から)



2. 1Tr土層堆積 (南から)

PL.12 第1章 令和5年度確認調査

30. 善得寺城跡・東泉院跡 第10地区1次調査・2次調査



1. 1Tr 完掘 (南西から)



2. 1Tr 土層堆積 (南から)



3. 2Tr 完掘 (北東から)



4. 2Tr 遺物出土状況 (北西から)



2



2 (底面)



3 (内面)



3 (外面)

出土遺物

31. 沖田遺跡 第171次調査地点1次調査



1. 1Tr完掘（北西から）



2. 1Tr土層堆積（西から）

32. 国久保遺跡 第6地区2次調査



1. 2Tr完掘（南東から）

34. 花守遺跡 第10地区1次調査



1. 1Tr土層堆積（西から）



2. 3Tr土層堆積（南から）



2. 2Tr土層堆積（南から）



1（底面）

出土遺物

PL.14 第1章 令和5年度確認調査

33. 中野遺跡 第2地区 1次調査



1. 1Tr 完掘 (北東から)



2. 2Tr 土層堆積 (南から)



3. 2Tr 遺物 (1) 出土状況 (北西から)



4. 2Tr FP1001・1002 検出 (南から)



出土遺物

36. 祢宜ノ前遺跡 第8地区 1次調査



1. 1Tr 完掘 (南西から)



2. 1Tr 土層堆積 (西から)

35. 東平遺跡 第160地区1次調査



1. 1Tr 遺構検出 (南東から)



5. 3Tr 遺構検出 (南東から)



2. 2Tr SB1001・Pit1011 検出 (南東から)



3. 2Tr SB1001 検出 (南東から)



4. 2Tr Pit1011 検出 (南東から)



3

5

7

出土遺物

PL.16 第1章 令和5年度確認調査

37. 東平遺跡 第161地区1次調査



1. 1Tr 完掘 (北西から)



2. 1Tr 土層堆積 (西から)

38. 東下天間古墳群 第1地区1次調査



1. 2Tr 土層堆積 (北西から)



3. 11Tr 土層堆積 (南東から)

39. 天間沢遺跡 第74地区1次調査



1. 1Tr 完掘 (北東から)



2. 1Tr 土層堆積 (北から)



2. 9Tr 土層堆積 (北西から)



4. 12Tr 土層堆積 (南西から)

40. 天間沢遺跡 第75地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 2Tr土層堆積 (南から)

42. 富士岡1古墳群 第22地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 2Tr土層堆積 (東から)

41. 三新田遺跡 R地区1次調査



1. 1Tr土層堆積 (東から)



2. 2Tr土層堆積 (東から)

43. 厚原遺跡 第11地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北東から)



2. 1Tr土層堆積 (東から)

PL.18 第1章 令和5年度確認調査

44. 東平遺跡 第143地区2次調査



1. 2Tr完掘（北東から）



2. 2Tr土層堆積（南東から）

46. 東平遺跡 第162地区1次調査



1. 1Tr完掘（北西から）



2. 1Tr土層堆積（北から）

45. 沢上遺跡 第7次調査地点1次調査



1. 1Tr完掘（北西から）



2. 1Tr土層堆積（西から）

47. 中桁・中ノ坪遺跡 第24地区1次調査



1. 1Tr完掘（北西から）



2. 1Tr土層堆積（西から）

48. 東平遺跡 第163地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北西から)



2. 2Tr土層堆積 (南から)

50. 中島遺跡 第17地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北東から)



2. 1Tr土層堆積 (東から)

49. 舟久保遺跡 第79地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北西から)



2. 1Tr土層堆積 (北から)

51. 水神堂遺跡 第4地区1次調査



1. 1Tr土層堆積 (東から)



2. 3Tr完掘 (南西から)



1. 4次調査 上面遺構（南から）



2. 4次調査 下面遺構（南から）

天間沢遺跡 Q 地区



1. 1次調査 西側トレンチ



2. 1次調査 東側南北トレンチ



3. 1次調査 東側東西トレンチ



4. 3次調査 3～7Tr (西から)



5. 3次調査 1～3Tr (西から)



6. 3次調査 1Tr 遺構検出 (南から)



7. 3次調査 2Tr 遺構検出 (南から)



1. 3次調査 2Tr 南北セクション西壁 (東から)



2. 3次調査 2Tr 遺構全景 (南から)



3. 3次調査 2Tr SK1 (南東から)



4. 3次調査 2Tr SK1 セクション (南西から)



5. 3次調査 3Tr 遺構検出 (西から)



6. 3次調査 4Tr 遺構検出 (西から)



7. 3次調査 4Tr 集石 (南から)



8. 3次調査 7Tr SU1 土器検出状況 (東から)

天間沢遺跡 Q地区



1. 3次調査 7TrSK4 (東から)



2. 3次調査 7TrSK5 (南西から)



3. 4次調査 上面遺構 (西部分、北から)



4. 4次調査 上面遺構 (北東部分、南西から)



5. 4次調査 Pit63 遺物出土状況 (北西から)



6. 4次調査 Pit63 下層遺物出土状況 (北西から)



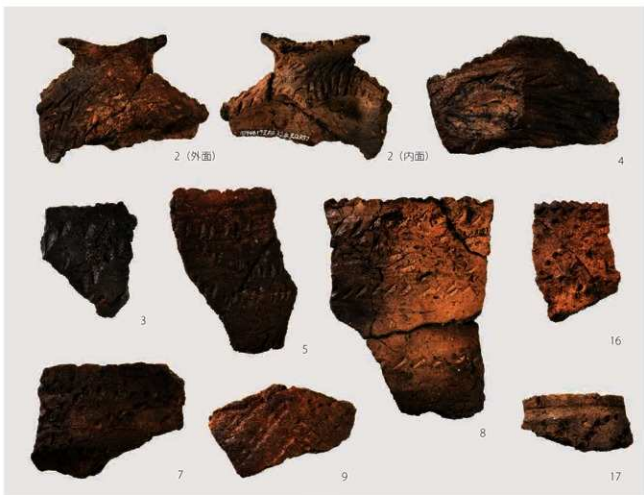
7. 4次調査 Pit66 (南西から)



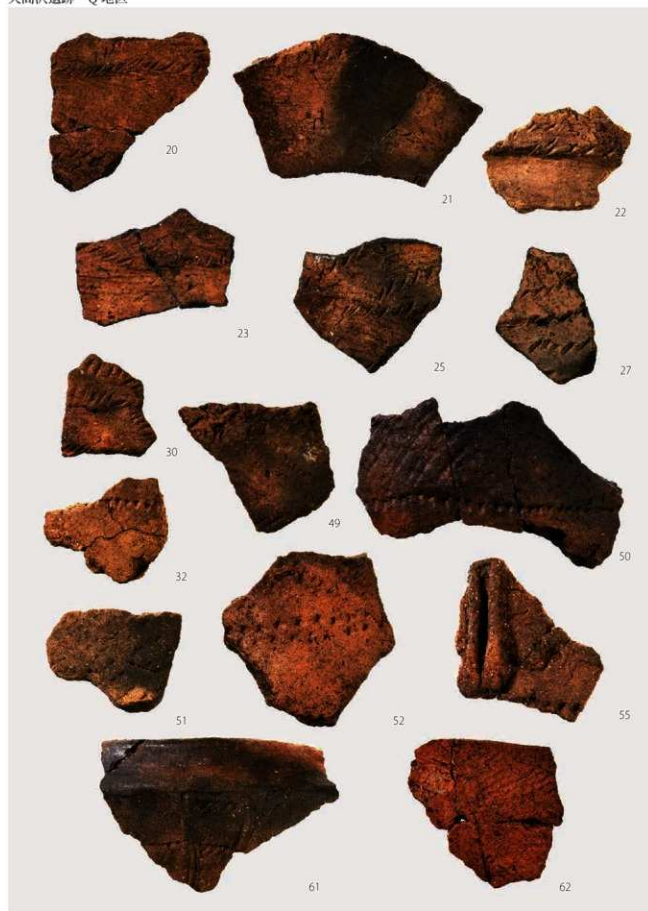
8. 4次調査 集石 (南から)



天間沢遺跡 Q 地区



出土遺物



天間沢遺跡 Q 地区



天間沢遺跡 R 地区



1. 1Tr 人力掘削の様子



2. 1Tr 全景 (南から)



3. 1Tr 東西セクション北壁 (南東から)

天間沢遺跡 S 地区



1. 1Tr 全景 (西から)

天間沢遺跡 V 地区



1. 調査地全景 (南東から)



2. 1Tr 全景 (南から)



3. 1Tr 南北セクション西壁 (東から)



2. 1Tr 東西セクション北壁 (南から)

天間沢遺跡 S地区



天間沢遺跡 T地区



1. 2Tr 全景 (西から)



2. 2Tr 東西セクション北壁 (南から)

天間沢遺跡 U地区



1. 1Tr・2Tr 全景 (西から)



2. 4Tr 全景 (南東から)



3. 4Tr 南北セクション西壁 (東から)



4. 6Tr 東西セクション北壁 (南東から)



5. 8Tr 全景 (西から)



6. 調査の様子 (4Tr、南から)

天間沢遺跡 横道下地区



1. b地区 全景（東から）



2. b地区 SK3 遺物出土状況（南から）



3. b地区 SK3 完掘（北から）



4. b地区 SK4 遺物出土状況（南西から）



5. b地区 SK4 完掘（北から）



1. b地区 配石遺構（東から）



2. b地区 配石遺構（北から）



3. b地区 石斧出土状況



4. b地区 土器出土状況



5. c地区 全景（北から）



6. c地区 トレンチ西側土層堆積状況（北から）



7. d地区 全景（北から）





天間沢遺跡 横道下地区



出土遺物



68 (SK4)



72 (SK4)



73 (SK4)

天間沢遺跡 横道下地区



出土遺物



91



92



94



90



93



95



96



天間沢遺跡 横道下地区





報告書抄録

ふりがな	ふじしないいせきはつちょうさほうこくしょ		
書名	富士市内遺跡発掘調査報告書		
副書名	令和5年度		
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告		
シリーズ番号	第82集		
編著者名	佐藤祐樹（編著）・若林美希（著）・後原芳郎（著）・村井映月（著）		
編集機関	富士市教育委員会（担当課：文化財課）		
所在地	〒417-0061 静岡県富士市伝法66番地の2 In 0545-30-7850		
市町村コード	22210		
発行年月日	令和7年3月28日		

調査番号	西記番号	所在地名		所在地		種別	遺構
		調査面積	調査方法	調査期間	東経		
R05-01	第1章	中野井田遺跡		北松野 1883-1 号		敷瓦層・瓦葺き・土間遺構	なし
	第2部	第4地区1次調査		35° 11' 12.88"	138° 35' 54.46"	古墳	土曜（古墳時代）
R05-02	第2部	79.727 m	確認調査	20230405～20230406		227	なし
	第2部	第5地区1次調査		伝説 1944-1		瓦葺き	なし
R05-03	第2部	Q地区1次調査		35° 10' 29.77"	138° 40' 44.75"	227	なし
	第2部	16.782 m	確認調査	20230404		44	なし
R05-04	第1章	三日月寺遺跡		西照本町 3423-3 号		瓦葺き・土間遺構	なし
	第2部	東平第136地区1次調査		35° 10' 00.77"	138° 40' 42.71"	なし	なし
R05-05	第1章	3.345 m	確認調査	20230417		43	なし
	第2部	中野井田遺跡		伝説 444-1 号		敷瓦層	なし
R05-06	第1章	第33地区1次調査		35° 10' 51.66"	138° 40' 15.47"	なし	なし
	第2部	243.806 m	確認調査	20230410～20230412		19	なし
R05-07	第1章	三日月寺遺跡		三日月寺 4-1		瓦葺き	なし
	第2部	Q地区1次調査		35° 08' 21.94"	138° 43' 44.11"	なし	なし
R05-08	第1章	7.392 m	確認調査	20230406		96	なし
	第2部	丹波谷遺跡		今 全 二 日 662-19		瓦葺き	なし
R05-09	第1章	第77地区1次調査		35° 10' 07.18"	138° 41' 32.84"	なし	なし
	第2部	2.128 m	確認調査	20230412		46	なし
R05-10	第1章	大間沢遺跡		大間沢 127-14		瓦葺き	なし
	第2部	第72地区1次調査		35° 12' 12.31"	138° 38' 29.13"	平安	土曜（平安時代）
R05-11	第1章	4.971 m	確認調査	20230419		7	なし
	第2部	亀田遺跡		敷瓦・土間 43 号		敷瓦層	なし
R05-12	第1章	陸田地区【第1地区1次調査】		35° 11' 20.43"	138° 43' 21.72"	なし	なし
	第2部	23.396 m	確認調査	20230414		29	なし
R05-13	第1章	三日月寺遺跡		今 全 二 日 1067-1		土間	なし
	第2部	第9地区1次調査		35° 10' 02.29"	138° 41' 49.03"	なし	なし
R05-14	第1章	3.636 m	確認調査	20230509		126	なし
	第2部	川原谷遺跡		浮田 185-1		瓦葺き・その他の遺構	なし
R05-15	第1章	第73地区2次調査		35° 10' 30.09"	138° 39' 05.74"	なし	なし
	第2部	6.821 m	確認調査	20230426		127	なし
R05-16	第1章	穴倉遺跡		中野 1379-2		瓦葺き	なし
	第2部	第4地区1次調査		35° 09' 39.25"	138° 44' 04.36"	古墳	土曜（古墳時代）
R05-17	第1章	22.930 m	確認調査	20230427		108	なし
	第2部	東平遺跡		伝説 2795-4 号		瓦葺き	なし
R05-18	第1章	東平第138地区1次調査		35° 10' 18.54"	138° 40' 15.91"	なし	なし
	第2部	7.048 m	確認調査	20230628		42	なし
R05-19	第1章	富士岡1古墳群		比古 2819-1		古墳	古墳（横穴式石室）
	第2部	第20地区1次調査		35° 10' 20.38"	138° 43' 32.50"	古墳	なし
R05-20	第1章	6.165 m	確認調査	20230525～20230526		192	富士岡F. 第66号墳か
	第2部	比古1古墳群		比古 2359-1 号		古墳	なし
R05-21	第1章	第12地区1次調査		35° 10' 27.05"	138° 43' 18.06"	なし	なし
	第2部	156.969 m	確認調査	20230605～20230607		178	なし
R05-22	第1章	丹波谷遺跡		今 全 二 日 124-5 号		その他の遺構・その他の遺構	なし
	第2部	第179地区調査地点1次調査		35° 09' 57.02"	138° 41' 36.77"	なし	なし
R05-23	第1章	9.279 m	確認調査	20230608		53	なし

調査 番号	所収 番号	所在地		種別	遺構	
		地区名	東経			
		調査面積	調査厚	調査期間	市道番号	
					特記事項	
R05-18	第1号	川俣遺跡	天間 845.6 ㎡		敷布地	なし
	第2号	第14地区1次調査	35 12° 30.37"	138 38° 09.39"	5	なし
R05-19	第1号	東平遺跡	仙止 2502.1 ㎡		集落跡	なし
	第2号	東平第121地区2次調査	35 10° 27.93"	138 40° 18.66"	42	なし
R05-21	第1号	仙久保遺跡	仙止 2245.23 ㎡		集落跡	なし
	第2号	第14地区1次調査	35 10° 19.51"	138 40° 49.04"	奈良・平安	土器（奈良時代・平安時代）
R05-22	第1号	仙久保遺跡	仙止 2245.23 ㎡		集落跡	なし
	第2号	第14地区1次調査	35 10° 23.82"	138 40° 54.86"	45	なし
R05-23	第1号	神谷古墳群	神谷 846.4 ㎡		古墳	古墳（横穴式石室墳）
	第2号	第13地区1次調査	35 10° 19.79"	138 44° 38.15"	200	古墳（古墳時代）
R05-24	第1号	比治古墳群	比治 2359.1 ㎡		古墳	なし
	第2号	第12地区2次調査	35 10° 27.05"	138 43° 18.06"	178	千人塚古墳・御前ノ第12号墳
R05-26	第1号	大東A遺跡	大東 180.2 ㎡		集落跡	なし
	第2号	第31次調査地点1次調査	35 11° 02.05"	138 38° 55.45"	33	なし
R05-27	第1号	厚原遺跡	厚原 1200.4 ㎡		敷布地	なし
	第2号	第7地区1次調査	35 11° 17.18"	138 39° 43.78"	15	なし
R05-28	第1号	新田遺跡	新田 187.1 ㎡		集落跡	なし
	第2号	第22地区1次調査	35 08° 06.42"	138 44° 49.64"	97	土器（古墳時代）
R05-29	第1号	天間沢遺跡	天間 1022.1 ㎡		集落跡	なし
	第2号	第73地区1次調査	35 12° 36.28"	138 38° 37.43"	7	なし
R05-30	第1号	小栗川遺跡	小栗 491.4 ㎡		集落跡	竪穴建物・土坑
	第2号	第34地区1次調査	35 10° 13.77"	138 42° 08.86"	蔵マ・古墳・奈良・平安	土器（縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代）
R05-31	第1号	外郎遺跡	外郎 636.1 ㎡		敷布地	なし
	第2号	第1地区1次調査	35 11° 34.43"	138 35° 13.83"	220	なし
R05-32	第1号	宮土岡古墳群	宮土岡 1704.1 ㎡		古墳	なし
	第2号	第21地区1次調査	35 10° 17.26"	138 43° 34.31"	192	なし
R05-33	第1号	東平遺跡	仙止 2505.1 ㎡		集落跡	なし
	第2号	東平第159地区1次調査	35 10° 26.60"	138 40° 19.17"	42	なし
R05-34	第1号	仙久保遺跡	仙止 2245.23 ㎡		集落跡	なし
	第2号	第78地区1次調査	35 10° 10.34"	138 41° 05.89"	46	なし
R05-35	第1号	青柳今城跡・東原遺跡	今原 847.6 ㎡		集落跡・城跡群・社寺跡	なし
	第2号	第30地区1次調査	35 09° 54.67"	138 41° 19.10"	奈良・平安	土器（奈良時代・平安時代）
R05-36	第1号	丹波遺跡	丹波 495.3 ㎡		その他の遺跡・その他の遺	なし
	第2号	第171次調査地点1次調査	35 09° 41.39"	138 42° 07.59"	53	なし
R05-37	第1号	仙久保遺跡	仙止 2245.23 ㎡		集落跡	竪穴建物
	第2号	第6地区2次調査	35 10° 12.22"	138 41° 01.63"	奈良・平安	土器（奈良時代・平安時代）
R05-38	第1号	小栗川遺跡	小栗 491.4 ㎡		集落跡・その他の遺	伊
	第2号	第2地区1次調査【	35 11° 08.29"	138 36° 08.17"	弥生	土器（弥生時代）
R05-39	第1号	北守遺跡	北守 225.1 ㎡		敷布地	なし
	第2号	第30地区1次調査	35 09° 39.51"	138 43° 34.05"	66	なし
R05-40	第1号	東平遺跡	仙止 2502.1 ㎡		集落跡	竪穴建物・土坑・ビット
	第2号	東平第140地区1次調査	35 10° 18.28"	138 40° 26.63"	奈良・平安	土器・陶磁器・金属製品（奈良時代・平安時代）
R05-41	第1号	長谷ノ原遺跡	長谷ノ原 1619 ㎡		集落跡	なし
	第2号	第8地区1次調査	35 09° 55.16"	138 43° 34.61"	57	なし

調査 番号	所収 番号	所収道路名 地区名		所在地		種別	遺構
		調査面積	調査理由	北緯	東経		
R05-42	第1章 第2節 37	東平道跡 東平第161地区1次調査	15.046㎡	確認調査	20231106	集落跡	なし
						42	
R05-43	第1章 第2節 38	大関古墳群 第1地区1次調査	74.149㎡	確認調査	20231107～20231108	古墳	なし
						縄文	土器（縄文時代）
R05-44	第1章 第2節 39	野間寺遺跡・東平道跡 第10地区2次調査	7.525㎡	確認調査	20231023～20231025	集落跡・城郭跡・社寺跡	なし
						平安～中世	土器（平安時代～中世）
R05-46	第1章 第2節 39	大関古墳群 第74地区1次調査	5.893㎡	確認調査	20231102	集落跡	なし
						7	なし
R05-47	第1章 第2節 40	川窪道跡 第7地区3次調査	10.567㎡	確認調査	20231121	集落跡・その他の遺構	溝・ピット
						古墳	土師器（古墳時代）
R05-48	第1章 第2節 40	大関古墳群 第75地区1次調査	28.269㎡	確認調査	20231129～20231130	集落跡	なし
						7	なし
R05-49	第1章 第2節 41	三新川道跡 K地区1次調査	17.691㎡	確認調査	20231120	集落跡	なし
						96	なし
R05-50	第1章 第2節 20	神谷古墳群 第13地区2次調査	5.512㎡	確認調査	20231121～20231122	古墳	なし
						古墳	須恵器（古墳時代）
R05-51	第1章 第2節 42	富士岡古墳群 第22地区1次調査	10.337㎡	確認調査	20231225	古墳	なし
						138 43° 42.23″	なし
R05-52	第1章 第2節 43	岸道跡 第11地区1次調査	16.134㎡	確認調査	20240111	集落跡	なし
						138 39° 24.76″	なし
R05-53	第1章 第2節 44	東平道跡 東平第143地区2次調査	10.644㎡	確認調査	20240111	集落跡	なし
						42	なし
R05-54	第1章 第2節 45	沢上道跡 第7次調査地点1次調査	4.203㎡	確認調査	20240214	集落跡	なし
						138 36° 57.66″	なし
R05-55	第1章 第2節 46	東平道跡 東平第162地区1次調査	4.935㎡	確認調査	20240118	集落跡	ビット
						138 40° 19.29″	奈良・平安 土器（奈良時代・平安時代）
R05-56	第1章 第2節 47	中野・中ノ井道跡 第24地区1次調査	5.469㎡	確認調査	20240313	集落跡	なし
						138 39° 36.42″	奈良・平安 土器（奈良時代・平安時代）
R05-57	第1章 第2節 48	東平道跡 東平第163地区1次調査	18.023㎡	確認調査	20240304～20240306	集落跡	ビット・溝
						138 40° 05.12″	奈良・平安 土器（奈良時代・平安時代）
R05-58	第1章 第2節 49	丹次道跡 第79地区1次調査	6.255㎡	確認調査	20240227	集落跡	なし
						138 41° 22.41″	なし
R05-59	第1章 第2節 50	小田道跡 第17地区1次調査	4.365㎡	確認調査	20240313～20240315	集落跡	なし
						49	なし
R05-60	第1章 第2節 51	太神安道跡 第4地区1次調査	16.250㎡	確認調査	20240313	集落跡	なし
						138 42° 02.33″	奈良・平安 土器（奈良時代・平安時代）
SS8	第2章 第2節	大関古墳群 Q地区（第17地区）1次調査	125㎡	確認調査	19830418～19830419	集落跡	なし
						7	なし
H03	第2章 第2節	大関古墳群 Q地区（第17地区）2次調査	㎡	工事立会い	1991219	集落跡	なし
						7	なし
H14	第2章 第2節	大関古墳群 Q地区（第17地区）3次調査	365㎡	確認調査	20020508～20020520	集落跡	産物土器・ビット・土坑
						縄文	縄文土器・石器
H14	第2章 第2節	大関古墳群 Q地区（第17地区）4次調査	683㎡	記録保存調査	20020527～20020701	集落跡	ビット
						縄文	縄文土器・石器

調査 番号	所収 番号	所在地		種別	遺構
		地区名	北緯 東経		
		調査面積	調査期間	市道標番号	特記事項
103	第2中 第3節	大間沢遺跡 K地区(第18地区)1次調査	天照 1943.1 35° 12' 52.04" 138° 38' 47.19"	集落跡	なし
		22 ㎡ 確認調査	19920316 ~ 19920319	7	なし
104	第2中 第4節	大間沢遺跡 S地区(第19地区)1次調査	天照 1001-4 35° 12' 31.93" 138° 38' 41.50"	集落跡	なし
		65 ㎡ 確認調査	19920708 ~ 19920710	7	なし
104	第2中 第5節	大間沢遺跡 T地区(第20地区)1次調査	天照 1127-1 外 35° 12' 22.20" 138° 38' 37.13"	集落跡	なし
		312 ㎡ 確認調査	19911013 ~ 19921026	7	なし
104	第2中 第6節	大間沢遺跡 U地区(第21地区)1次調査	天照 591-1 35° 12' 24.35" 138° 38' 25.11"	集落跡	なし
		194 ㎡ 確認調査	19921020 ~ 19921027	7	なし
104	第2中 第3節	大間沢遺跡 V地区(第22地区)1次調査	天照 1785-21 35° 12' 46.61" 138° 38' 53.86"	集落跡	なし
		40 ㎡ 確認調査	19900225	7	なし
562	第2中 第7節	大間沢遺跡 横道下地区(第23地区)2次調査	天照 1001-4 35° 12' 36.60" 138° 38' 41.74"	集落跡	配石遺構・炉穴・土坑
		400 ㎡ 確認調査	19870907 ~ 19870921	7	縄文土器・石器

富士市埋蔵文化財調査報告 第82集

富士市内遺跡発掘調査報告書

— 令和5年度 —

発行年月日 令和7年3月28日

編集・発行 富士市教育委員会

〒417-0061 静岡県富士市伝法66番地の2

TEL 0545-30-7850 FAX 0545-30-6210

E-mail: ky-bunkazai@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 株式会社文光堂

〒417-0041 静岡県富士市御幸町3-18

(富士市行政資料登録番号 R6-53)